

平成22年度

教育委員会事務の点検・評価に関する報告書

(平成21年度対象)

平成23年1月7日

岡山県教育委員会

# 目 次

[はじめに]	-----	1
I 平成21年度岡山県教育委員会の活動状況	-----	2
1 教育委員会会議の開催状況	-----	2
2 施策・事業等に関する審議内容	-----	3
3 委員協議会の開催状況	-----	10
4 意見交換会・懇談会等	-----	11
5 「岡山県教育振興基本計画」及び「岡山県教育行政重点施策」の策定	---	12
6 岡山県教育委員会の活動に対する評価	-----	13
II 平成21年度個別の施策・事業の実施状況	-----	14
1 生涯学習の振興	-----	15
2 家庭・地域社会の教育力の充実	-----	23
3 学校教育の充実	-----	35
4 伝統文化の振興	-----	81
III 点検・評価に関する有識者からの意見及び教育委員会の考え方	-----	88
意見を頂いた学識経験者	-----	91
岡山県教育委員会委員	-----	91

## (参考資料)

- 1 地方教育行政の組織及び運営に関する法律（昭和31年法律第162号）抜粋  
※平成20年4月1日施行 第27条
- 2 条例、規則等の制定・改廃

本文中の **新** は新規事業を、**国** は文部科学省の補助事業等を表します。

## [はじめに]

この報告書は、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第27条の規定により、岡山県教育委員会の権限に属する事務の平成21年度における管理及び執行の状況について、点検及び評価を行った結果を取りまとめ、岡山県議会に提出するとともに、一般に公表するものであります。

今日、社会経済構造が大きく変化するとともに、教育をめぐる状況も改革・変動の時期にあります。また、教育行政に対しては、その中立性や継続性を確保するとともに、住民の様々な考えや多様な価値観などを尊重しながら、豊かな発想を持って、創意工夫を図りながら施策を展開することが求められております。

そうした中、教育委員会は、教育の責任ある担い手としての当事者意識をしっかりと持ちながら、地方から教育改革を進めるとの強い決意を持って臨んでいかなければなりません。

岡山県教育委員会では、教育行政の基本方針等の重要案件について、委員協議会での事前協議や教育委員会会議での複数回の協議を行い、さらには、必要に応じて現地調査を実施するなど、議論を尽くして決定することとしております。

そして、決定した基本方針等に基づき、教育長とその統括する事務局において、具体的な事業や日々の教育事務を執行することにより、着実かつ効果的な教育行政の推進に努めているところであります。

岡山県教育委員会としましては、今後とも、施策や事務事業の点検及び評価を通じて、その効果の検証と改善を絶えず図りながら、教育行政を進めてまいりたいと考えておりますので、引き続き皆様の御理解と御協力を賜りますよう、よろしく願いいたします。

平成23年 1 月

岡山県教育委員会

# I 平成21年度岡山県教育委員会の活動状況

人口減少社会の到来や少子・高齢化の急激な進展、社会経済構造の変化など、時代が大きな変革期を迎えている中、これからの時代を担う人づくりのために教育の果たすべき役割は非常に大きなものがあります。

特に、教育基本法の改正に始まり、教育3法の改正、学習指導要領の改訂など、教育をめぐる状況は今まさに大きな改革・変動の時期にあり、教育の責任ある担い手として当事者意識をしっかりと持ちながら、地方から教育改革を進めるとの強い決意を持って臨んでいかなければなりません。

岡山県教育委員会としては、子どもたちの明るい笑顔と豊かな人生のため、また、活力ある地域社会づくりのために、本県独自の教育施策も積極的に実施しながら、家庭・地域社会とも連携を図りつつ、創意工夫を生かした教育行政を推進してまいりたいと考えております。

そうしたことから、岡山県教育委員会では、小・中・高等学校、特別支援教育や教育機関、各地域の教育活動の状況を把握するため現地を訪問し、関係者の生の声を把握し、その上で、岡山県の実情に応じた教育施策の決定に努めてきました。

また、事務局からの提案に対しても、各委員がそれぞれの専門性、識見に基づき、様々な角度から真剣に議論し、事業によっては、委員協議会の開催や複数回での審議を行ってきました。

## 1 教育委員会会議の開催状況

岡山県教育委員会は、平成21年度は、年間20回の教育委員会会議を開催し、議案33件、協議事項32件、報告事項49件などについて審議等を行いました。

(資料1) 教育委員会会議の開催状況

	開催月日	議案	協議事項	報告事項	資料提供	その他	計	傍聴者
1	平成21年4月3日(金)	0	0	3	3	1	7	4
2	平成21年4月17日(金)	0	1	2	1	0	4	0
3	平成21年5月1日(金)	0	0	2	0	0	2	6
4	平成21年5月22日(金)	3	0	5	3	0	11	7
5	平成21年6月5日(金)	1	3	3	2	0	9	2
6	平成21年7月3日(金)	3	2	3	4	1	13	3
7	平成21年7月17日(金)	2	3	1	4	1	11	0
8	平成21年8月21日(金)	2	4	5	8	0	19	1
9	平成21年9月4日(金)	0	3	4	3	0	10	1
10	平成21年10月2日(金)	1	1	0	7	0	9	0
11	平成21年10月16日(金)	2	0	1	5	0	8	1
12	平成21年10月30日(金)	1	3	1	1	0	6	1
13	平成21年11月20日(金)	6	2	2	2	0	12	0
14	平成21年12月4日(金)	2	0	4	1	0	7	1
15	平成21年12月18日(金)	0	1	1	4	0	6	1
16	平成22年1月8日(金)	1	2	2	0	1	6	1
17	平成22年1月22日(金)	1	2	2	3	1	9	1
18	平成22年2月5日(金)	2	2	1	1	0	6	1
19	平成22年2月19日(金)	1	2	2	2	0	7	0
20	平成22年3月23日(火)	5	1	5	3	0	14	1
	計	33	32	49	57	5	176	32

## 2 施策・事業等に関する審議内容

教育委員会会議において、「平成21年度基本方針」に基づき、基本的な方向性を決定するとともに、個別の施策・事業等については、適切な審議に努め、広範囲にわたる教育行政施策を着実に推進しました。

### (資料2)「平成21年度基本方針」

変化の激しい今日の社会に適切に対応しながら、生涯にわたって心豊かにたくましく生きていく力を持ち、豊かで活力ある社会を築き支えていく意欲と実践力を備えた人間を育成することが、教育の果たすべき役割です。

岡山県教育委員会では、県の行動計画である「新おかやま夢づくりプラン」等を踏まえ、人間尊重の精神を基調とし、「おかやま教育ビジョン」や「岡山県人権教育推進プラン」等に基づき、「生涯学習社会おかやま」の実現を目指して、生涯学習、家庭・地域社会の教育、学校教育、伝統文化の各分野にわたる教育行政を総合的に推進します。

特に、平成21年度においては、「確かな学力の向上」と「豊かな心の育成」を重要な柱とします。子ども一人ひとりを大切にしたいきめ細かな指導を充実させるとともに、教員の意識改革と指導力向上に努め、子どもの学習意欲の喚起を促す授業改革に取り組みます。また、体験活動など就学前から高等学校段階までの心の教育の充実を図るとともに、いじめ・不登校等の問題の解決に向けて、専門家や関係機関等との連携を強化するなど、教育相談体制の充実を図ります。

また、特別支援教育の推進、社会全体で子どもをはぐくむ環境づくり、子どもの安全・安心の推進についても、重点的に取り組みます。

さらに、教育の振興に関する施策を総合的かつ計画的に推進するため、概ね10年先を見通した本県教育の目指すべき姿を踏まえ、今後5年間を期間とする「岡山県教育振興基本計画」を平成21年度中に策定し、この計画をもとに、着実に歩みを進めます。

諸施策の実施に当たっては、県教育委員会と市町村教育委員会との適切な役割分担を踏まえ、相互の信頼関係のもと、それぞれがその責任において主体的な姿勢で取り組むとともに、教育関係団体等とも連携を深めながら、広く県民の理解と協力を得て、積極的に推進します。

### (資料3) 施策・事業等に関する審議内容

(凡例) 議事の区分は次のとおり

【議】…附議事項 【協】…協議事項 【報】…報告事項 【他】…その他

#### (1) 生涯学習の振興

##### ■生涯学習推進体制の整備・充実

[平成21年5月22日(金)]

- 生涯学習審議会における答申案の審議状況について【報】
  - ・社会情勢の変化を踏まえた今後の本県における生涯学習の推進について

[平成21年7月17日(金)]

- 岡山県生涯学習審議会委員の任命について【議】

[平成21年8月21日(金)]

- 第3次岡山県生涯学習推進基本計画策定方針(案)について【協】

[平成21年10月30日(金)]

- 第3次岡山県生涯学習推進基本計画(仮称)素案について【協】

[平成21年11月20日(金)]

- 第3次岡山県生涯学習推進基本計画(仮称)素案について【報】

[平成22年1月8日(金)]

- 第3次岡山県生涯学習推進基本計画(仮称)に対するパブリック・コメントの実施状況等について【報】

[平成22年1月22日(金)]

- 第3次岡山県生涯学習推進基本計画(案)について【協】

[平成22年2月5日(金)]

- 第3次岡山県生涯学習推進基本計画について【報】

##### ■生涯学習環境の整備・充実

[平成21年7月17日(金)]

- 県立図書館「入館者500万人達成」について【他】
- 夢づくり県立図書館フェスタについて【他】

<b>(2) 家庭・地域社会の教育力の充実</b>
<b>■家庭の教育力の充実</b> [平成22年1月22日(金)] ○「わが家のすこやか日記」について【報】
<b>■地域社会の教育力の充実</b> [平成21年7月3日(金)] ○教育庁「子ども参観日」について【報】 [平成22年2月19日(金)] ○岡山県社会教育委員の会議の審議状況について【報】
<b>■学校・家庭・地域社会の連携強化</b> [平成21年4月3日(金)] ○読書ボランティアのための小冊子について【報】
<b>■家庭・地域における人権教育の推進</b> [平成21年4月17日(金)] ○人権教育推進委員会について【報】 [平成21年7月3日(金)] ○人権教育推進委員会について【他】 [平成21年7月17日(金)] ○人権教育推進委員会について【他】

<b>(3) 学校教育の充実</b>
<b>■学力向上の推進</b> [平成21年4月3日(金)] ○平成21年度岡山県教科用図書選定審議会委員の任命及び諮問事項について【報】 [平成21年6月5日(金)] ○教科用図書選定審議会の答申について【報】 [平成21年7月17日(金)] ○平成22年度使用教科用図書の採択について【協】 [平成21年8月21日(金)] ○平成22年度使用教科用図書の採択について【議】 [平成21年9月4日(金)] ○平成21年度全国学力・学習状況調査結果の概要について【報】 ・本県の学力等の状況、特徴、取組等について [平成21年10月30日(金)] ○平成21年度全国学力・学習状況調査結果(二次発表)について【報】 [平成21年11月20日(金)] ○平成22年度使用県立岡山大安寺中等教育学校及び県立倉敷琴浦高等支援学校の教科用図書の採択について【協】 [平成21年12月4日(金)] ○平成22年度使用県立岡山大安寺中等教育学校及び県立倉敷琴浦高等支援学校の教科用図書の採択について【議】 ○岡山県産業教育審議会委員の任命について【議】 [平成22年1月22日(金)] ○平成22年度全国学力・学習状況調査の実施について【報】 [平成22年3月23日(火)] ○平成22年度岡山県教科用図書選定審議会委員の任命及び諮問事項について【協】 ○「おかやまっ子の確かな学びをつくる10のメッセージ」について【報】

## ■心の教育の推進

[平成21年6月5日(金)]

○教育相談の実施状況について【報】

- ・教育事務所教育相談状況、県総合教育センター相談状況について

[平成21年8月21日(金)]

○児童生徒の問題行動等に関する調査結果について【報】

- ・本県の公立学校におけるいじめを認知した学校数、いじめの認知件数、高等学校中途退学者の状況、不登校の状況、公立学校における暴力行為の発生状況について

[平成21年9月4日(金)]

○平成21年度全国高等学校総合文化祭の成績について【報】

[平成21年12月4日(金)]

○平成21年度「いじめ防止ポスター・標語」の審査結果について【報】

○「ネットパトロール事業」の実施状況について【報】

- ・実施の趣旨、方法、件数等について

[平成22年3月23日(火)]

○「不登校についての意見交換会」の意見概要について【報】

○「ネットパトロール事業」の実施状況について【報】

## ■高等学校教育体制の整備・充実

[平成21年7月3日(金)]

○平成22年度岡山県立高等学校入学者選抜実施大要について【議】

- ・選抜の方針など、主な変更点について

○平成22年度岡山県立中学校及び岡山県立中等教育学校入学者選抜実施大要について【議】

○岡山県立久米・津山地域新高等学校の概要について【議】

○岡山県立新設中等教育学校の学校名及び概要について【協】

[平成21年8月21日(金)]

○再編により整備する新しい高等学校の教育内容等について【報】

- ・落合・久世・勝山・蒜山高等学校グループ・プロジェクトチーム(第2次まとめ)

[平成21年9月4日(金)]

○平成22年度県立高等学校第1学年生徒募集定員策定方針について【協】

[平成21年10月16日(金)]

○平成22年度県立高等学校第1学年生徒募集定員について【議】

[平成21年11月20日(金)]

○県立高等学校再編整備方針について【議】

- ・落合・久世・勝山・蒜山高等学校について

[平成21年3月23日(火)]

○真庭地域県立高等学校再編整備に伴う専攻科について【議】

○落合・久世・勝山・蒜山高等学校グループ・プロジェクトチーム最終まとめについて【報】

## ■特別支援教育の推進

[平成21年5月22日(金)]

○倉敷地域新設高等特別支援学校(仮称)について【議】

- ・新設校の場所、教育課程の概要、校名募集等について

○平成21年度岡山県立特別支援学校への就学等の状況について【報】

- ・岡山県立特別支援学校の新規就学児童生徒数、幼児児童生徒数、卒業生の進路状況について

[平成21年6月5日(金)]

○平成22年度岡山県立高等特別支援学校入学者選抜実施大要について【議】

[平成21年7月17日(金)]

○倉敷地域新設高等特別支援学校(仮称)の校名について【協】

[平成21年8月21日(金)]

○「岡山県の特別支援教育」(冊子)について【報】

## ■学習環境の整備・充実

[平成22年 2月19日 (金)]

- 公立高等学校の授業料無償化について【報】

## ■体育・健康教育の充実

[平成21年 5月 1日 (金)]

- 新型インフルエンザへの対応について【報】
- 食育から広げる生活リズム向上プランについて【報】
  - ・実施事業の報告等

[平成21年 5月22日 (金)]

- 新型インフルエンザへの対応について【報】
- 平成22年度全国中学校体育大会について【報】

[平成21年 6月 5日 (金)]

- 新型インフルエンザへの対応について【報】

[平成21年 7月 3日 (金)]

- 新型インフルエンザの県内発生を受けての対応について【報】

[平成21年 7月17日 (金)]

- 保健概要調査について【報】

[平成21年 9月 4日 (金)]

- 平成21年度全国高等学校総合体育大会・全国中学校体育大会の成績について【報】

[平成21年11月20日 (金)]

- 新型インフルエンザ対応ハンドブックについて【報】

[平成21年12月 4日 (金)]

- 平成22年度全国中学校体育大会のポスター・標語について【報】

[平成21年12月18日 (金)]

- 全国体力・運動能力、運動習慣等調査の結果について【報】
  - ・本県の体力等の状況、特徴、取組等について

## ■学校における人権教育の推進

(2の再掲)

## (4) 伝統文化の振興

### ■伝統文化の振興

[平成21年 4月17日 (金)]

- 岡山・香川合同企画文化交流展 事業活動報告書について【報】

[平成21年 8月21日 (金)]

- 岡山県指定重要文化財の指定等の諮問について【協】

[平成22年 2月19日 (金)]

- 岡山県指定重要文化財等の指定について【議】
  - ・指定 史跡 恩原遺跡群 (鏡野町)

[平成22年 3月23日 (火)]

- 「岡山県の会陽の習俗」映像記録 (普及版) について【報】

## (5) その他

### ■基本的方針・予算等

[平成21年4月3日(金)]

- 平成21年度教育問題懇談会の開催について【他】

[平成21年5月22日(金)]

- 岡山県教育振興基本計画の策定方針等について【報】

[平成21年6月5日(金)]

- 平成21年度6月補正予算協議額について【協】
- 平成22年度国に対する提案について【協】

[平成21年7月3日(金)]

- 新おかやま夢づくりプラン平成20年度政策評価(案)・改訂素案について【協】
- 岡山県教育振興基本計画検討委員会第1回会議の概要等について【報】

[平成21年7月17日(金)]

- 雇用創出関係基金事業について【協】

[平成21年8月21日(金)]

- 平成21年度9月補正予算協議額について【協】
- 新おかやま夢づくりプラン改訂案に係るパブリック・コメントについて【報】

[平成21年9月4日(金)]

- 平成21年度9月補正予算協議額(追加)について【協】
- 岡山県教育振興基本計画検討委員会第2回会議の概要等について【報】

[平成21年10月30日(金)]

- 平成21年度11月補正予算協議額について【協】

[平成21年11月20日(金)]

- 岡山県教育振興基本計画素案について【協】

[平成21年12月4日(金)]

- 岡山県教育振興基本計画検討委員会第4回会議の概要について【報】

[平成21年12月18日(金)]

- 平成21年度教育委員会事務の点検・評価に関する報告書(平成20年度対象)について【協】

[平成22年1月8日(金)]

- 平成21年度教育委員会事務の点検・評価に関する報告書(平成20年度対象)について【議】
- 平成22年度当初予算について【協】
- 使用料の見直しについて【協】

[平成22年1月22日(金)]

- 岡山県教育振興基本計画(案)について【協】

[平成22年2月5日(金)]

- 岡山県教育振興基本計画(案)について【議】
- 平成21年度2月補正予算協議額について【協】

[平成22年2月19日(金)]

- 平成22年度教育行政重点施策について【協】

[平成22年3月23日(火)]

- 平成22年度教育行政重点施策について【議】

### ■条例・規則等に関する審議

[平成21年6月5日(金)]

- 平成21年6月岡山県議会定例会追加提出予定案件について【協】
  - ・岡山県高等学校授業料減免事業等支援臨時特例基金条例の制定

[平成21年8月21日(金)]

- 平成21年9月岡山県議会定例会提出予定案件について【協】
  - ・岡山県立中等教育学校設置条例の制定

- ・岡山県健康の森学園条例の一部改正及び岡山県立特別支援学校設置条例の一部改正
- ・岡山県立高等学校授業料徴収条例等の一部改正

[平成21年10月30日（金）]

- 平成21年11月岡山県議会定例会提出予定案件について【協】
  - ・岡山県立高等学校設置条例の一部改正

[平成22年2月5日（金）]

- 平成22年2月岡山県議会定例会主要事項について【協】
  - ・岡山県青年の家条例の一部改正等
  - ・岡山県行政財産使用料徴収条例等の一部改正

[平成22年2月19日（金）]

- 平成22年2月岡山県議会定例会追加提案事項について【協】
  - ・岡山県立学校授業料徴収条例の一部改正
  - ・岡山県立高等学校通信教育入学金及び受講料徴収条例の一部改正

[平成22年3月23日（火）]

- 岡山県教育委員会規則の一部改正について【議】

## ■人事・教職員表彰等

[平成21年4月3日（金）]

- 指導力不足等教員の認定等について【報】

[平成21年4月17日（金）]

- 平成21年度岡山県公立学校教員採用候補者選考試験の実施について【協】

[平成21年5月22日（金）]

- 公立学校教職員の懲戒処分について【議】

[平成21年7月17日（金）]

- 公立学校教員の懲戒処分について【議】

[平成21年8月21日（金）]

- 公立学校長の人事異動について【議】

[平成21年9月4日（金）]

- 平成21年度岡山県教育関係功労者表彰について【協】

[平成21年10月2日（金）]

- 公立学校長の人事異動について【議】

[平成21年10月16日（金）]

- 平成21年度岡山県教育関係功労者表彰について【議】

[平成21年10月30日（金）]

- 平成21年度末校長・教員等人事異動要綱について【議】

[平成21年11月20日（金）]

- 公立学校長の人事異動について【議】
- 公立学校教職員の懲戒処分について【議】

[平成22年1月22日（金）]

- 公立学校教職員の懲戒処分について【議】

[平成22年2月5日（金）]

- 公立学校教職員の懲戒処分について【議】

[平成22年3月23日（火）]

- 平成21年度末教職員の人事異動について【議】

## ■争訟

[平成22年1月8日（金）]

- 公立学校教員分限処分取消請求控訴事件への対応について【報】

■その他（管理的業務等）

[平成21年 8月21日（金）]

○学校基本調査（速報）の概況について【報】

[平成21年10月 2日（金）]

○平成20年度包括外部監査の結果に基づき講じた措置状況等について【協】

[平成21年10月16日（金）]

○指定管理者の応募状況について【報】

[平成22年 1月 8日（金）]

○平成22年 3月県立学校卒業式における教育委員会祝辞について【他】

[平成22年 1月22日（金）]

○平成22年 3月県立学校卒業式における教育委員会祝辞について【他】

### 3 委員協議会の開催状況

教育委員会会議とは別に、委員協議会を年間17回開催し、専門的な教育行政施策に関する教育委員の理解の深化に努めました。

#### (資料4) 委員協議会の開催状況

	開催月日	内 容
1	平成21年4月3日(金)	・岡山県教育振興基本計画(仮称)について
2	平成21年5月1日(金)	・岡山県教育振興基本計画(仮称)について ・倉敷地域新設高等特別支援学校(仮称)について
3	平成21年5月22日(金)	・県立新設中等教育学校の校名について ・久米・津山地域新高等学校の校名について ・吉備高原都市開発区域(吉備中央町)の県立高等学校通学区域の変更について ・自己推薦入学における5%出願者の合格内定者数について ・平成21年度実施岡山県公立学校等管理職等候補者選考審査について ・平成22年度岡山県立高等特別支援学校入学者選抜実施大要について ・倉敷・総社地域等新設特別支援学校(仮称)の整備について
4	平成21年6月5日(金)	・県立新設中等教育学校の概要について ・久米・津山地域新高等学校の概要について
5	平成21年7月3日(金)	・公立学校教員の不祥事について ・倉敷地域新設高等特別支援学校(仮称)の校名について ・岡山県高等学校貸付奨学金の移管について
6	平成21年7月17日(金)	・再編により整備する新しい高等学校の教育内容等について(第2次まとめ) 落合・久世・勝山・蒜山高等学校グループ・プロジェクトチーム
7	平成21年8月21日(金)	・岡山県教育振興基本計画(仮称)の検討状況について
8	平成21年10月2日(金)	・教育委員会事務の点検・評価について ・岡山県教育振興基本計画(仮称)について
9	平成21年10月16日(金)	・平成21年度末校長・教員等人事異動要綱について ・岡山県教育振興基本計画(仮称)骨子案等について
10	平成21年10月30日(金)	・公立学校教員の不祥事について ・県立高等学校再編整備方針について ・倉敷・総社地域等を候補地とする新設特別支援学校について ・教育委員会事務の点検・評価について ・岡山県教育振興基本計画(仮称)素案等について
11	平成21年11月20日(金)	・元高等学校野球部員の損害賠償請求について ・県立高等学校等の入学者選抜における新型インフルエンザへの対応について
12	平成21年12月18日(金)	・公立学校教員分限処分取消請求控訴事件について ・公立学校教職員の不祥事について
13	平成22年1月8日(金)	・岡山県教育振興基本計画(仮称)に係るパブリック・コメントの実施状況等について ・岡山県立倉敷琴浦高等支援学校の校章について
14	平成22年1月22日(金)	・平成22年度教育行政重点施策について
15	平成22年2月5日(金)	・平成22年度教育行政重点施策(素案)について ・高校授業料の無償化について ・学力向上検討委員会・道徳教育について考える会の進捗状況等について ・倉敷・総社地域等を候補地とする新設特別支援学校について
16	平成22年2月19日(金)	・岡山県教育振興基本計画リーフレット(案)について ・真庭地域県立高等学校再編整備に伴う専攻科について ・再編により整備する新しい高等学校の教育内容等について ・岡山県高等学校教育研究協議会の設置について ・平成23年度岡山県公立学校教員採用候補者選考試験について ・指導力不足等教員の認定等について ・「おかやまっ子の確かな学びをつくる10のメッセージ(仮称)」について ・倉敷・総社地域等を候補地とする新設特別支援学校について
17	平成22年3月23日(火)	・倉敷・総社地域等新設特別支援学校について

#### 4 意見交換・懇談会等

各地域の実情に応じた教育の振興を図るため、学校現場や教育施設の視察、市町村教育委員会、小中学校長会等との意見交換・懇談会等を行うなど、直接、県内各地・各層の関係者等の御意見を伺い、教育委員会としての意思決定に資する活動を積極的に進めました。

##### (資料5) 意見交換・懇談等の実施状況

日 時	活 動 内 容
平成21年4月18日(金)	教育問題懇談会
平成21年5月1日(金)	県立岡山瀬戸高等支援学校視察
平成21年5月26日(火)	国民文化祭実行委員会総会
平成21年7月7日(火)	小・中学校教員との意見交換会
平成21年7月9日(木)	地域の関係者等との意見交換会
平成21年7月13日(月) ～ 7月14日(火)	全国教育委員会連合会総会
平成21年7月22日(水)	特別支援学校教員との意見交換会
平成21年8月7日(金)	高等学校教員との意見交換会
平成21年8月21日(金)	小・中学校長との懇談会
平成21年9月18日(木)	第64回国民体育大会結団壮行式
平成21年9月26日(土)	第64回国民体育大会開会式(新潟県)
平成21年10月9日(金)	県立玉野高等学校70周年記念式典
平成21年10月22日(木) ～ 10月23日(金)	中国五県教育委員全員協議会(鳥取県)
平成21年10月30日(金)	岡山県教育関係功労者表彰式
平成21年11月5日(木)	市町村教育委員会連絡協議会研修会
平成21年11月18日(水)	県立岡山一宮高等学校30周年記念式典
平成21年11月20日(金)	公安委員との意見交換会
平成21年11月26日(水)	県立倉敷工業高等学校70周年記念式典
平成21年1月4日(月)	仕事始めの式
平成21年1月25日(月)	全国教育委員会連合会総会
平成21年2月4日(木)	公安委員との懇談会
平成22年2月5日(金)	市町村教育委員長との懇談会
平成21年2月12日(金)	知事との懇談会
平成22年3月1日(月) ～ 3月2日(火)	県立学校卒業式出席
平成21年4月15日(水) ～平成22年3月17日(水)	県議会本会議、臨時議会及び常任委員会(文教委員会)への参加(計57回)

## 5 「岡山県教育振興基本計画」及び「岡山県教育行政重点施策」の策定

平成21年度、本県教育が目指す理念と、その理念を踏まえて今後取り組んでいく施策の基本的方向等を示す「岡山県教育振興基本計画－未来を拓く 人づくりプラン－」（計画期間：平成22～26年度）を協議し、決定しました。

また、年度末には、この計画に基づき、各年度において重点的に取り組むべき施策についてまとめた「平成22年度岡山県教育行政重点施策」について協議し、決定しました。

### （資料6）基本的な方針に関する審議状況

[平成21年5月22日（金）]	○岡山県教育振興基本計画の策定方針等について
[平成21年11月20日（金）]	○岡山県教育振興基本計画素案について ・教育施策の体系、基本的方向について
[平成22年1月22日（金）]	○岡山県教育振興基本計画（案）について ・パブリック・コメントへの対応等について
[平成22年2月5日（金）]	○岡山県教育振興基本計画（案）について ・前回協議で指摘した事項について再協議
[平成22年2月19日（金）]	○平成22年度教育行政重点施策について ・重点施策の体系、内容について
[平成22年3月23日（火）]	○平成22年度教育行政重点施策について ・前回協議で指摘した事項について再協議

### （資料7）「平成22年度岡山県教育行政重点施策」のポイント （岡山県の教育行政施策として重点的に取り組む点）

<p><b>① 確かな学力の向上に向けて</b> 《学校での取組》 ○学力の定着状況の把握 ○教職員の指導力向上 ○きめ細かな指導の推進 《家庭と連携した取組》 ○生活習慣の改善 《地域と連携した取組》 ○放課後等での学習の場の提供</p>	<p><b>③ 特別支援教育の推進に向けて</b> 《学校での取組》 ○複数の障害種に対応する教育体制の整備 ○学校配置の適正化 ○教員の専門性の向上 ○高等部教育の充実 《家庭と連携した取組》 ○就学前における支援の充実 《地域と連携した取組》 ○早期からの就労体験の機会拡大</p>
<p><b>② 豊かな心の育成に向けて</b> 《学校での取組》 ○道徳教育の充実 ○体験活動の充実 ○いじめ・不登校問題等への対応と教育相談体制の充実 《家庭と連携した取組》 ○インターネットや携帯電話等を取り巻く問題への対応 《地域と連携した取組》 ○放課後の子どもの居場所づくり</p>	<p><b>④ 子どもたちの夢や目標の実現に向けて</b> 《学校での取組》 ○体力・健康づくりの推進 ○系統的なキャリア教育の推進 ○学習環境の整備・充実 《家庭と連携した取組》 ○「おかやま教育の日」等の取組の推進 ○青少年の自立支援の推進 《地域と連携した取組》 ○地域住民によるふるさと学習の推進</p>

## 6 岡山県教育委員会の活動に対する評価

### 〔教育委員による協議〕

教育委員会の施策については、教育委員会における議論を通じて意思決定すべきであることを踏まえ、教育委員相互の意見交換や教育委員会事務局（以下「事務局」という。）からの説明聴取を活発に行いました。

特に、岡山県教育振興基本計画・第3次岡山県生涯学習推進基本計画の策定、新設高等特別支援学校及び中等教育学校の設置、高等学校の再編整備などについて、複数回の協議により議論を尽くし、事務局に対し基本的な方向性を示しました。

今後も、闊達な意見交換や現地調査などを通じて、教育行政における諸課題に、適切に対応していきたいと考えています。

### 〔調査活動の実施等〕

平成21年度においても、地域の方々、市町村教育委員会・学校、公安委員会など幅広い分野の関係者と積極的に意見交換を行うとともに、各地域の教育活動を把握するために現地を訪問するなど、課題の把握や教育行政に関する意見・要望等の把握に努めました。

今後も、多様な教育ニーズに対応するため、広く意見・意向を把握する機会を設ける必要があることから、継続的に意見交換会等を開催するなど、意見・要望等の把握に努めていきたいと考えています。

### 〔基本の方針の検討・決定〕

教育行政の基本の方針としては、国の動向や本県教育の現状と課題、学校現場や市町村等の実情などを見据えながら、「岡山県教育振興基本計画－未来を拓く 人づくりプラン－」（計画期間：平成22～26年度）を協議・決定し、本県教育が目指す理念と、その理念を踏まえて今後取り組んでいく施策の基本的方向等を県民に示しました。

また、年度末には、この計画に基づき、「確かな学力の向上に向けて」、「豊かな心の育成に向けて」、「特別支援教育の推進に向けて」、「子どもたちの夢や目標の実現に向けて」の4つの重点施策を柱に、「平成22年度岡山県教育行政重点施策」について協議・決定し、平成22年度において重点的に取り組む施策について明らかにしました。

今後も、これらの基本の方針を踏まえ、岡山県の教育の機会均等、教育水準の維持向上を図るとともに、県民の意向を反映した責任ある教育行政の推進に取り組んでいきたいと考えています。

## II 平成21年度個別の施策・事業の実施状況

大項目	中項目	小項目	頁	
1 生涯学習の 振興	(1)生涯学習推進体制の整備・ 充実	ア 生涯学習審議会	15	
		イ 生涯学習推進本部		
		ウ 「おかやま学びの輪」の充実・発展		
	(2)生涯学習環境の整備・充実	ア 学習機会の充実	17	
		イ 学習の場の整備・充実		
	2 家庭・地域 社会の教育 力の充実	(1)家庭の教育力の充実	ア 学習・交流機会の充実	23
イ 相談・支援体制の充実				
(2)地域社会の教育力の充実		ア 地域社会の教育力の活性化	26	
		イ 社会教育活動の充実		
(3)学校・家庭・地域社会の連 携強化		ア 学社融合の推進	29	
		イ 子ども読書活動の推進		
(4)家庭・地域における人権教 育の推進		ア 市町村における人権教育の推進	33	
		イ 指導者の養成		
		ウ 市町村情報提供・連絡事業		
3 学校教育の 充実		(1)学力向上の推進	ア 教育内容の充実	35
			イ きめ細かな指導の推進	
			ウ 教職員の指導力の向上	
	エ 時代の進展に対応した教育の推進			
	(2)心の教育の推進	ア 道徳教育の充実	43	
		イ 体験活動の充実		
		ウ 学校適応の推進		
	(3)高等学校教育体制の整備・ 充実	ア 入学者選抜制度・方法の改善	51	
		イ 高等学校の魅力づくり		
		ウ 県立高等学校の再編整備		
		エ 再編整備実施に伴う通学費貸付事業		
	(4)特別支援教育の推進	ア 教育体制の整備	55	
		イ 就学指導体制の整備充実		
		ウ 教職員の指導力の向上		
		エ 特別支援教育の推進		
		オ 障害児に対する正しい理解の推進		
	(5)学習環境の整備・充実	ア 開かれた学校づくりの推進	59	
		イ 教職員の資質能力の向上		
		ウ 教職員の確保と適正配置		
		エ 健康と福利厚生		
		オ 施設・設備等の整備・充実		
	(6)体育・健康教育の充実	ア 体育・スポーツ活動の充実	70	
		イ 健康教育の充実		
	(7)学校における人権教育の推 進	ア 人権教育の総合的な推進	78	
		イ 研究推進校の指定		
		ウ 教職員等の研修		
		エ 県立学校における取組の支援		
		オ 調査事業・指導資料等整備		
		カ 学校・地域社会の連携		
	4 伝統文化の 振興	(1)文化財の保存と活用	ア 文化財の保存	81
イ 文化財の活用				
ウ 文化財保護推進体制の整備				

# 1 生涯学習の振興

## (1) 生涯学習推進体制の整備・充実

### 施策の目標

生涯学習推進体制の整備・充実に努めるとともに、地域住民など多様な主体と行政との協働を通して、生涯学習による人づくり・地域社会づくりを推進する。

### 教育委員会での主な意見

[平成21年5月22日（金）]

○生涯学習審議会における答申案の審議状況について

- ・生涯学習については、財団法人や社団法人などの旧来型の法人も、大きな役割を担っている。NPOだけでなく、民間など幅広く連携するようにしてもらいたい。

[平成21年10月30日（金）]

○第3次岡山県生涯学習推進基本計画（仮称）素案について

- ・副題は、「岡山の地域力を創造する」などの表現も考えられないか。
- ・計画の課題については、課題もあるが、例えば岡山で生涯学習フェスティバルを開催して、気運が高まったことなどプラスの面も大きいことを意識できるように、ポジティブな感じがほしい。
- ・計画の推進方向については、人がつながり地域社会に生かす「学び」、たくましく未来を切り拓く「学び」、個々が輝く「学び」の順になっているが、意味合いから考えると、人がつながり地域社会に生かす「学び」を一番最後に持ってきた方がよいと考える。
- ・郷土おかやまを意識するためには、学び方に岡山らしさを提案できれば、地域力に具体的に結び付くと思う。

[平成22年1月8日（金）]

○第3次岡山県生涯学習推進基本計画（仮称）に対するパブリック・コメントの実施状況等について

- ・「夢さがしの旅」の開催地が県南に偏っており、県北での開催を求める意見は理解できる。
- ・地元産業について理解を深めることについては、商工会議所も協力していきたい。

### 教育委員会での審議等を踏まえた施策等

《平成21年度》

第3次岡山県生涯学習推進基本計画～郷土おかやまの明日を切り拓く生涯学習の推進を目指して～の策定（平成22年2月）

- ・基本目標 豊かな学びと「地域力」の形成が循環する「生涯学習社会☆おかやま」の実現
- ・推進方向 ～重点的に取り組む「学び」～
  - 方向性1 人がつながり地域社会に生かす「学び」  
〈方向性1の土台となる「学び」〉 たくましく未来を切り拓く「学び」  
個々が輝く「学び」
  - 方向性2 多様な主体の連携・協働が創り出す「学び」
- ・計画期間 平成22年度～26年度

## 施策の概要

### ア 生涯学習審議会

知事及び教育委員会からの諮問「社会情勢の変化を踏まえた今後の本県における生涯学習の推進について」（平成20年7月14日）を受けて、平成20年度に引き続き2回の会議を開催し、平成21年7月23日、答申「社会情勢の変化を踏まえた今後の本県における生涯学習の推進について－学びを通じて支え合う自立した地域社会の形成をめざして－」を提出した。

また、平成21年11月27日には、第7期として第1回目の会議を開催し、「第3次岡山県生涯学習推進基本計画」について審議を行った。

### イ 生涯学習推進本部

知事を本部長とし、副知事及び各部長等で構成する岡山県生涯学習推進本部において、平成22年度から平成26年度を計画期間とする「第3次岡山県生涯学習推進基本計画」について協議し、平成22年2月1日の第2回会議で決定した。



生涯学習推進本部会議の様子

### ウ 「おかやま学びの輪」の充実・発展

生涯学習に関係する団体等が相互に連携・協力して県民の学習環境の整備を進めるため、第19回全国生涯学習フェスティバルの出展・参加団体の参加を得て、県・市町村の行政機関、学校、社会教育施設、大学等高等教育機関、民間教育事業者等による生涯学習ネットワークの拡充に努めた。

## 評価

「第3次岡山県生涯学習推進基本計画」を策定し、地域住民など多様な主体と行政との協働を通して、生涯学習による人づくり・地域社会づくりを推進する新たな方針を示し、今後取り組むべき課題及び推進方向を明らかにすることができた。

・岡山県生涯学習審議会からの答申「社会情勢の変化を踏まえた今後の本県における生涯学習の推進について－学びを通じて支え合う自立した地域社会の形成をめざして－」（平成21年7月）を踏まえ、「第3次岡山県生涯学習推進基本計画～郷土おかやまの明日を切り拓く生涯学習の推進を目指して～」を策定し、今後取り組むべき課題及び推進方向を明らかにした。

今後は、人がつながり地域社会に生かす「学び」、たくましく未来を切り拓く「学び」、個々が輝く「学び」及び多様な主体の連携・協働が創り出す「学び」の4つの「学び」を柱に計画を推進する中で、取組の成果を検証しながら、新たな課題にも柔軟に対応しつつ、適切に点検・評価を行うとともに、その進捗状況について県民への説明責任を果たしていくことが必要である。

また、今後とも、全県的な生涯学習の推進を図るため、平成22年4月に改組した岡山県生涯学習推進会議を中心として、選択と集中の観点から総合的に施策を推進していくことが必要である。

・全県的な生涯学習推進のネットワークの充実に努めるとともに、大学等高等教育機関やNPO等民間団体、企業等との連携・協働体制づくりの一層の推進を図る必要がある。

## 参考数値

### ○おかやま学びの輪（※）登録団体数

【出典：県教育庁生涯学習課調べ】

H19	H20	H21
67	122	122

※ おかやま学びの輪：生涯学習活動や地域社会づくりを行っている機関、団体、企業等で構成するネットワーク

（単位：団体）

## (2) 生涯学習環境の整備・充実

### 施策の目標

県民の多様な学習ニーズに適切に対応するため、学習機会の充実や場の整備に努める。

### 教育委員会での主な意見

[平成21年4月3日(金)]

○読書ボランティアのための小冊子について

- ・ボランティアに必要なとされる技能は、大人対象と子ども対象では違うと思うが、大学生もボランティアに参加している者は多いので、こういう冊子により門戸が広がると思う。
- ・門戸を広げるのは良いことだが、ボランティアとして活躍する際には、使命感・責任感・規律なども大切である。国民文化祭での活躍も期待している。

### 教育委員会での審議等を踏まえた施策等

《平成21年度》

「おかやまっ子の確かな学びをつくる10のメッセージ」(平成22年3月)

4 読書は心の栄養、本に親しむ習慣づくりを

様々なジャンルの読書を通して、感性を磨き、想像力や思考力、表現力を高めましょう。

10 みんなで、おかやまっ子の育成を

ボランティア等として教育活動に参加したり、体験活動の場を提供したりしましょう。

### 施策の概要

#### ア 学習機会の充実

##### (ア) 生涯学習大学事業

県生涯学習センターにおいて、本県の特性を生かした講座を開設するとともに、多様な学習講座を体系化し、県民に系統的・継続的な学習機会を提供する生涯学習大学「のびのびキャンパス岡山」を開学した。

##### ア) 実践コース

分野	講座名	受講者数
	晴れボラ・デビュー2009	30人

##### イ) 専門教養コース

分野	講座名	開設機関名	受講者数
健康と福祉	新しい健康を目指して	倉敷芸術科学大学	18人
国際理解	世界の子育て	くらしき作陽大学	24人
自然・科学	食の機能と安全 ーバイオの進歩とくらしの改善・バイオテクノロジーの光と影ー	美作大学	41人
計			83人

##### ウ) 大学院コース

分野	講座名	開設機関名	受講者数
学習指導	セカンドライフの学びと生き方	岡山大学	13人
健康と福祉	日本的な福祉社会づくりを求めて	岡山商科大学	22人
自然・科学	科学を生涯楽しもう!	岡山理科大学	18人
歴史と文化	備中高梁学をたのしむ	吉備国際大学	39人
能力開発	パソコンとネットで活用するデジタル	津山工業高等専門学校	32人

カメラ		
計		124人

\* 講座のVOD配信 新たに1講座2講義をインターネットで配信

エ) 連携講座：98機関 525講座

オ) 生涯学習大学「受講生の集い」 (平成22年2月14日(日) 参加者：475人)

(イ) 高齢者教室等の開設促進等

学習を通じての心の豊かさや、生きがいの充足の機会、経済社会の変化に対応して絶えず新たな知識や技術を習得する機会を提供するため、高齢者教室等の開設を促進した。

区 分	教室・学級数	参加者数
高 齢 者 学 級	511	25,874人
老 人 ク ラ ブ	56	4,827人
計	567	30,701人

(ウ) 女性学級の開設促進

生活に必要な知識・技能や一般的教養の向上を図るため、女性学級の開設を促進した。

区 分	学級数	参加者数
市 町 村 教 育 委 員 会	77	4,374人
女 性 団 体	49	6,504人
そ の 他 の 機 関 ・ 団 体 等	30	2,672人
計	156	13,550人

イ 学習の場の整備・充実

(ア) 生涯学習センター事業

本県生涯学習推進の中核施設である県生涯学習センターにおいて、各種事業を実施した。

ア) 指導者の養成と研修

ア 生涯学習推進基礎講座・生涯学習推進実践講座

市町村の生涯学習・社会教育担当者等を対象として、基礎的、専門的な知識や技能の修得を図るための研修を行った。

(基礎講座：2回 参加者：市町村生涯学習関係職員 57人)

(実践講座：共通コース及びA、B、C、Dコース9回 参加者：市町村担当職員等延べ300人)

イ 映像技能スキルアップ講座

ビデオ撮影と編集に関する技能研修講座を開設した。(延べ2日 参加者：17名)

イ) 情報提供

ア 「ぱるネット岡山」による学習情報の収集・提供

(情報登録件数：約66,000件 利用件数：約56,400件)

イ 発掘おかやま映像玉手箱

「岡山県ニュース」の記録映像をデジタルアーカイブし視聴覚教材として貸出

ウ) 学習相談

生涯学習相談員を配置し、面談や電話、電子メール等により、講座や施設・設備の紹介、資格取得の方法など生涯学習に関する県民からの相談に応じた。

(相談員：4人 相談件数：883件)

エ) 視聴覚教材メディア活用学習の推進

視聴覚教材・機材の整備・貸出

(ソフト保有本数：約6,052本 利用本数：約2,033本)

ホ) 県民学習講座

ア ぱるシアター特別上映会 (年2回 参加者：延べ372人)

イ Windows Vista活用講座 (年2回 参加者：延べ17人)

ウ P. S. S. R. (パソコンセルフスタディールーム) (年12回 参加者：延べ157人)

カ) 交流事業 京山キッズ・ゾーン「京山祭」(年4回)

(イ) 県立図書館の機能充実

県内図書館の中核的機能を持つ図書館として、また、生涯学習の拠点施設として、図書資料閲覧や貸出し、AV資料の視聴、資料案内・レファレンスサービス、さらには時代の要請に応えるビジネス支援などの来館者サービスのほか、市町村立図書館等と連携を図り、図書館横断検索システムや協力貸出し、インターネット予約貸出し、資料相互貸借、相互返却サービスなど全県域搬送システムを活用した非来館者へのサービスを積極的に行った。



県立図書館全景



館内の様子

ア) 情報発信の活性化

ア 映像コンテスト「デジタル岡山グランプリ」の開催

岡山における映像文化向上、岡山から全国への情報発信促進及びデジタル岡山大百科のコンテンツ充実を目的に企業・団体とパートナーシップを組み、協働で開催した。

(募集期間：平成21年5月1日(金)～10月31日(土) 応募作品：263点)

なお、公開本審査において、予備審査を経てノミネートされた8作品を上映し、グランプリを決定。応募作品は、電子図書館システム「デジタル岡山大百科」からWeb上に公開した。(公開本審査・授賞式：平成21年12月20日(日) 参加者：126人)

イ 「メディア工房」(撮影室、編集加工室)の活用

夢づくり・県立図書館フェスタ「体験☆ねんどが動くアニメを作ろう!～クレイアニメの世界へ～」を実施し、小学生20人の参加があった。完成作品は、Web上で公開した。

平成21年7月23日(木)、30日(木)、8月4日(火)、5日(水)

ウ 携帯電話サービスの充実とメールマガジン

手軽に図書館を利用できるよう携帯電話用ホームページから蔵書検索、予約サービスを提供するとともに、新鮮な図書館情報を利用者にお知らせするため、パソコン版、携帯電話版のメールマガジンの配信を行った。(メールマガジン配信登録者：946人)

イ) ビジネス支援の充実

ア レファレンス及びレフェラルサービス

各部門においてレファレンスを行うとともに、社会科学部門において二次資料を作成し、利用者に提供した。また、県産業振興財団、商工会議所等の相談員、県産業労働部の行う各種の支援事業等とも連携を図りながら、適切なレフェラルサービスを行った。

イ 商用データベースの提供

ビジネス関連資料、地域経済情報など専門分野の書籍、資料や日経テレコン21など商用データベースを無料で提供した。(指定データベース8種の利用回数：657回)

ウ) 子ども読書活動の推進

ア 児童資料部門の充実

児童図書研究書の購入や新刊児童図書の全点購入など児童図書資料の整備を図るとと

- もに、乳幼児や小学生が読書に興味を持つきっかけとなるようなイベントを開催した。
- ・平成21年4月18日（土） ヨムヨムおはなしまつり （参加者：61人）
  - ・平成21年7月19日（日）、8月2日（日）、16日（日）、30日（日）  
夏休み小学生のための絵本の会 （参加者：98人）
  - ・平成21年7月29日（水）～31日（金）  
夢づくり・県立図書館フェスタ「夏休み小学生のための  
ストーリーテリングおはなし会」 （参加者：112人）
  - ・平成21年12月12日（土） ヨムヨムクリスマスおはなし会 （参加者：39人）
  - ・おはなしのへやでのおはなし会（毎週土日曜日など）  
（実施回数：212回 参加者：延べ4,860人）
- イ 市町村立図書館、公民館図書室、学校図書館、ボランティア団体等の支援  
支援用図書を活用し、団体貸出しを行った。
- ・長期一括貸出し 47,062冊（8市町37施設）
  - ・配本所貸出し 15,472冊（3町村9施設）
  - ・へき地指定校配本貸出し 2,890冊（1町6校）
  - ・読書グループ貸出し 600冊（1町1団体）
- エ) 障害者へのサービス
- ア 対面朗読室におけるサービス  
（朗読サービス：139件 録音図書等の利用：7件 録音図書作成 12件）
- イ 心身障害者用書籍、視覚障害者用録音物等の郵送貸出し
- ・「心身障害者用ゆうメール」 455点（登録者：263人）
  - ・「特定録音物等郵便物」 132点（登録者：118人）
  - ・「聴覚障害者用ゆうパック」 0点（登録者：27人）
- ウ) 夢づくり・県立図書館読書フェスタ  
子どもから大人までの幅広い世代の県民が参加する各種行事を集中的に開催し、県民の  
読書活動促進を図った。
- ア 講演会・講座
- ・平成21年7月23日（木）、30日（木）、8月4日（火）、5日（水）  
「体験☆ねんどが動くアニメを作ろう！ ～クレイアニメの世界へ～」  
県立図書館職員 （参加者：20人）
  - ・平成21年7月28日（火） 伝統文化体験講座「鼓で味わう和の心」  
囃子 桜友会 望月太津友氏 （参加者：46人）
  - ・平成21年8月1日（土）  
夢づくり朗読・講演会「本が届けてくれた風～言葉の贈り物をあなたに～」  
フリーアナウンサー 森田恵子氏 （参加者：114人）
- イ 図書等の展示会
- ・平成21年7月28日（火）～8月2日（日）  
児童書展示「本でみる昭和のこども」  
郷土資料展示「明治 大正 昭和の学校 ～旧制中学から新制高校へ～」  
（入場者：630人）
  - ・平成21年7月28日（火）～9月27日（日）  
パネル展示「500万人の笑顔とともに 県立図書館5周年のあゆみ」（パネル20枚）
- ウ おはなし会
- ・平成21年7月29日（水）～31日（金）  
「夏休み 小学生のためのストーリーテリングおはなし会」

県立図書館読み聞かせボランティア（参加者：112人）

エ その他イベント

- ・平成21年8月2日（日） 紙芝居「紙芝居おじさんがやってくる！」  
近藤康己氏（参加者：74人）

カ) 県立図書館とことん活用講座

県立図書館の特色である主題別6部門の専門性を生かし、各部門が関係機関や団体と連携しながら、県民の求める様々なテーマで講座を開催することで、県民の課題解決を支援するとともに、図書館活用の拡大を図った。

- ・平成21年6月6日（土）第1回「法律相談の上手な受け方」  
（社会科学資料部門 参加者：60人）
- ・平成21年8月27日（木）第2回「レスキューロボコン奮戦記～ロボットコンテストとものづくり人づくり」  
（自然科学・産業資料部門 参加者：23人）
- ・平成21年9月12日（土）第3回「ようこそ コケの世界へ」  
（郷土資料部門 参加者：50人）
- ・平成21年11月7日（土）第4回「地域経済の現況」（社会科学資料部門 参加者：29人）
- ・平成21年11月22日（日）第5回「近代ファンタジーの誕生～『不思議の国のアリス』が生まれるまで～」  
（児童資料部門 参加者：60人）
- ・平成21年12月6日（日）第6回「イスラーム世界のやきもの～歴史と見かた、楽しみかた～」  
（人文科学資料部門 参加者：29人）
- ・平成22年2月28日（日）第7回「これって著作権侵害ですか？」  
（参考資料部門 参加者：49人）

キ) 記念イベント等

- ・平成21年7月1日（水）メディア工房リニューアル記念イベント「オリジナルカレンダー作り」 県立図書館職員（参加者：64人）
- ・平成21年9月27日（日）ありがとう5周年 県立図書館コンサート  
岡山フィルハーモニック弦楽四重奏団（参加者：115人）

## 評価

県民の多様な学習ニーズに適切に対応するため、県生涯学習センターや県立図書館を中核として、県民の生涯学習推進拠点としての機能充実を図ることを通して、学習機会の充実や場の整備に努めた。これらの取組により、生涯学習講座への受講者数や県民が図書館から借りた本の数が増加するなどの成果が見られた。

・県生涯学習センターにおいては、生涯学習活動支援の拠点施設として、市町村、大学、関係団体等との連携を図りながら、学習講座等の開設、多様な生涯学習情報の提供、学習相談の実施、生涯学習指導者やボランティア等の人材の養成・活用を図る研修、学習成果発表や活用への支援等を行った。

県生涯学習センター主催講座や生涯学習大学において講師登録の呼び掛けを強化するとともに、NPOセンターや社会福祉協議会、大学、ボランティア団体と積極的に連携しながら、生涯学習にかかわる講師・ボランティアとして活躍している人に岡山県生涯学習情報提供システム「ばるネット岡山」登録を呼び掛けた。今後も、これらを通じて、学習の成果を積極的に生かすことのできる環境整備の一層の充実を図る必要がある。

・県立図書館は、平成16年の開館以来、県民に親しまれる図書館となるよう機能の充実に努めてきたが、平成21年度も新刊図書約7割を購入するとともに、利用者が探している情報・資料の入手を支援するためのレファレンスデータベースの登録件数を拡大するなど、サービスの充実に努めた結果、

開館5年目で入館者数が500万人を突破したほか、入館者数・貸出数とも全国の都道府県立図書館の中でトップを保つことができた。

また、県内図書館の中核的機能を持たせるため、幅広い資料の収集や全県域を対象にしたサービスを充実させたほか、図書館ボランティアの養成を図るなど、県民の学習活動支援に取り組んだ。

今後も、利用者の意見を反映しながら図書資料の整備・充実に努めるとともに、レファレンスサービス、ビジネス支援の充実等に努めてまいりたい。

## 参 考 数 値

### ○生涯学習の講師・ボランティアとして登録している者の数

[出典：生涯学習情報提供システム「ばるネット岡山」登録数]

目標値(※) (H23)	実 績 値			
	H18	H19	H20	H21
3,800	2,950	3,055	3,525	3,492

(単位：人)

### ○公的な生涯学習講座への参加者数 [出典：生涯学習・社会教育関係調査等]

目標値 (H24.3)	実 績 値			
	H18	H19	H20	H21
1,300,000	1,096,987	1,147,676 757811,000	1,227,795	1,274,851

(単位：人)

### ○県民が1年間に公立図書館から借りた本の数 [出典：「日本の図書館」日本図書館協会調査]

目標値 (H23.3)	実 績 値			
	H18	H19	H20	H21
1,200	1,076	1,105	1,124	1,176

(単位：万冊)

※ 目標値：「新おかやま夢づくりプラン」（計画期間：平成19～23年度）の夢づくり協働指標における目標値をいう。以下、特記を除き同じ。

## 2 家庭・地域社会の教育力の充実

### (1) 家庭の教育力の充実

#### 施策の目標

子どもたちの健やかな成長を促すため、子育てに関する多様な学習・交流機会の提供や相談・支援体制の充実などを図る。

#### 教育委員会での主な意見

[平成21年1月9日(金)]

○「わが家のすこやか日記」について

- ・入賞作品を見ると、内容が素晴らしく、とても良い取組だと思う。学校教育の中で、道徳の副読本やテキストにも十分に使用することができるし、その他にも広く活用できるものだと思う。
- ・昨年度までの川柳よりも、応募しやすいと思う。今後も学校の児童生徒など、多くの人に参加してもらいたい。
- ・小学生の参加も目立つが、小学生には文章を書く練習にもなるし、自分の家庭生活を振り返ることにもなる。新鮮な感じもよい。

#### 教育委員会での審議等を踏まえた施策等

《平成21年度》

- ・子育て・親育ち応援フォーラムにおいて、「わが家のすこやか日記」入賞者表彰式を開催（平成22年2月）
- ・家庭教育啓発冊子「平成21年度 わが家のすこやか日記」を作成・配付及び生涯学習課ホームページへの掲載（平成22年3月）
- ・県関係リーフレット、家庭教育支援事業報告書等への掲載や民間雑誌等での紹介

《平成22年度》

- ・教育時報に平成21年度の代表作品（10点）を月ごとに掲載
- ・文部科学省月刊「生涯学習」において、本県の家庭の教育力向上への取組事例として紹介（平成22年5月）
- ・「こころのわ vol.20」への掲載
- ・「平成22年度 わが家のすこやか日記」の募集（平成22年7月～10月1日）

#### 施策の概要

##### ア 学習・交流機会の充実

###### (7) 岡山県地域家庭教育推進協議会の設置

家庭教育支援の充実を図るため、学識経験者、関係行政担当者、教育関係者、子育てサークルのリーダー等17人からなる岡山県地域家庭教育推進協議会を設置した。

###### (4) 訪問型家庭教育相談体制充実事業

地域の子育て経験者や専門家の連携による「訪問型家庭教育支援チーム」を設置し、家庭や企業等を訪問して情報や学習機会の提供、相談対応を行うなど、積極的かつきめ細やかな家庭教育支援を行う事業を実施した。（4市）

###### (4) プログラム開発モデル事業

子育て支援団体やNPO等と行政が連携し、お互いのもつノウハウやメリットを最大限に

生かし、家庭の教育力の向上を目指した親及び親子の学びを推進するプログラムを企画・開発する事業を実施した。また、その成果を広く全県に周知するために「子育て・親育ち応援フォーラム」を開催した。（3実行委員会）

#### (E) 地域の子育て応援団育成事業

地域ぐるみで子どもをはぐくむ基盤づくりを目指し、地域の子育てに関する課題を解決するために、子どもの健全育成や家庭教育支援に関する学習・交流機会の提供等を実施するとともに、活動を通して地域の子育て応援団の育成を図る事業を実施した。（3市）

### イ 相談・支援体制の充実

#### (ア) すこやか育児テレホン（電話・電子メール相談）の開設

開設日：毎日（年末年始を除く）

開設時間：8:30～23:00（電子メールは24時間受付）

相談件数：2,757件

#### (イ) すこやか家庭教育相談員養成講座

家庭教育に関する専門的知識やカウンセリングに関する知識・技術の修得及び資質能力の向上を目指し、27時間の講座を実施した。（修了者：34人）

#### (ウ) 市町村家庭教育担当者等研修会

まちぐるみの家庭教育支援体制の構築を目指し、市町村家庭教育担当者等が一堂に会し、家庭教育支援に求められていることについて研修を深めるとともに、家庭教育支援の在り方について市町村間の情報交換を行った。

【前期】平成21年11月8日（日）、平成21年11月27日（金）、平成21年12月3日（木）

【後期】平成22年2月9日（火）

#### (E) わが家のすこやか日記の募集、生活習慣づくりに関するリーフレット等の配付

家庭教育の啓発及びおかやま教育の日関連事業として、それぞれの家庭で大切にしているルールや愛情あふれるエピソード等を募集し、30作品を冊子にまとめ、訪問型家庭教育相談体制充実事業実施4市、幼稚園、小・中・高等学校、特別支援学校、市町村教育委員会、関係団体等に配付した。

また、生活習慣づくりに関するリーフレット「早ね早おき朝ごはん」（幼児用）を幼稚園、保育所（4・5歳児）の全保護者に配付した。

さらに、年度末には、県や市町村、子育て団体等の取組をまとめた家庭教育事例集「すこやか」を作成し、保育所、幼稚園、小・中・高等学校、市町村教育委員会、関係団体等に配付した。

## 評価

すべての保護者を対象とした家庭教育支援の実現に向けて、訪問型家庭教育支援の手法開発を更に進めた。また、家庭や地域の教育力向上に積極的に取り組んでいる子育て支援団体やNPO等との協働により、身近な地域で保護者が学ぶことができるプログラム開発を行うなど、きめ細かな家庭教育を支援する取組を進めることができた。

・家庭教育に関する学習機会の充実については、子育て・親育ち応援事業を実施し、4市で「訪問型家庭教育支援チーム」を設置し、家庭や企業等を訪問して学習機会や情報の提供、相談対応を行うとともに、NPO等との協働により3実行委員会において保護者及び親子の学びを推進するプログラム開発を行った。今後は、これらのモデルを県内に広く普及・啓発しながら、身近なところで保護者の学びを支えるアウトリーチ（※）型の家庭教育支援の充実が課題である。

・乳幼児期から少年期の家庭教育に関する専門知識やカウンセリングに関する知識・技術の習得を図るため、家庭教育相談員の養成講座を実施し、新たに34名が修了した。これまでの修了者数は、着実に目標の養成数に向かっている。

・家庭教育に関する普及・啓発については、「早ね早おき朝ごはん」県民運動を引き続き推進した。これまで、子どもの生活リズム向上の重要性を啓発し、具体的な実践を促すためのリーフレットを作成・配付したが、これに加え、社会全体が家庭教育への関心を高めるため、「おかやま教育の日」関連事業として「わが家のすこやか日記」を募集し、入賞作品を掲載した家庭教育啓発冊子を作成・配付して広くその意義を伝えることができた。今後も、家庭教育の重要性について引き続き啓発を行うとともに、身近なところでの支援体制の一層の充実を図ることが課題である。

※ アウトリーチ：本来「手を伸ばす」を意味する言葉。従来の枠を超えた方法でサービスを提供することにより、従来サービスを受けられなかった対象者にサービスが届くようになること。

## 参 考 数 値

### ○家庭教育相談員の養成数 [出典：すこやか家庭教育相談員養成講座修了者数]

目標値 (H24.3)	実 績 値			
	H18	H19	H20	H21
780	614	658	690	724

(単位：人)

## (2) 地域社会の教育力の充実

### 施策の目標

子どもから高齢者までの交流等を通して、社会全体で子どもをはぐくむ環境づくりを推進する。

### 教育委員会での主な意見

[平成21年7月3日(金)]

○教育庁「子ども参観日」について

- ・職場の人にとって、同僚に子どもがいることを知ることは、お互いに関心を持つことにつながる。子どもたちにも、親がどういう仕事をしているか知ると同時に、どういう人たちと一緒に仕事をしているかも知ることができる機会になると思う。

[平成21年7月9日(木)]

○「地域の教育力の充実～学校支援地域本部事業の取組～」について

- ・子どもたちの人間関係が狭いことが気になっていたが、ここでの学校支援地域本部の活動は、子どもの豊かな人間関係を広げている。子どもは地域の宝であり、学校は地域のシンボルである。地域の方々に「学校の応援団」として関わっていくことは、地域の人間関係を結びつけ、支え合う関係をつくる上でも意義ある取組であると思う。
- ・教育委員会としても、学校や保護者、関係機関等と連携しながら、一層充実していくよう取り組んでいきたい。

### 教育委員会での審議等を踏まえた施策等

《平成21年度》

- ・コーディネーター等研修会（体験活動ボランティア活動支援センター・放課後子どもプラン・学校支援地域本部指導者研修）の実施（平成21年8月）
- ・学校支援地域本部事業成果報告会の実施（平成22年2月）
- ・平成21年度放課後子ども教室担当者等研修会の実施（平成22年2月）
- ・リーフレット「おかやまの子どもを地域ぐるみで育てましょう」作成・配付及びホームページへの掲載（平成22年3月）
- ・学校支援地域本部実践事例集の作成・配付（平成22年3月）

《平成22年度》

- ・学校支援地域本部運営協議会の設置（平成22年7月）
- ・学校支援ボランティア・コーディネーター研修会の実施（平成22年4月以降年7回予定）
- ・学校支援地域本部事業に関するアンケートの実施（平成22年10月）
- ・「子ども参観日」

平成21年度、教育庁で試行的に実施した成果を踏まえて、平成22年度は、関係部局と連携し、県庁全体に拡大して実施した。

### 施策の概要

#### ア 地域社会の教育力の活性化

##### (7) 放課後子ども教室推進事業 ④

子どもたちが地域社会の中で、心豊かで健やかにはぐくまれる環境づくりを推進するため、放課後や週末等に小学校の余裕教室等を活用して、地域の方々の参画を得て、子どもたちと

ともに勉強やスポーツ・文化活動、地域住民との交流活動等の取組を実施した。

- ア) 放課後子どもプラン推進委員会の設置
- イ) 合同研修会の開催
- ウ) 放課後対策事業運営委員会の設置（22市町村）
- エ) コーディネーターの配置
- オ) 放課後子ども教室の実施（163教室）

地域の大人と子どもが交流できる場を設置し、異年齢・異世代間の交流活動や子どもたちに様々な体験活動を提供した。（ものづくり（工作・料理）、伝統芸能、スポーツ教室、読み聞かせ、囲碁・将棋教室、レクリエーション大会等）



放課後子ども教室「高校生とピザづくり」

#### (イ) 学校支援地域本部事業 ⑨

おおむね中学校区に「学校支援地域本部」を設置し、地域住民による学校支援ボランティアの参画を得て、地域全体で学校教育を支援する体制を整備した。

- ア) 運営協議会の開催
- イ) 地域コーディネーターの養成
- ウ) 事業成果報告会の開催
- エ) 「学校支援地域本部事業実践事例集」の作成・配付
- オ) 学校支援地域本部の設置（21本部）



学校支援地域本部事業

「ボランティアによるミシン学習補助」

#### (ウ) 教育庁子ども参観日

子どもに最も身近な大人である保護者の働く姿を見せたり、仕事を体験させることにより、子どもの勤労観・職業観を育成するとともに、家庭でのふれあいを深める機会とした。

## イ 社会教育活動の充実

### (ア) 社会教育委員の会議

全体会議を2回、専門部会を3回開催し、提言「社会全体で子どもを育む方策・取組について～家庭・地域社会の教育力向上に向け」を取りまとめ、県教育委員会へ提出した。

### (イ) 社会教育専門職員の設置促進

各地域における社会教育活動の積極的な推進を図るため、その中心的役割を果たす専門職員の行政機関や社会教育施設等への設置を促進した。

### (ウ) 社会教育専門職員の指導力の向上

社会教育を適正かつ効果的に推進するため、各種研修事業の内容充実に努めた。また、社会教育計画の立案、学習方法の研究など専門職員の資質能力の向上を図った。

#### ア) 社会教育主事等研修

ア 前期（平成21年5月19日（火）～20日（水） 県生涯学習センター 参加者：93人）

イ 後期（平成22年2月9日（火）～10日（水） 県総合教育センター 参加者：92人）

#### イ) 社会教育施設職員研修

ア 公民館職員等研修（平成21年6月4日（木）、12月18日（金）、平成22年1月19日（火） 岡山市内ほか 参加者：312人）

イ 図書館職員等研修（平成21年9月～平成22年2月（4回） 県立図書館 参加者：160人）

ウ 青少年教育施設職員研修（平成22年2月27日（土）～28日（日） 国立吉備青少年自然の家）

### (エ) 社会教育関係団体育成等

社会教育活動を強力かつ円滑に進めるため、主要な役割を果たす社会教育団体やグループ

の育成に努めるとともに、その活性化を図った。

ア) 第57回岡山県青年祭（参加者：820人）

ア 体育の部（平成21年8月2日（日）、8月9日（日）、8月23日（日）、9月6日（日）、岡山市内ほか 参加者：780人）

イ 文化の部（平成21年9月13日（日） 岡山市 参加者：40人）

イ) 第58回全国青年大会（平成21年11月13日（金）～16日（月） 東京都国立競技場ほか 派遣：103人）

ウ) 社会教育関係団体活動助成（県青年団協議会ほか8団体）

## 評価

様々な経験や知識を持つ地域住民の参画・協力を得て、学校の授業や放課後・週末等に、学習やスポーツ・文化活動、交流・体験活動等を提供することにより、子どもの豊かな成長を促進するとともに、地域の大人同士の絆を<sup>きずな</sup>深め、地域社会全体の教育力向上を図る取組を進めることができた。

・社会教育活動の充実に向けては、県社会教育委員の会議において、平成20年度から2か年にわたり研究・審議してきた成果を、「社会全体で子どもを育む方策・取組について～家庭・地域社会の教育力向上をめざして～」として取りまとめ、県教育委員会に提言が出されたことを踏まえ、社会教育・生涯学習行政担当者や関係団体等へ広く周知を行った。

・子ども参観日については、平成21年度、教育庁で試行的に実施したが、子ども、保護者双方から肯定的な感想が多く寄せられるなど、子どもたちの勤労観・職業観の育成、ワーク・ライフ・バランスの推進に一定の効果があったと考えられる。今後、県の出先機関に拡大するとともに、企業・団体等と連携し、取組の趣旨を全県的に普及啓発していくことが必要である。

・放課後子ども教室推進事業については、教室数が前年度の161箇所から163箇所に増加し、地域の方々の参画を得て、子どもとともに学習活動をはじめ多様な交流・体験活動が実施されており、「放課後児童健全育成事業（放課後児童クラブ）」と連携した総合的な放課後対策（放課後子どもプラン）を推進した。今後も引き続き、取組の拡充を支援するとともに、各教室において内容の充実が図られるよう取組を促すことが課題である。

・学校支援地域本部事業については、市町村に設置を働き掛けたことにより、設置数が前年度の19箇所から39箇所に増加するとともに、学校とボランティア、あるいはボランティア間の連絡調整などを行う地域コーディネーターの人数も増加し、地域全体で学校教育を支援する体制づくりをより進めることができた。今後は、広く全県下で同様の取組が推進されるよう、地域コーディネーターの養成に努めるとともに、これまでの成果を広報することにより、学校及び教職員にも本事業の趣旨が十分理解されるように周知を図っていくことが課題である。

## 参考数値

○放課後の子どもの居場所の整備状況 [出典：県教育庁生涯学習課調べ]

（第3次岡山県生涯学習推進基本計画・岡山県教育振興基本計画の目標指標）

目標値 (H26.3)	実績値			
	H18	H19	H20	H21
200	167	144	161	163

（単位：箇所）

### (3) 学校・家庭・地域社会の連携強化

#### 施策の目標

学校・家庭・地域社会の連携を強化し、子どもの生活リズム向上や読書活動の推進を図る。

#### 教育委員会での主な意見

[平成21年4月3日(金)]

○読書ボランティアのための小冊子について(再掲)

- ・ボランティアに必要なとされる技能は、大人対象と子ども対象では違うと思うが、大学生もボランティアに参加している者は多いので、こういう冊子により門戸が広がると思う。
- ・門戸を広げるのは良いことだが、ボランティアとして活躍する際には、使命感・責任感・規律なども大切である。国民文化祭での活躍も期待している。

#### 教育委員会での審議等を踏まえた施策等

《平成21年度》

「おかやまっ子の確かな学びをつくる10のメッセージ」(平成22年3月)(再掲)

4 読書は心の栄養、本に親しむ習慣づくりを

様々なジャンルの読書を通して、感性を磨き、想像力や思考力、表現力を高めましょう。

10 みんなで、おかやまっ子の育成を

ボランティア等として教育活動に参加したり、体験活動の場を提供したりしましょう。

#### 施策の概要

##### ア 学社融合の推進

###### (ア) 子どもの生活リズム向上のための取組

関係団体・企業等と連携して「早ね早おき朝ごはん」県民運動を展開した。また、学校や家庭と連携して、チャレンジカードを使って生活リズムを見直す「ぱっちり！モグモグ“ツーウィーク”」を年3回実施し、保育所、幼稚園、小・中学校、特別支援学校の幼児児童生徒が取り組んだ。

###### (イ) 生きる力支援事業「夢さがしの旅」

教育上配慮を必要とする子ども(不登校傾向の児童生徒や屋内に引きこもりの児童生徒)が学校や家庭を離れ、自分を見直し、将来の自分を探して学んでいくための目標を見付けることができるように、学校教育、社会教育関係者等が連携し、各社会教育施設の特性を生かした活動を通して、子どもの自立を支援する「夢さがしの旅」を実施した。

県内の青少年教育施設・実行委員会(5施設 年間12回実施)

(参加家族：延べ140家族 参加小学生：延べ91人 参加中学生：延べ83人)

###### (ウ) 家庭向け教育情報紙の発行

家庭・学校・地域社会が一体となった教育を推進するため、保護者や県民に対し、本県の教育に関する情報提供を積極的に行った。

「こころのわ」平成21年10月(特集「子どもの『心を育む』環境づくり」)25.5万部発行

また、一層効果的な広報に資するため、保護者向けアンケートを実施し、関係者のニーズの把握に努め、翌年度分の発行時期の前倒しやニーズに応じた特集内容の見直しを行うこととした。

## (エ) おかやま教育の日

平成13年6月、全国に先駆けて条例制定した「おかやま教育の日」の趣旨を、新聞やテレビ等の広報媒体、ホームページ、懸垂幕などによる啓発活動等を通じて、広く県民に周知し、教育についてみんなで考え、県民を挙げて教育に取り組む気運の高揚を図った。

また、11月1日から7日までのおかやま教育週間を中心に、県下全域の関係団体（市町村教育委員会、幼稚園・小学校・中学校・高等学校・特別支援学校・大学、各種団体等）に広く呼び掛け、様々な事業を展開した。

## (オ) 子どもほっとライン（電話相談）の実施

開設日：毎日（年末年始を除く）

開設時間：平日17:00～23:00 土・日・祝日8:30～23:00（電子メールは24時間受付）

相談件数：3,666件

## (カ) 青少年団体活動の充実

青少年団体に対し、研修事業の開催委託や諸活動（各種事業、指導者養成等）への助成を行った。

## (キ) P T A 活動の充実

ア) 指導者研修会（県内6会場 参加者 1,176人）

P T A 役員等の指導者を対象として、P T A の運営や活動の在り方に関する研修の充実に努めた。

イ) 指導資料作成

「わたしたちのP T A 学校・家庭・地域社会を結ぶP T A —子どもの健やかな成長をめざして—」を作成（3,000部）し、県内市町村教育委員会、各単位P T A 等に配付した。

ウ) 団体育成

団体に対し、諸活動（会員研修会等）への助成を行った。

## イ 子ども読書活動の推進

平成20年3月に策定した「岡山県子ども読書活動推進計画～おかやまどんどん読書プラン～」に基づき、県内の子どもたちが、あらゆる機会とあらゆる場所において自主的に読書活動を行うことのできる環境の整備に向け、各種事業に取り組んだ。

### (ア) 「子ども読書活動推進地域フォーラム開催」事業

複数の市町村にまたがる子ども読書関係者で構成した実行委員会を設立し、研修会や交流会を行い、それぞれの実践力の向上とネットワークの拡大を図るとともに、子ども読書活動の重要性を広く啓発した。（2実行委員会 延べ655人参加）

### (イ) 「子ども読書関係者のための本の選び方支援」事業

子ども読書関係者による実行委員会を設立し、個々の子どもに合った図書の選定やそれぞれの本の優れた点を見いだすための研修の機会を提供した。

（2実行委員会 延べ305人参加）

### (ウ) 読書ボランティア活動の推進

ア) 岡山県立図書館ボランティア研修会（児童サービス支援（読み聞かせ）コース）

（講座3日 受講者：延べ82人）

イ) 岡山県立図書館ボランティア養成講座（児童サービス支援（読み聞かせ）コース）

（基礎講座3日 受講者：延べ53人）

### (エ) 啓発資料の作成

読書ボランティアの支援をねらいに、読書ボランティア活動の目的や活動する上での留意点等を具体的にまとめた小冊子を作成し、県内読書ボランティア団体に配付した。

(オ) 各種普及・啓発イベント

ア) 各市町村におけるブックスタート事業

イ) 平成21年度一日こども図書館フェスティバル

(勝央町 平成21年9月13日 来場者：約1,200人)

ウ) ヨムヨムおはなしまつり (県立図書館 平成21年4月18日 参加者：61人)

エ) 県内各図書館における「子ども読書の日」の取組

オ) 夢づくり・県立図書館フェスタ (子ども関係分)

ア 体験☆ねんどが動くアニメを作ろう！～クレイアニメの世界へ～

(県立図書館 平成21年7月23日(木)、30日(木)、8月4日(火)、5日(水)  
参加者：20人)

イ 伝統文化体験講座「鼓で味わう和の心」

(県立図書館 平成21年7月28日 参加者：46人)

ウ 児童書展示「本でみる昭和のこども」

(県立図書館 平成21年7月28日～8月2日 入場者：630人)

エ わくわく図書館クイズ

(県立図書館 平成21年7月28日～8月2日 参加者：174人)

オ 夏休み 小学生のためのストーリーテリングおはなし会

(県立図書館 平成21年7月29日～31日 参加者：112人)

カ 紙芝居「紙芝居おじさんがやってくる！」

(県立図書館 平成21年7月28日 参加者：74人)

カ) 夏休み小学生のための絵本の会

(県立図書館 平成21年7月19日(日)、8月2日(日)、16日(日)、30日(日)  
参加者：98人)

キ) ヨムヨムクリスマスおはなし会

(県立図書館 平成21年12月12日 参加者：39人)

**評 価**

学校・家庭・地域社会等が連携して、子どもの生活リズム向上や生きる力を支援する取組を推進するとともに、県立図書館を中核としてボランティアを活用した子ども読書活動を進めることができた。

・学校園・家庭・地域社会・PTA等と連携し、子どもの生活リズム向上の重要性を広く啓発し、具体的な実践を促すため、「ぱっちり！モグモグ“ツーウィーク”」の取組を実施した結果、全県下で延べ17万人を超える学校園の幼児・児童・生徒が参加し、望ましい生活習慣を定着させることの重要性を広めることができた。今後は、これらの取組の継続とともに、各地域や学校等による独自の取組の広がりを支援していく必要がある。

また、生きる力支援事業「夢さがしの旅」を県内5団体に事業委託し、不登校・ひきこもり傾向の子どもたちや保護者が多数参加して体験活動を行うとともに、保護者同士の交流や相談活動を実施することができた。今後は、県北地域でも実施が可能となるよう、開催場所や実施団体等について検討していくことが課題である。

・子ども読書活動については、県立図書館において引き続き児童図書資料の全点購入など資料の収集や、図書館ボランティアによる読み聞かせ等の活動を継続するとともに、図書館ボランティア数も前年に比して増加するなど、活動推進のための環境整備や地域との連携を着実に進めることができた。今後は、各種事業を通じて構築されたノウハウやネットワークを生かし、学校や地域における活動が更に推進されるよう支援していくことが必要である。

## 参考数値

### ○毎日朝食を食べている子どもの割合 [出典：児童生徒の朝食摂取状況の現状に関する調査]

目標値 (H23)	実 績 値			
	H18	H19	H20	H21
88	81	81	84	84

(単位：%)

### ○県立図書館施設ボランティア数の推移 [出典：県教育庁生涯学習課調べ]

	H18	H19	H20	H21
県立図書館 ボランティア	156	138	138	141

(単位：人)

## (4) 家庭・地域における人権教育の推進

### 施策の目標

様々な人権問題についての理解と認識を深め、日常生活に生かせる人権感覚と実践的な態度を身に付けるための教育・啓発を推進する。

### 教育委員会での主な意見

[平成21年4月17日(金)]

○人権教育推進委員会について

- ・人権教育推進に係る重要な案件については、今後、教育委員会に諮られるのだろうが、その前に、いろいろな人に意見を聞くために諮問機関が必要だと思う。

### 教育委員会での審議等を踏まえた施策等

《平成21年度》

- ・人権教育実践事例集「環境づくり編」を作成し、学校等に配付(平成22年3月)
- ・「高等学校における特別支援教育」を作成し、学校等に配付(平成22年3月)

《平成22年度》

- ・児童虐待、性同一性障害について「こころのわ」に掲載(平成22年10月)
- ・人権教育指導集「就学前教育編」を作成し、幼稚園・保育所等に配付(平成23年3月)

### 施策の概要

#### ア 市町村における人権教育の推進

##### (7) 人権教育総合推進事業 (1地域)

人権教育の総合的な推進の在り方についての研究を行い、地域全体で取り組む人権教育の実践例を県下に広めた。

##### (4) 人権教育推進のための調査研究事業(文部科学省再委託) (4市町) (国)

社会教育における人権教育を一層推進するために、人権に関する学習機会の充実方策等についての実践的な調査研究を行った。

#### イ 指導者の養成

講義、実践発表等を行うとともに、人権教育推進上の諸課題について研究協議し、指導者としての資質及び指導力の向上を図った。

##### (7) 社会教育関係団体指導者人権教育研修会 (5会場 1,037人)

##### (4) 人権教育・啓発指導者講座

- ア) 人権教育・啓発指導者講座Ⅰ (6回 39人受講)
- イ) 人権教育・啓発指導者講座Ⅱ (1回 52人受講)

##### ◆平成21年度の講座の一例

○テーマの例

- ・「性同一性障害当事者の現状と問題」
- ・「多文化共生社会の実現をめざして」
- ・「ファシリテーター(進行役)になるために」等



講義の様子

#### 受講者の声

- ・「性同一性障害については、言葉のみしか知らなかったが、詳細を知ることができた。」
- ・「専門の立場から話を聞くことができ、大変勉強になった。」
- ・「実体験に基づいた具体的な内容で、多文化共生の大切さがよく理解できた。」

#### ○現地研修



邑久光明園現地研修

- ・「国立療養所邑久光明園」において、講話、入所者との交流及びフィールドワークの実施
- ・渋染一揆関係地の視察、資料館の見学ほか

### ウ 市町村情報提供・連絡事業

市町村における人権教育の総合的な推進を図るため、講義、実践発表を行うとともに、人権教育推進上の諸課題について研究協議し、人権教育担当者としての資質及び指導力の向上を図った。

また、情報提供や連絡調整により市町村を支援した。

- (ア) 市町村教育委員会教育長等人権教育連絡会 (1回 40人)
- (イ) 市町村人権教育担当者等連絡会 (2回 97人)
- (ウ) 人権教育講師バンク (新規登録者数：14人)

### 評価

人権問題についての理解と認識を深め、自らの課題として日常生活に生かせる人権感覚を身に付けるための研究事業やモデル事業を実施するとともに、指導者養成を行うなど、人権教育の取組を進めることができた。

・人権教育総合推進事業では、井原市美星地区において、学校教育・社会教育の連携の下に人権教育の総合的な推進についての研究を行い、11月の発表会には423名の参加があった。また、人権教育調査研究事業では、効果的な研修会、指導者養成の在り方等について、玉野市、笠岡市、高梁市、奈義町の4市町がそれぞれ実施したモデル事業の成果等について、県人権教育調査研究委員会で検討するとともに、報告書を作成し、各市町村など関係機関等に配付して研究成果の普及を図った。

・知事部局との連携講座で、32名の人権教育・啓発指導者の養成を行った。

・学校や市町村等が人権に関する講演会・研修会等を実施する場合に有用な情報を蓄積した人権教育講師バンクに新たに14名・団体の登録を加え、登録者計が40名・団体となり、性的少数者に関する事など、より多様な人権課題別分野の講師情報を提供することができた。

・市町村における人権教育の推進については、平成21年度から市町村に対する補助事業を廃止したが、今後も、指導者の養成、各種情報の提供、指導資料の整備等に関して工夫・改善するとともに、周知・普及を図り、市町村の取組を一層支援していく必要がある。

### 参考数値

#### ○人権教育・啓発指導者数（累計） [出典：人権教育・啓発指導者講座修了者数]

目標値 (H24.3)	実績値			
	H18	H19	H20	H21
300	185	219	258	290

(単位：人)

### 3 学校教育の充実

#### (1) 学力向上の推進

##### 施策の目標

きめ細かな指導や時代の進展に対応した教育の推進などを通して、確かな学力の向上を図り、子どもたち一人一人の個性や能力を伸ばす教育を推進する。

#### 教育委員会での主な意見

[平成21年9月4日（金）]

○平成21年度全国学力・学習状況調査結果の概要について

- ・全国との差がある中で、全国に比べて習熟の熟度に応じた指導にかかわる項目に課題が見られるので、きちんと対策を立てて、検討してもらいたい。

[平成21年10月30日（金）]

○平成21年度全国学力・学習状況調査結果（二次発表）について

- ・校長は、自分の学校の状況を把握し、学校の問題についての方針を持って解決していける力が必要である。リーダーに力がないと、家庭の教育に関しても授業力でもバランスの取れた方針を立てることができない。
- ・家庭学習の時間の確保や学力を正確に把握できていない家庭が多いと思われるので、家庭や地域と学校が連携していく方法を考えてもらいたい。また、家庭学習の時間と平均正答率には、相関関係があると認められるので、保護者に情報を正確に伝えて、認識してもらう努力が必要だ。

[平成22年1月22日（金）]

○平成22年度全国学力・学習状況調査の実施について

- ・県全体では、誤差は少ないだろうが、小さな市町村は、抽出調査対象校だけでは、どの学校が抽出されるかで結果が大きく異なることも考えられる。
- ・抽出されていない学校でも、希望利用すれば、学校単位では、全国平均や県平均と比較することで、十分に活用できると思う。

#### 教育委員会での審議等を踏まえた施策等

○学力向上を図るための施策等

《平成21年度》

- ・「学習の手引き」（「家庭学習診断シート」平成21年度全国学力調査問題等の改訂による。）のホームページへの掲載（平成21年9月）
- ・「『自分の考えを持ち、それを表現する力』の向上に向けて—小・中学校の授業改革への提案—」（改訂版）のホームページへの掲載（平成21年9月）
- ・新しい小・中学校学習指導要領Q&Aのホームページへの掲載（平成21年10月）
- ・学校園・家庭・地域に呼び掛けるための「おかやまっ子の確かな学びをつくる10のメッセージ」の作成（平成22年3月）

《平成22年度》

- ・学力向上検討委員会からの提言（2年間の意見の取りまとめ）のホームページへの掲載（平成22年4月）
- ・学習支援のための素材集のホームページへの掲載（平成22年5・12月）

- ・「習熟度別指導実践事例集」のホームページへの掲載（平成22年5月）
- ・岡山県学力向上検討委員会の開催（平成22年6・10月）
- ・『「言葉の力」向上のための授業観察カード』等のホームページへの掲載（平成22年6月）
- ・平成22年度学習到達度確認テストのホームページへの掲載（平成22年6・9・11・12月）

## 施策の概要

### ア 教育内容の充実

#### (ア) 教育課程の適切な編成と運営

- ア) 教育課程の管理（県立学校）
- イ) 新教育課程説明会
- ウ) 指導主事研修会

#### (イ) 教材の精選と学習形態、指導方法の工夫並びに基礎・基本の徹底

学校訪問、研究指定校訪問、教育研究団体研究会等において周知を図った。

#### (ウ) 教育研究指定校による研究の推進とその活用

各教科・領域等について、学校現場における実践的研究を委嘱し、教職員の研究活動の促進を図るとともに、その成果の活用に努めた。

##### ア) 研究内容

学力向上、道德教育、体験活動、キャリア教育、環境教育、生徒指導、人権教育等

##### イ) 研究指定校（県、文部科学省指定。学校園数は延べ数）

公立幼稚園1園、公立小学校20校、公立中学校5校、公立高等学校51校、地域指定24地域

#### (エ) 高校教育改革の推進

生徒の多様化するニーズに対応して、一人ひとりの個性の伸長をより適切に図るために、「学校間連携による単位認定」、「大学・高等専門学校・教育施設等との連携による単位認定」、「知識及び技能に関する審査の合格に係る単位認定」及び「ボランティア活動・就業体験等の成果に係る単位認定」の実施を促進した。

##### ア) 学校間連携による単位認定（県立高等学校 3校）

##### イ) 大学・高等専門学校・教育施設等との連携による単位認定（県立高等学校 11校）

##### ウ) 知識及び技能に関する審査の合格に係る単位認定（県立高等学校 32校）

##### エ) ボランティア活動・就業体験等の成果に係る単位認定（県立高等学校 13校）

#### (オ) 学校経営予算

学校の教育活動について、必要・実態に応じて学校自らが立てた計画に基づいて予算配分を行うシステムを確立し、学校長の裁量の拡大を図った。（県立学校）

（「総合的な学習の時間」学習支援、学校図書館図書充実、社会人講師活用等）

#### (カ) 高校エキスパート活用事業

県立学校において、専門的な技能や能力を有する企業や地域の人材112人を非常勤講師として59校へ配置し、学校の特色に応じた専門性の高い指導を生徒に行い、専門的・発展的な学習を進めた。

#### (キ) 目指せスペシャリスト ㊦

文部科学省の指定を受け、地域の産業界・研究機関等と連携し、先端的な技術等を取り入れた教育や伝統的な産業に関する学習活動を重点的に行い、地域社会を担う将来の専門的職業人の育成を目指した。（指定校：県立倉敷工業・玉野市立玉野商業高等学校）

倉敷工業高等学校では、「繊維とファッションのまち倉敷」のさらなる活性化を目指して、ファッション技術科の生徒を中心に、倉工オリジナルジーンズ等の製作・販売に取り組むことで、「総合的なものづくり」が実践できた。

(ク) **新教育課程研究指定校（看護）** ㊦

文部科学省の指定を受け、新学習指導要領の趣旨を具体化するための指導方法の工夫改善に取り組み、看護実践能力の育成およびキャリア教育の基盤形成を目標に、コミュニケーション能力の形成を図る授業方法の改善及び看護技術定着度の評価方法について研究を進めた。授業のオリエンテーションの充実や、ポートフォリオの導入で生徒の授業内容の理解度が増した。（指定校：県立倉敷中央高等学校）

(ケ) **高等学校職業教育技術顕彰**

県内の高等学校及び特別支援学校高等部に在籍する生徒のうち、職業資格取得者を顕彰することにより、生徒の技術・技能の習熟、目的意識や学習意欲の向上を図った。（顕彰者数：802人）

(コ) **へき地、小規模校の教育の充実**

へき地教育等各種研究会への教員派遣、複式学級新担任者研修講座の開催などにより、へき地、小規模校の教育の充実に努めた。

(カ) **幼稚園教育の充実**

平成20年3月に告示された幼稚園教育要領について、県内3地域において新教育課程説明会を開催し、周知を図った。

幼稚園教育理解推進事業として、幼稚園教育研究協議会及び園長等運営管理協議会を実施し、幼稚園教育の充実に努めた。

## イ きめ細かな指導の推進

(ア) **中学校及び小学校第5・6学年の学級編制の弾力化**

学習環境が大きく変わり、不登校等の課題が増加する中学校については、全学年において3学級以上の中学校56校において、学級編制基準を35人とし、きめ細かな指導を推進した。また、小・中学校のスムーズな接続を図る観点から、不登校などの課題が増加し始める小学校第5・6学年についても、3学級以上の小学校22校において、学級編制基準を35人とし、きめ細かな指導を推進した。

(イ) **小1グッドスタート支援事業** ㊦

地域住民等327人を、学級担任の補助を行う教育支援員として小学校第1学年で児童数の多い学校130校に配置し、児童の基本的な生活習慣の確立や基礎学力の向上を図るとともに、義務教育の円滑なスタートを図った。

(ウ) **全国学力・学習状況調査** ㊦

全国的な調査により、児童生徒の学力・学習状況を把握・分析し、調査結果を活用した授業改善等に取り組んだ。

ア) 調査の実施状況

ア 実施日：平成21年4月21日

イ 実施対象：小学校第6学年、中学校第3学年

ウ 実施教科：国語、算数・数学

イ) 調査にかかわる取組

ア 調査結果の分析

イ 分析結果と結果を踏まえた授業改善の視点等について、学校訪問での指導や市町村教委主催の研修会での説明を行った。

(エ) **進路指導の充実**

ア) 高等学校進路指導担当者連絡協議会及び県就職問題連絡協議会を開催し、進路指導の充実並びに学校、関係諸機関との密接な連携による進路保障の推進を図った。また、新規高

卒予定者に対する就職支援の一環として、就職面接会を2回（11月、12月）開催し、求人・求職の結合の促進を図った。（参加企業数：133社 参加生徒数：延べ322人 応募者数：129人 内定者数：43人）

イ) 高校生のためのジョブフェア（合同企業説明会）

就職を希望する生徒にできるだけ早くから様々な職業について理解を深めるとともに、働くことの意義を考えさせるため、学年を問わず就職を希望する生徒を対象に、岡山労働局等の協力のもと、採用意欲のある企業の参加を募った合同説明会を、岡山、倉敷、津山の3会場で実施した。（参加企業数：88社 参加生徒数：延べ1,072人）

ロ) 職場適応指導

高等学校卒業者の早期離転職の増加が指摘されていることから、学校における進路指導の一環として、卒業生の就職先である事業所等を訪問し、卒業生を適切に支援するとともに、在校生への進路指導に役立つ資料や新しい情報の収集、応募先の新規開拓など、進路指導の充実を図った。

エ) 就職開拓支援員の配置

就職希望者の多い県立高校10校に就職開拓支援員を配置し、地域内の求人開拓や就職指導を行った。

厳しい雇用環境の中、労働局等とも連携し、企業訪問を積極的に行うなどし、求人の確保につなげた。

## ウ 教職員の指導力の向上

### (ア) 言葉の力向上プロジェクト

「確かな学力」を形成するための基盤である「言葉の力」を育成するために、その指導の在り方について研究を行った。

ア) 「言葉の力向上委員会」を設置し、言葉の力を育成するための指導の在り方について協議・提案を行い、3年間の協議のまとめを行った。（10、11、2月に開催）

イ) 県総合教育センターにおいて言葉の力育成研修会を実施した。

### (イ) 学力向上検討委員会

県及び市町村教育委員会、有識者、学校、PTA関係者等で組織する検討委員会を設置し、小・中・高等学校を見通した学力向上施策の検証・改善を行った。（6、10、2月に開催）委員会での2年間の協議をもとに、本県の児童生徒の学力を向上する上で、学校園・家庭・地域において特に大切にしたいことを提言にまとめた。

この提言を踏まえ、県教育委員会では「おかやまっ子の確かな学びをつくる10のメッセージ」を作成し、小・中学校の全保護者にちらしを配付し、学校園・公民館等にポスターを掲示するなど、県民への周知を図った。

### (ロ) 授業改革支援事業

#### ア) 授業改革協力員の委嘱

国語、算数・数学、英語教育に関して豊かな専門知識と経験を有する教諭133名を授業改革協力員として委嘱し、所属校での研究授業の公開や校内研修の推進、近隣の学校等の授業研究への協力、学習指導案をはじめ授業展開の好事例等の県への素材提供を行った。

（授業改革協力員による授業公開の実施率：95.2%、校内の授業研究の充実に対する校長の肯定的回答率：73.8%）

#### イ) 授業改革推進校研究発表会の開催

県内3会場（小学校2校、中学校1校）において、授業公開及び研究協議会を行い、授業研究の気運を高め、各学校での授業改善の推進・充実を図った。

(3会場の参加者総数：390名、参加者の満足度：92.0%)

ウ) 授業改革研究会の開催

授業改革協力員の協力を得て、各地域で近隣の学校が協同して国語、算数・数学、英語の授業公開及び授業研究等を実施するとともに、県教育委員会は、所管の教育委員会の要請に基づき、指導主事を派遣した。(指導主事の派遣回数：128回)

エ) 研究指定校(学力向上実践校)による実践研究

地域の学力向上の拠点として、意欲のある学校を公募し、10中学校区を指定した。指定中学校区では拠点校を中心に、学校・地域の実情に応じて研究課題を選択し、授業研究に取り組んだ。

(研究授業・研究協議会を実施した回数：平均6.2回、外部からの参加者数：延べ943名)

オ) 総合教育センターによる出前講座

国語、算数・数学、英語等の授業改革に係る校内研修を支援するため、出前講座を実施した。

カ) 授業展開の好事例を集めた素材集の作成

授業でつまずきやすい単元の授業展開の好事例や学力をさらに伸ばす工夫例等を示した素材を研究指定校及び授業改革協力員等から収集し、素材集を作成した。

作成した素材集は、Webページで公開し、各校でダウンロードして活用した。

(アップロードした事例：41点)

キ) 算数・数学アドバイザーの派遣

17校の小規模校等に退職教員12名を、週1回非常勤として配置し、算数・数学の授業改善への支援を行った。

算数・数学アドバイザーによる授業参観の様子



ク) **新**学校力向上支援スタッフの派遣

学校運営や授業改善等に豊富な知識と経験を有する退職校長5名を、依頼のあった学校に派遣し、継続的に指導・助言を行った。

(派遣校数：小学校25校、中学校17校)

(イ) 学習到達度確認テスト

ア) 学習到達度確認テストの作成・活用

大学教官を監修者とする小・中学校教員及び指導主事による作成委員会を組織し、算数・数学の単元ごと及び年度末のテストと、国語・社会・理科の読解力テストを作成した。

テストは、学校が必要に応じWebページからダウンロードして児童生徒に対して実施するなどして活用した。

結果データを処理するシステムによりデータの集計・グラフ表示が行え、教員は、全県的な状況と自校の結果との比較・分析に活用し、児童生徒の学習のつまずきの把握や指導の改善を図った。

(算数・数学テストを授業等で使用した割合：小学校89.8%・中学校59.3%、読解力テストを授業等で使用した割合：小学校69.7%・中学校37.7%)

(オ) 学力向上実践研究推進事業 **国**

文部科学省の指定を受け、公立小学校1校・中学校2校・高等学校1校で、地域の実情や課題を踏まえ、基礎的・基本的な知識・技能を確実に習得させ、これらを活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等の能力をはぐくむとともに、主体的に学習に取り組む態度を養う実践研究を推進した。

(津山市立北陵中学校：研究発表会を6/26・10/23・2/22に実施、県内外参加者延べ210名)

(笠岡市立今井小学校：中間発表会を10/28に実施、市内参加者16名)

(矢掛町立矢掛中学校：中間発表会を12/7に実施、町内参加者22名)

(岡山県立林野高等学校：模擬授業の実施、専門家による教職員研修の実施)

#### (カ) アクティブハイスクール

生徒一人ひとりの学力向上と進路希望の実現のため、基礎・基本と知的総合力の徹底向上に取り組む県立高等学校を支援し、明確な目標と確かなプロセス、組織的な展開と的確な評価による改善を通じた学力向上の方法を研究した。(指定校：県立津山高等学校、笠岡商業高等学校、倉敷古城池高等学校、勝山高等学校)

また、指定校の教員を対象にコーチング研修を実施し、コーチングスキルの向上を図り、指導方法の幅を広げることができた。

## エ 時代の進展に対応した教育の推進

### (ア) 情報化に対応した教育の推進

#### ア) 県立学校 I T 基盤整備事業

県立学校において、高速インターネットへの接続、情報教室のコンピュータ整備等により情報通信機器の幅広い活用を可能にし、児童生徒への教育を効果的に行う環境づくりを推進した。

#### イ) 新 I C T サポーター事業 (国)

岡山県緊急雇用創出事業臨時特例基金を活用し、県立学校61校に、I C T 機器に関するトラブルに対処したり、授業で I C T を活用する際の準備の補助を行う人員を配置し、教育の情報化の推進に取り組んだ。

### (イ) 国際理解教育の推進

国際化社会にあって、教職員や児童生徒が諸外国の文化について理解を深めるとともに、国際的視野に立って我が国の文化や伝統を見ることができるよう国際理解教育を推進した。

#### ア) 外国語指導助手 (A L T) の配置

外国語教育・国際理解教育の一層の充実を図るため、外国語指導助手14人を県立学校へ派遣した。

#### イ) 岡山県・南オーストラリア州教員相互派遣

岡山県の英語教員を2年間南オーストラリア州へ派遣し、日本語指導を行うとともに、南オーストラリア州の英語教員を1年間受け入れ、県立高等学校等で英語指導を行った。

#### ウ) 新英語教育調査研究事業 (国)

文部科学省の指定を受け、英語教育改善のための総合的な教育システムを構築するための調査研究を行った。

新見市立新見第一中学校区の5校では、研究開発を行うとともに、小・中学校の連携についても実践研究を行った。

県立岡山操山高等学校においては、併設中学校と連携し、コミュニケーション能力を育成する研究開発を行った。

(研究開発校：新見市立新見第一中学校区の5校、岡山県立岡山操山高等学校)

#### エ) 外国語活動における教材の効果的活用及び評価の在り方等に関する実践研究事業 (国)

小学校における外国語活動の円滑な導入に向けて、実践研究校を指定し、英語ノート等の教材の効果的な活用及び評価に関する実践的な研究の推進を図ることにより、当該地域全体の水準の向上を図った。(実践研究校：公立小学校6校)

### (ウ) 科学技術教育の推進

#### ア) 理科支援員等配置事業 (国)

国の指定を受け、外部人材を理科支援員として配置することにより、授業における観察・実験活動の充実を図るとともに、教員の資質能力の向上を図り、小学校における理科授

業の充実を図った。

(配置校：公立小学校56校)

イ) スーパーサイエンスハイスクール **国**

国の指定を受け、指定校において、理科・数学に重点を置いた取組を大学等と連携しながら実践し、将来の科学技術系人材の育成を図った。(指定校：県立岡山一宮高校、県立倉敷天城高校、県立玉島高校)

エ) 環境教育の推進

ア) スーパーエンバイロメントハイスクール

環境教育を重点的に行う県立高等学校を指定し、カリキュラムの開発、大学や研究機関との効果的な連携方策等について研究を推進し、問題を正しく理解し、その解決に積極的に取り組むことのできる人材の育成を図った。

東岡山工業高等学校：シュレッターダストから酵素を利用したエタノールの製造と<sup>さんさ</sup>残渣成分による苗ポットの製作の研究

## 評価

全国学力・学習状況調査の結果を踏まえ、子どもたち一人一人を大切にしたいきめ細かな指導の充実を図るとともに、教員の意識改革と指導力向上に努め、子どもたちの学習意欲の向上を図る授業改革に取り組んだほか、情報教育や国際理解教育など時代の進展に対応した教育を推進した。また、「確かな学びをつくる10のメッセージ」を作成し、県民に広く発信するなどにより、平成22年全国学力・学習状況調査では調査開始時と比べると小学校において全国平均に近付いてくるなど、一定の成果が見られた。

・確かな学力の向上については、全国学力・学習状況調査の結果から明らかとなった本県の課題を踏まえ、習熟度別指導に重点を置いた教員の加配を行い、個に応じたきめ細かな指導を充実させるとともに、授業改革協力員や中学校区での研究指定等を通じて、教員の意識改革や指導力向上を進めた。

平成22年4月実施の同調査の結果では、小学校において全国平均に近付いてきており、一定の改善が見られるものの、中学校では依然として全国平均との差がある。

今後も、指導主事や優れた指導技術を持つ退職教員を学校等に積極的に派遣して、授業改革を強力に推進するとともに、個々の子どもの実態を把握し指導に生かすよう、学習到達度確認テストのさらなる活用を働き掛ける。また、落ち着いた学習環境づくりや家庭での学習習慣の定着等に向けて、県民に広く発信した「確かな学びをつくる10のメッセージ」を踏まえ、学校・家庭・地域が一体となった取組を総合的に推進することが必要である。

・小学校第5・6学年・中学校全学年の3クラス以上の学校で35人学級を実施するとともに、習熟度別指導を中心とした少人数指導の充実を図った。また、30人以上のクラスへの小学校第1学年への教育支援員を配置した。このように、学校生活への適応など児童生徒一人一人に行き届いたきめ細かな指導を推進した。今後も、児童生徒一人一人の実態を理解し、それに応じた教材教具の工夫、指導方法の改善がより一層求められる。

・情報教育については、校務の効率化や授業の中でICT活用を図ることができるよう、学校のICT環境の整備や教員研修の充実を図ってきたところであるが、授業中にICTを活用して指導することができる教員の割合などは全国平均を上回ることができた。今後も引き続き、校内研修の実施の支援などを通して、教員のICT活用指導力の向上を図る必要がある。

・国際理解教育については、小学校における外国語活動の円滑な導入に向けて、教材の効果的な活用及び評価に関する実践的な研究や、中学校や高等学校における英語教育の改善を図るための調査研究を行った。学習指導要領の改訂を踏まえ、引き続き小学校における外国語活動の充実など、国際化に対応した教育の推進を図る必要がある。

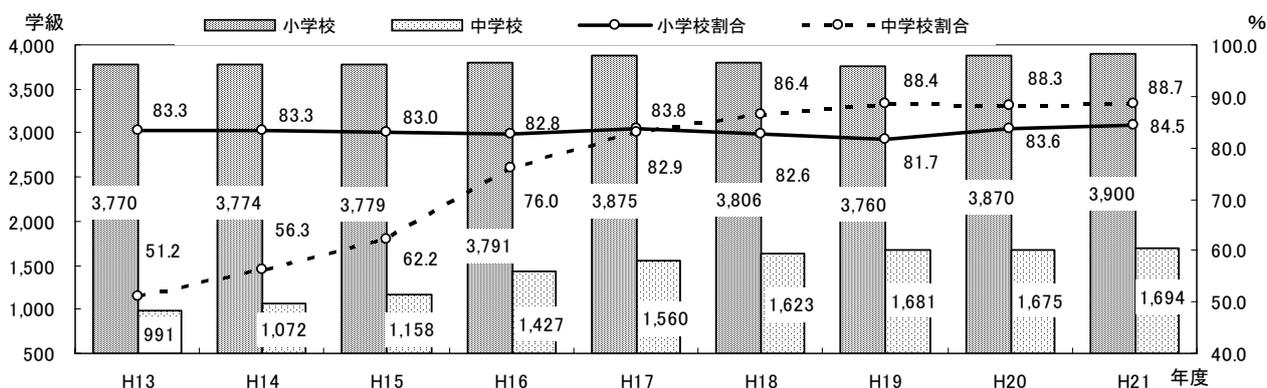
## 参考数値

### ○学力調査の状況 [出典：全国学力・学習状況調査] (単位：%)

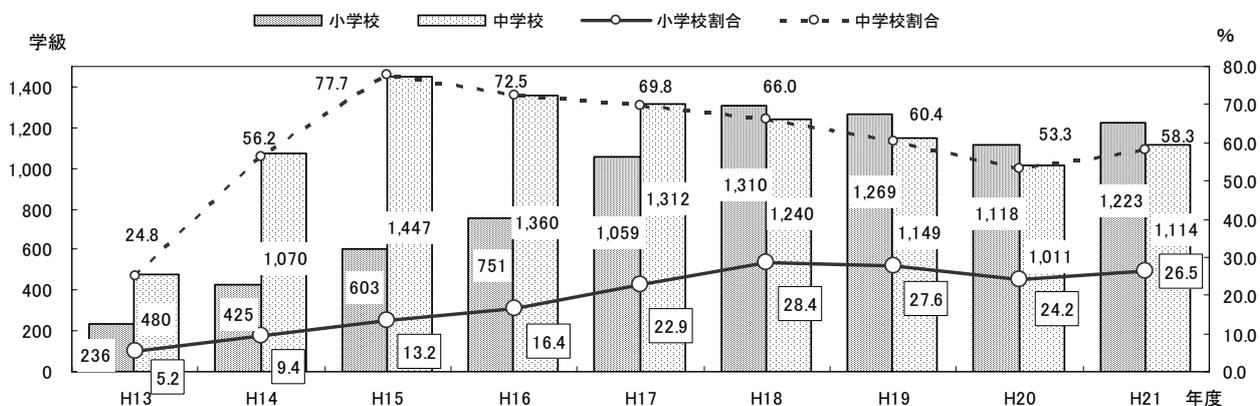
	小学校国語				小学校算数				中学校国語				中学校数学			
	A		B		A		B		A		B		A		B	
年度	H22	H21	H22	H21												
岡山	83.8	68.6	77.5	49.3	72.7	77.6	49.1	52.4	74.7	77.7	63.6	73.8	64.0	62.4	41.8	56.4
全国	83.3	69.9	77.8	50.5	74.2	78.7	49.3	54.8	75.1	77.0	65.3	74.5	64.6	62.7	43.3	56.9
差	0.5	△1.3	△0.3	△1.2	△1.5	△1.1	△0.2	△2.4	△0.4	0.7	△1.7	△0.7	△0.6	△0.3	△1.5	△0.5

※1 Aは主に「知識」に関する問題、Bは主として「活用」に関する問題  
 ※2 表中の「差」は、全国と岡山県との平均正答率の差を示している。  
 ※3 平成22年度の数値は推計値

### ○35人以下の学級数とその全学級数に占める割合の推移 [出典：県教育庁教職員課調べ]



### ○少人数指導を実施している学級数とその全学級数に占める割合の推移 [出典：県教育庁教職員課調べ]



### ○教員のICT活用指導力の状況 (単位：%)

年度	授業中、活用し指導		情報モラル等の指導	
	H21	H20	H21	H20
岡山	61.5	54.8	69.2	62.3
全国	58.5	56.4	68.6	66.8
差	3.0	△1.6	0.6	△4.5

[出典：文部科学省調べ、県教育庁指導課調べ]

## (2) 心の教育の推進

### 施策の目標

道徳教育や体験活動の充実、いじめ・不登校問題への対応と教育相談の充実に向けた取組の推進などを通して、子どもたちに豊かな人間性や社会性をはぐくむ。

### 教育委員会での主な意見

[平成21年6月5日(金)]

○教育相談の実施状況について

- ・各地域で、悩みを持っている人の問題を解決するために相談機関があるわけだが、それが利用されやすい環境にあるかが、一番大事なことだ。
- ・市町村には市町村の相談機関があるのであれば、県だけでなく、市の相談機関の状況も併せて見ないと保護者や児童・生徒のニーズが満たされているかは分からないのではないかと。

[平成21年8月21日(金)]

○児童生徒の問題行動等に関する調査結果について

- ・対教師暴力が、こんなにも発生しているのか、という印象がある。
- ・怒りを抑えられない若者が増えてきていることを感じる。

[平成21年12月4日(金)]

○「ネットパトロール事業」の実施状況について

- ・チェックだけではなく、学校での教育に生かし、生徒に注意をしていく姿勢が大事だ。
- ・委託業者から、教員が生徒に指導するための技術提供があればよいのではないかと。

### 教育委員会での審議等を踏まえた施策等

《平成21年度》

- ・ネットパトロールの技術については、市町村教委や学校においても生かされるように、指導主事研修会等において委託業者が講師となった研修を行った。

《平成22年度》

- ・どの専門機関にも相談できていない不登校児童生徒への対応として、臨床心理士等が家庭に向く「訪問カウンセリング事業」を実施している。

### 施策の概要

#### ア 道徳教育の充実

##### (ア) 道徳教育について考える会

県の道徳教育にかかわる施策の検証、推進の方向性についての協議を行った。特に、目指す子ども像や道徳性の芽生えを培う就学前教育の進め方等について検討し、協議の結果を「中間まとめ」として指導課のホームページに掲載した。(7、11、1月に開催)

また、道徳教育実践研究事業の推進校の公開授業を参観し、道徳の時間の授業について理解を深め、授業研究を行った。

##### (イ) 「心豊かなおかやまっ子」育成研修会(平成21年6月17日、11月25日)

就学前から高等学校段階までの心の教育の充実を図るため、県内公立の幼・小・中・高等学校、特別支援学校において道徳教育を推進する中核となる中堅教諭を対象に、学習指導要領の改訂の趣旨を踏まえた道徳教育推進の方向性や具体的な進め方等について認識を深めるための研修を行い、教員の指導力の向上を図り、研修に参加した教員が中心となり校内で公

開授業を行うことで、学校全体で取り組む体制づくりに努めた。

(ウ) 道徳教育実践研究事業 (国)

文部科学省の指定を受け、学習指導要領の趣旨や、児童生徒、学校、家庭及び地域等の実態を踏まえ、創意工夫を生かした道徳教育を推進するための実践研究を行い、研究発表会でその成果を普及することにより道徳教育の充実を図った。(幼稚園1園、小学校3校、中学校2校、高等学校1校)

(エ) あいさつ運動の実施

毎月10日を「県下一斉あいさつ運動の日」とし、各学校の校門や通学路等において「あいさつ運動」を実施し、子どもたちの豊かな心と社会性をはぐくむとともに、地域を挙げて子どもを見守り育てる気運を高めるよう取り組んだ。

## イ 体験活動の充実

(ア) 岡山チャレンジ・ワーク14

中学生が望ましい職業観や勤労観を育て、将来の自己の生き方を考え、様々な課題を乗り越えながら学習や生活にチャレンジすることができるよう、ほぼすべての中学校において3日間程度の職場体験活動を行った。今後は4～5日間への実施日数の拡充を図ることが目標であるが、実施時間、受入企業の確保に課題が残る。



岡山チャレンジ・ワーク14

「食品売り場での職場体験」

(イ) 豊かな体験活動推進事業 (国)

ア) 農山漁村におけるふるさと生活体験推進校

文部科学省の指定を受け、推進校において、校区の自然環境や生活環境とは異なる地域での宿泊体験活動を行った。

民泊を伴うため、大規模校では難しい。また、3泊4日以上のため授業時数の確保が課題となり推進校が挙がりにくいという課題がある。(推進校：公立小学校2校)

(ウ) “飛び出せ！専門高校生”地域実践サポート事業

県立専門高校5校で、生徒が授業で学んだ成果を生かし、近隣の小・中学生を対象とした出前講座の開催、学校間・他学科間が連携した地元活性化事業等、地域での実践的活動を行い、専門性の意義がより明確化された。(県立専門高等学校5校)

・出前講座・出前授業

地域の小・中学校に出向き実演することで、学んだことへの興味の深化、指導の難しさを学んだ。

・商品開発

地元特産物を使った商品を開発することで、生産者との関係構築の大切さ、利益を生むことの難しさを学んだ。

・商店・アンテナショップ出店

販売活動を通じて、価格設定の難しさや顧客ニーズを体感し、経営感覚が養われた。

(エ) 新高校生社会貢献活動推進事業

高校生の社会貢献活動を推進するための諸課題の協議を行い、事業の方向性を探るとともに、これまでの各校での取組に加え、県立高校を推進校に指定し、地域における貢献活動やボランティア活動を行い、貢献活動の在り方の調査研究を行った。(県立高等学校5校)

・推進協議会の開催(5、10、1月)

・各校での取組例

学校周辺での清掃活動 老人介護施設での交流体験 各種ボランティア活動への参加等

(オ) キャリア教育

ア) 新高校生キャリアアップ推進指定校事業

県立高校生が、大学等の上級学校、研究機関、企業等で体験活動を行ったり、専門家等を講師として招聘したりすることによって勤労観・職業観を養い、キャリア意識の向上を図った。(県立高等学校10校)

- ・上級学校・研究機関・企業等との連携
- ・インターンシップの実施
- ・学校間連携による他校授業の受講

イ) 高等学校におけるキャリア教育の在り方に関する調査研究 (国)

文部科学省の指定を受け、高等学校、特に、普通科高校におけるキャリア教育を充実するため、指定校において、指導内容・指導方法の充実・改善や外部人材の配置及び活用の在り方などについて調査研究した。(指定校：県立倉敷南高等学校、高梁高等学校)

(カ) ボランティア教育の推進

子どもたち一人ひとりがボランティア活動に自然に溶け込めるよう、学校行事、総合的な学習の時間等を通して、ボランティアの意義や活動の進め方についての学習を推進した。

(キ) 高校生「県産材活用」UD整備事業

高校生自らが企画・提案した「木の快適空間」をユニバーサルデザインの観点に立ち、県産材を活用して整備した。

整備校・企画グループ名	整備概要	決算額(円)
津山商業高等学校 自彊プロジェクト チーム	商品実験室を「津山商業ブランド」の商品開発の場、また生徒の安らぎの空間として多目的教室に改修 面積：128㎡	9,869,050

(ク) 高校生「エコ広場」UD整備事業

高校生自らが企画・提案した「憩いの広場」をユニバーサルデザインの観点に立ち、エコ製品を活用して整備した。



整備校・企画グループ名	整備概要	決算額(円)
岡山工業高等学校 OKAKO魂	土木化工科棟と電気科棟の間の広場をエコ製品を使って整備 面積：約700㎡	9,794,400

(ケ) 学校文化活動の促進

ア) 鑑賞・体験機会の提供と文化の担い手育成

ア 創作発表会の実施状況

事業名	期日	会場	入場者数
第33回岡山県高等学校総合文化祭 (総合開会式、16部門の開催)	平成21年5月9日～ 平成22年2月14日	マービィふれあい センターほか	9,479人

## イ 青少年劇場巡回公演の開催状況

区分	演 目	期 日	会 場	入場者数
青少年劇場 巡回公演	演劇集団遊玄社 「音楽劇 イソップランド の動物たち」	平成21年5月25日～ 6月5日	県内10小学校	4,037人

## ウ 本物の舞台芸術体験事業（学校公演）の開催状況

区分	演 目	期 日	会 場	入場者数
オーケストラ	テレマン室内管弦楽団 「～ストローとテレマンは僕 の友達～」 広島交響楽団 「カルメン」「おもちゃのシ ンフォニー」ほか	平成21年9月25日～ 10月28日	県内3小学校	1,236人
ミュージカル	劇団 新児童 「ききみみずきん」	平成21年11月26日～ 12月2日	県内4小学校	1,737人
児童劇	劇団 風の子九州 「なるほ堂ものがたり」	平成21年11月30日～ 12月2日	県内3小学校	460人
能 楽	(株)上田観正会能楽堂 「高砂」「柿山伏」「土蜘蛛」ほか	平成21年12月18日	県内1中学校	61人
演 芸	(社)落語芸術協会 「時そば」「寿限無」ほか	平成21年12月9日	県内1小学校	388人
合 唱	(財)新国立劇場運営財団 日本の歌・オペラ合唱曲	平成22年1月25日	県内1小学校	293人

## エ 子どもの映画鑑賞普及事業の開催状況

区分	演 目	期 日	会 場	入場者数
映 画	青い鳥	平成21年5月29日 平成21年11月4日	総社市総合文化センター 玉野市立八浜中学校	955人
	ウィニング・パス	平成21年6月7日	倉敷市立黒崎中学校	187人
	あした元気にな～れ!	平成21年6月30日	津山市立向陽小学校	296人

## オ 地元オーケストラによる各種公演

事 業 名	期 日	会 場	入場者数
スクールコンサート 「岡山フィルハーモニック管弦楽団」	平成21年5月7日～ 5月28日 平成21年10月2日～ 11月30日	県下25小・中・高等学 校ほか	7,945人
児童生徒に贈るハッピー・ハートフルコ ンサート（鑑賞と合同演奏等）	平成21年10月7日 平成21年11月24日	岡山市立東疇小学校 岡山市立操明小学校	550人 660人

### イ) 発表機会の提供と文化交流の促進

#### ア 全国高等学校総合文化祭派遣事業

第33回全国高等学校総合文化祭が、平成21年7月29日から8月2日までの5日間にわたり、三重県において開催され、岡山県からは17部門に325人が参加した。

## ウ 学校適応の推進

### (ア) 校内指導体制整備

#### ア) 生徒指導連絡協議会の実施

生徒指導上の諸問題について、各学校の生徒指導担当者が情報交換、研究協議等を行うことにより、学校における生徒指導の充実を図った。

ア 小学校：平成21年5月25日（県総合教育センター）

イ 中学校：平成21年5月18日（県総合教育センター）

ウ 高等学校、特別支援学校高等部：平成21年5月22日（県総合教育センター）

イ) 学校コンサルテーション

いじめ、不登校、学級が機能しない状態、問題行動等、生徒指導上の諸問題や障害のある児童生徒一人ひとりに応じた支援等について、県総合教育センター指導主事が公立小・中・高・特別支援学校の校内支援チームに対するコンサルテーションを行うことにより、より有効な校内指導体制の整備を図った。

(イ) 教育相談体制の充実

県総合教育センター、県青少年総合相談センター、倉敷・高梁・津山教育相談室において教育相談（面接・電話）を次のとおり実施し、個別指導の徹底を図った。

また、県青少年総合相談センターにおいては、進路相談も実施した。

区 分		相 談 回 数	相 談 内 容	会 場	相 談 日	
県総合教育センター	教育相談	面接相談	不登校・いじめ、集団 適応等	県総合教育センター	月～土※	
		電話相談			延べ 495	月～金
	医師による教育相談				延べ 21	毎月第4 水曜日
	特別支援 教育相談	面接相談			延べ 817	月～土※
		電話相談			延べ 464	月～金
県青少年総合 相談センター 及び 教育相談室	面接相談	延べ 941	不登校・いじめ等	県青少年総合相談 センター ・3教育相談室	週3～毎日	
	電話相談	延べ2,063			週3～毎日	
	面接相談	延べ 59	進路相談	県青少年総合相談 センター	毎日	
	電話相談	延べ 380				

※土曜日は長期休業中を除く第2・4土曜日のみ実施

(ウ) 学校適応推進に係る事業

ア) 生徒指導推進協議会の設置

生徒指導上の課題に対して、学校・家庭・地域における取組の一層の推進を図るため、学識経験者や関係機関・学校関係者（13名）による協議を年2回行い、施策等への意見や示唆を得ることができた。

7月：暴力行為への対応

11月：不登校への対応

また、不登校の課題を解決するための具体的な施策や取組について、不登校児童生徒の保護者や親の会の関係者等と話し合う意見交換会を年2回行った。

イ) スクールカウンセラー配置事業 (国)

臨床心理士等のスクールカウンセラーを県内全公立中学校（126校：岡山市を除く）及び公立小学校10校へ配置し、生徒・保護者へのカウンセリングや、教職員への指導助言を行った。

ウ) スクールサポーター配置事業

不登校生徒が存在し、かつ4学級以上の公立中学校（68校）及び小学校（19校）に地域人材等を活用したスクールサポーターを配置し、児童生徒や保護者の訪問支援等を行った。

エ) 新スクールソーシャルワーカー活用事業 (国)

問題を抱える児童生徒の置かれた家庭環境や社会環境に働き掛けることによって児童生徒を支援するため、教育の知識に加えて、社会福祉等の専門的な技術をもったスクールソーシャルワーカーを指導課に配置し、不登校をはじめとする問題行動や児童虐待等で要請のあった学校へ派遣するなど、児童生徒や保護者、学校への支援を行った。

（対応件数 48件：小22件 中18件 高4件 教委4件）

わ) **新**思春期サポート事業

全県立高等学校で、臨床心理等の専門家<sup>（べい）</sup>を招聘し、生徒・保護者に対するカウンセリングや教職員に対するケース会議における助言、生徒対象の自殺予防・暴力防止教室、教職員研修等を行うことにより、不登校・暴力・リストカット・発達障害等に対する学校の対応力の向上を図った。（1校平均 12回の派遣）

か) 不登校対策のための教員派遣事業 **（国）**

深刻な不登校問題を抱える中学校40校に非常勤講師を配置した。

き) いじめ防止プロジェクト

6月第1月曜日から1週間を「いじめについて考える週間」として設定し、学校におけるいじめの未然防止等についての取組を発表する「いじめ防止推進大会」（6月2日（火）講演、パネルディスカッション 約300名参加）を開催した。

また、児童生徒からいじめ防止ポスター及び標語を募集し表彰した。

（応募総数 ポスター：2,429点、標語：8,595点）

さらに、それぞれの学校で実施する「いじめ防止教室」での講師招聘の支援を行った。

（小学校13校、中学校2校、高等学校6校、特別支援学校2校）

く) 進路相談事業

中・高等学校における不登校生徒や高等学校中途退学者の適切な進路選択を支援するため、県内3会場で進路相談会を実施した。（参加者数：延べ819名参加）

け) 児童生徒自立支援事業 **（国）**

長期に及ぶ不登校の状態になることを未然に防ぐために有効な支援策として、地域における教育と福祉及び保健・医療との連携を進めていくとともに、連携を推進するコーディネーターを養成するための研修を実施した。

また、いじめ、不登校、暴力行為、高校中退、児童虐待の5つの課題に関し、未然防止、早期発見、早期対応の効果的な取組について、地域の課題を明確にし、課題解決に向けた取組の工夫や効果的な方策を見いだすための研究を市町村において行った。（11市町）

さらに、教育支援センターのない1市1町を不登校対策重点地域に指定し、効果的な支援員の活用や支援の方法を研究した。

こ) 学校問題解決支援事業

学校と保護者等との間で解決が困難になった問題等について解決を図るために「学校問題相談窓口」を設置した。（相談件数：183件）

また、学校における生徒指導上の重大な事案が発生した際に、現地で助言・指導を行う「緊急危機支援チーム」を派遣した。（派遣件数：3件）

**(イ) 児童生徒健全育成推進に係る事業**

ア) 岡山県学校警察連絡協議会

文部科学省の指定を受け、学校と警察が連携して児童生徒への健全育成に関する取組を推進し、児童生徒の問題行動への対応の充実を図った。（県内22署の地区学警連会長、警察、教育行政関係者等による総会を1回実施）

イ) 生徒指導ネットワーク事業

指導課内に警察OB等による生徒指導ネットワーク相談員を3名配置し、学校からの要請に基づき、問題行動ケース会議や非行防止教室等に参加して教員への助言を行うなどし、学校と関係諸機関との行動連携の促進を図った。

ウ) 生徒指導総合連携推進事業 **（国）**

指定地域において、地域の関係機関が一体となって、少年非行等の多様な問題行動の予防と解決に向けて、地域のネットワークづくり等実践的な取組を行った。

(指定地域：瀬戸内市)

エ) 生徒指導推進協力員配置事業 ④

小学校段階からの問題行動への指導体制強化として、経験豊富な退職校長や警察官OB等を生徒指導推進協力員として配置し、中学校区内の小学校を巡回した。

(3市1町4中学校区14小学校)

カ) 新ネットパトロール事業

岡山県緊急雇用創出事業臨時特例基金を活用し、インターネット上のいじめや誹謗中傷<sup>ひぼう</sup>、犯罪被害等から児童生徒を守るため、早期発見と早期対応の観点から、学校非公式サイト(いわゆる学校裏サイト)、ブログ、プロフ、家出サイトなどの検索、監視等を行う「ネットパトロール事業」を実施した。

検索された不適切な書き込み等については、各学校において児童生徒の状況や実情に応じた指導が行われた。(県内全公立小・中・高・特別支援学校対象)

## 評価

道徳教育や体験活動など就学前から高等学校段階までの心の教育の充実を図るとともに、いじめ・不登校等の問題の解決に向けて、専門家や関係機関等との連携を強化し、学校における生徒指導体制の充実を支援することができた。

・いじめ、不登校等については、その防止や早期解決に努めたが、いじめの認知件数は、平成20年度に比べ減少したものの、依然として高い水準にある。また、不登校の出現率は、小学校・中学校・高等学校とも、全国に比べ高い状況が続いている。更に、公立学校における学校内外での暴力行為の発生率も増加傾向にある。

各学校においては、教職員研修や教育相談体制の強化を図るとともに、教職員が生徒指導や道徳教育の在り方をしっかりと共通理解した上で指導に当たることが重要である。今後は、今までの取組の効果を検証し、各学校での取組の参考となる県としての方針や対策について総合的に検討・協議し、各学校に還元していくことが課題である。

・道徳教育については、県の道徳教育の施策及び取組の方向性の協議を行う「道徳教育について考える会」において、心豊かな子どもたちの育成に向けて「中間まとめ」を公表するなど充実を図った。

今後は、新学習指導要領の趣旨を踏まえ、着実に推進する必要がある。また、「中間まとめ」の周知を図るとともに、具体的な取組につながる工夫をすることや、就学前から高等学校までの一貫した道徳教育の在り方についての議論が必要である。

・体験活動については、おおむねすべての公立中学校において、職場体験事業が実施された。今後は、4～5日の職場体験の実施を拡大する必要がある。また、体験活動と各教科や道徳との関連を一層図る工夫が必要である。

インターンシップに参加する公立高等学校生徒数は、平成20年度から98人増加の4,026人だったが、全生徒に占める割合は11%にとどまっており、特に普通科高校生徒の参加について改善する必要がある。

・児童生徒の問題行動等に関して、岡山県における不登校児童生徒数は、平成20年度に比べ小・中学校ともに減少したが、出現率は小学校が0.47%、中学校が3.06%であり、ともに全国平均(小：0.32%、中：2.77%)を上回っている。不登校にならないための未然防止と、不登校児童生徒への対応に粘り強く取り組む必要がある。

学校にはない専門性を持ったスクールソーシャルワーカーを新たに配置し、家庭への働き掛けや医療・福祉関係と連携して取り組んだことにより解決を見た生徒指導上の案件も多い。今後、スクールソーシャルワーカーの拡充に努めるとともに、問題を学校だけで抱えるのではなく関係機関との連携を更に促進するなどの必要がある。

- ・暴力行為の発生件数は小・中学校で増加傾向にあり、暴力行為への対応が急務である。教員による毅然とした対応に加え、地域の人材等を活用した学校支援体制の強化を進める必要がある。
- ・インターネットや携帯電話等を取り巻く問題については、インターネット上の掲示板の書き込みを検索・監視するネットパトロール事業を実施し、いじめや犯罪等の未然防止、早期発見に役立てることができた。また、携帯電話等の問題点や危険性などについて、PTA研修会での講演や広報誌への掲載などを通じて、保護者への啓発に努めた。今後も引き続き、情報モラルや、トラブルに巻き込まれないための安全・安心な利用についての児童生徒への指導や保護者への周知について取り組むことが必要である。

## 参考数値

### ○公立高等学校（全日制）におけるインターンシップ参加生徒数 [出典：県教育庁指導課調べ]

目標値 (H24.3)	実績値		
	H19	H20	H21
4,500	3,637	3,928	4,026

(単位：人)

### ○様々な体験活動に参加した青少年の数

[出典：社会教育施設での青少年対象講座参加者数、岡山チャレンジ・ワーク14の参加生徒数]

目標値 (H24.3)	実績値			
	H18	H19	H20	H21
130,000	106,724	110,736	121,593	123,466

(単位：人)

### ○情報モラル等を指導できる教員の割合 [出典：ICT活用指導力に関する調査]

目標値 (H24.3)	実績値		
	H19	H20	H21
95	58.4	60.1	62.3

(単位：%)

### ○県立学校の授業等を支援している外部人材の数 [出典：社会人講師活用状況調査]

目標値 (H24.3)	実績値			
	H18	H19	H20	H21
2,200	1,747	1,777	1,963	2,252

(単位：人)

### ○国・公・私立学校における不登校の状況 [出典：文部科学省調査、県教育庁指導課調べ]

(30日以上欠席した児童生徒の内、「不登校」による欠席者数)

〈小学校〉

年度	長欠者数 (人)	不登校 (人)	出現率(※)(%)	
			岡山県	全国
平成19年度	1,421	527	0.47	0.34
平成20年度	1,320	527	0.46	0.32
平成21年度	1,233	528	0.47	0.32

〈中学校〉

年度	長欠者数	不登校	出現率	
			岡山県	全国
平成19年度	2,571	1,812	3.19	2.91
平成20年度	2,442	1,752	3.11	2.89
平成21年度	2,460	1,743	3.06	2.77

〈高等学校〉

年度	長欠者数	不登校	出現率	
			岡山県	全国
平成19年度	2,254	1,514	2.72	1.56
平成20年度	2,061	1,360	2.47	1.58
平成21年度	1,980	1,377	2.53	1.55

※ 出現率：不登校児童(生徒)数÷在籍児童(生徒)数×100

### (3) 高等学校教育体制の整備・充実

#### 施策の目標

子どもたちが能力・適性・目的等に応じて進路を選択できる教育システムづくりを進める。

#### 教育委員会での主な意見

[平成21年7月3日(金)]

○岡山県立新設中等教育学校の学校名及び概要について

- ・勉強だけに偏らないように、部活動や生徒会活動は重要だ。
- ・前期課程の最後に海外研修を行うとのことであるから、後期課程で海外研修をしたことを活用できる教育をする視点が重要だ。

[平成21年8月21日(金)]

○再編により整備する新しい高等学校の教育内容等について

落合・久世・勝山・蒜山高等学校グループ・プロジェクトチーム(第2次まとめ)

- ・学校の魅力を向上させることは考えているか。

[平成21年11月20日(金)]

○県立高等学校等の入学者選抜における新型インフルエンザへの対応について

- ・入学者選抜の公平性の観点と、受検機会の確保のための最大限の配慮から、よく考えた方法だ。来年以降の対応も想定しておく必要がある。

#### 教育委員会での審議等を踏まえた施策等

○岡山県立新設中等教育学校の学校名及び概要について

- ・「知識と体験の融合」を教育活動の中心に据えている。
- ・海外研修終了後は修了論文「地域から世界へ」を作成する。後期課程では英語、地理・歴史等で関連事項を取り上げる。TOEFL、TOEICに挑戦する。

○再編により整備する新しい高等学校の教育内容等について

《平成21年度》

- ・地元説明会での意見を可能な範囲で取り入れ、専門教育の学習環境維持の面から校地制を採用したり、学科の見直しを行った(平成22年3月)。

《平成21～22年度》

- ・落合・久世高等学校の再編整備による新校の校名を公募することとした(平成22年3～5月)。

○県立高等学校等の入学者選抜における新型インフルエンザへの対応について

- ・新型インフルエンザへの対応について、中学校及び高等学校に通知するとともに、報道して学校教育振興課ホームページに掲載した(平成21年11月)。
- ・新型インフルエンザ対応の追受検の実施等について、県内の中学校及び高等学校に通知(平成21年12月)して周知した上で、一般入学者選抜を実施した。

#### 施策の概要

##### ア 入学者選抜制度・方法の改善

###### (ア) 自己推薦による入学者選抜の実施

多様な能力・適性や意欲・関心を持つ生徒が、自分に合った進路を主体的に選択し、入学後も意欲的に学校生活を送れるようにするため、また、希望するすべての生徒に受検の機会を拡大するために、自己推薦による入学者選抜を全県立高等学校で実施した。これにより、

高等学校においても、学科等の特色に応じた選抜資料、選抜方法を工夫することにより、自校にふさわしい生徒の入学を一層促進した。

#### (イ) 学力検査問題の自校作成

入学者選抜において、受検者の学力や適性等によりきめ細かく応じた選抜を実施するため、希望する学校において、一般入学者選抜の学力検査問題を各高等学校が独自に作成した。

(実施校及び作成教科：岡山朝日高等学校（国語、数学、英語）)

#### (ウ) 学力検査の得点の簡易開示

岡山県個人情報保護条例に基づき、一般入学者選抜で実施する学力検査の各教科の得点を簡易な方法による開示請求によって受検者本人に開示した。

#### (エ) 県立高等学校の生徒募集定員

平成22年度県立高等学校第1学年の生徒募集定員は、本県の学区制の趣旨に照らし、進学機会の確保と中学校卒業者の進路の適正化に資するため、県高等学校教育研究協議会の答申等の趣旨を尊重しながら、県内各地域の中学校卒業生数の動向、公私立高等学校間の教育分担、中学校卒業生の進学希望状況などを慎重に見極め、次のとおり策定した。

課 程	学 科 名	平成22年度定員A	平成21年度定員B	前年度差 A - B
全 日 制	普 通	6,460人	6,260人	200人
	普通科系の専門学科	680人	680人	0人
	農 業	705人	705人	0人
	工 業	1,760人	1,640人	120人
	商 業	1,640人	1,520人	120人
	家 庭	480人	480人	0人
	看 護	120人	120人	0人
	情 報	40人	40人	0人
	福 祉	40人	40人	0人
	その他の専門学科	40人	110人	△70人
	総 合 学 科	560人	560人	0人
計	12,525人	12,155人	370人	
定 時 制	普 通	120人	120人	0人
通 信 制	普 通	500人	500人	0人
専 攻 科	看 護	120人	120人	0人

※普通科系の専門学科は、理数科、国際情報科、体育科、未来創造科及びキャリア探求科

※その他の専門学科は、環境科学科、環境技術科及び環境デザイン科

## イ 高等学校の魅力づくり

### (ア) 活力ある高等学校づくりの推進

平成19年度から「活力ある高等学校づくり推進事業」を実施し、高等学校の魅力づくりに向けた研究を継続した。

矢掛・倉敷中央の2校について、学校と県教委とで推進協議会を設置し、平成23年度以降の導入・実施に向けた具体的な検討を進めた。

○ビジネス系学科の新設を視野に入れた普通科の改編

矢掛高校（平成23年度予定）

○普通科及び普通科人間探究コースの在り方について

倉敷中央高校普通科、普通科人間探究コース

### (イ) 中高一貫教育の推進

平成21年4月に、岡山大安寺高等学校内に新設中等教育学校開校準備事務局を設置し、本県初の中等教育学校の平成22年度の開校を目指し準備を進めた。

## ウ 県立高等学校の再編整備

岡山県立高等学校教育体制整備実施計画に基づき、平成14年4月に13グループ30校を検討対象校として決定し、平成14年度は6グループ16校〔注1〕、平成15年度は5グループ11校〔注2〕の検討に着手し、平成19年度からは、残る2グループの検討に着手した。

平成20年8月に再編整備方針を発表した弓削・津山工業高等学校グループについては、4月に開校準備委員会を設置し、学校運営方針の決定や生徒募集など、平成22年度の新しい学校の開校に向けた諸準備を進めた。この間、7月には、県教育委員会において久米・津山地域新校等学校の校名を津山工業高等学校と決定し、「新校の概要」を発表した。

落合・久世・勝山・蒜山高等学校グループについては、8月に、それまでの教育内容等の検討状況を「第2次まとめ」として取りまとめ、これを基に地域の意見を聴きながら議論を深め、平成22年3月には「最終まとめ」として新しい学校の概要を取りまとめた。この間、11月には、県教育委員会において、再編整備の実施年度を平成23年度、落合高等学校、久世高等学校については新しい学校の校地を落合高等学校地とするが、当分の間農業科（生物生産科・食品科学科）は久世高等学校の校地を活用するとした。また、勝山高等学校については設置学科の教育内容等を見直し、新しい勝山高等学校を開校するとし、平成20年11月の県立高等学校再編整備方針により蒜山高等学校の再編整備を実施することになった場合には、勝山高等学校と実施するとした。

〔注1〕 川上農業・成羽・高梁工業高等学校グループ  
至道・落合・(久世)・(勝山)高等学校グループ  
大原・江見商業・林野高等学校グループ  
矢掛・矢掛商業高等学校グループ  
児島・琴浦高等学校グループ  
新見・新見北高等学校グループ

〔注2〕 金川・福渡・(弓削)高等学校グループ  
備作・和気閑谷高等学校グループ  
日本原・勝間田高等学校グループ  
吉備北陵・高梁高等学校グループ  
井原・精研高等学校グループ

## エ 再編整備実施に伴う通学費貸付事業

再編整備に伴い遠距離通学を余儀なくされる生徒に対し、通学費負担増の激変緩和措置として、期間を限定した通学費貸付制度を実施した。

募集停止した 高校	対象中学校	指定高校	貸付月額 (円)	貸付者数 (人)	貸付額 (千円)	対象期間
福渡高校	建部中学校	岡山御津高校 弓削高校	18,000	2	432	H17～H21 (H17.3～H19.3中 学校卒業生)
備作高校	吉井中学校 英田中学校 佐伯中学校 柵原中学校	津山高校 津山工業高校 津山商業高校 津山東高校 和気閑谷高校 瀬戸高校 瀬戸南高校 勝間田高校 林野高校				H17～H21 (H17.3～H19.3中 学校卒業生) ※津山東高校看護 科は5年一貫教育 のためH23まで実 施
日本原高校	勝北中学校 奈義中学校	津山高校 津山工業高校 津山商業高校		7	1,512	H17～H21 (H17.3～H19.3中 学校卒業生)

		津山東高校 勝間田高校 林野高校			※津山東高校看護科は5年一貫教育のためH23まで実施
吉備北陵高校	加茂川中学校 竹荘中学校 吉川中学校 大和中学校	高梁高校 高梁城南高校 岡山御津高校	5	1,080	H18～H22 (H18.3～H20.3中学校卒業生)
江見商業高校	大原中学校 作東中学校 西粟倉中学校	林野高校 勝間田高校	13	2,808	H19～H23 (H19.3～H21.3中学校卒業生)
高梁城南高校 (川上校地)	成羽中学校 川上中学校 備中学校	高梁高校 高梁城南高校 (高梁校地)			H20～H24 (H20.3～H22.3中学校卒業生)
合 計			27	5,832	

## 評 価

平成12年2月の岡山県高等学校教育研究協議会の答申「平成20年度を目途とする県立高等学校教育体制の整備について」を踏まえた「岡山県立高等学校教育体制整備実施計画」(H14)に基づき、段階的に行ってきたが、平成21年に真庭地域の県立高等学校の再編整備方針を決定した。これにより全県下で地域ごとに適正規模の高等学校を配置し、地域の実情に応じた特色ある教育を展開するための基盤が整った。また、本県初の中等教育学校を設置し、個性重視の教育の展開、進路選択の幅の拡大を図ることができた。

- ・平成21年度に県立岡山大安寺中等教育学校を設置し、平成22年4月に開校した。6年間を見通した教育を行うことができるのが特長であり、生徒や保護者の進路選択の幅を拡大するものでもある。また、「知識と体験の融合」を図り、学習を真の学力に高める活動に取り組むこととしている。
- ・落合・久世・勝山・蒜山高等学校グループ・プロジェクトチームで、地域、生徒、保護者のニーズを踏まえた新しい学校の概要について検討を行った。真庭南地域新高等学校については新しい学校の校名を公募し、900件近い応募の中から、県立真庭高等学校と決定した。
- ・新型インフルエンザの感染が拡大している状況の中で、受検生の不安を解消し、受検機会の確保を図る観点等から、平成22年度県立学校入学者選抜では追受検の機会を設けることとした。結果的には、検査当日にインフルエンザの症状のある受検者はなく、適用の必要はなかったが、万一に備えた危機管理の充実を図った。

## 参 考 数 値

### ○学校生活に満足している割合 [出典：高校生活に関する意識調査]

目標値 (H23.5)	実 績 値			
	H18	H19	H20	H21
83	79	79	81	81

(単位：%)

### ○中高一貫教育・総合学科等の新しい形態の学校数

目標値 (H23.4)	実 績 値			
	H18	H19	H20	H21
29	24	27	27	27

(単位：校)

## (4) 特別支援教育の推進

### 施策の目標

障害の状態や発達段階等に応じて、障害のある児童生徒一人一人の教育的ニーズに応じた適切な教育を推進する。

### 教育委員会での主な意見

[平成21年5月22日（金）]

○平成21年度岡山県立特別支援学校への就学等の状況について

- ・福祉施設が特別支援学校高等部卒業生の多くの人の受け皿となっているならば、福祉施設の充実も必要なことだ。

○倉敷地域新設高等特別支援学校（仮称）について

- ・職業訓練であるので、教員だけでなく外部の方の支援は必要だと思うが、その際に、特別支援学校独特のルールとノウハウもあると思うので、そのことはしっかりと踏まえてもらいたい。
- ・普通の高等学校の工事と異なり、障害のある子どもたちが通学するという観点からの、大規模改造工事中の安全配慮のチェックをする必要がある。
- ・目指す学校像は、社会自立を目指すなど、いいテーマで作られている。地域の会社や事業所と協力し、理解を得ることが大切だ。

[平成21年8月21日（金）]

○「岡山県の特別支援教育」（冊子）について

- ・説明用パンフレットなので、もう少し紙質を落とすなど、目的に応じた品質で作るべき。
- ・相談機関の一覧が載っているが、県や市などの相談機関が混在していて分かりにくい。対象者を記載したり、設置者別に並べ方を工夫したりすることで分かりやすくなる。

### 教育委員会での審議等を踏まえた施策等

《平成22年度》

- ・「“通常の学級における”「特別支援教育」の視点を取り入れた授業づくり（パンフレット）について」の作成（平成22年4月）
- ・広域連携協議会等で、教育庁と保健福祉部局が互いの現状と課題について情報交換等を行い福祉施設の充実の必要性等についても確認し合い、部局間連携を図った。
- ・平成22年4月に開校した倉敷琴浦高等支援学校については、開校後も順次校舎整備を実施している。平成22年度工事に際しては、仮囲いで工事範囲を区画し、生徒への安全対策に万全を期した。
- ・平成22年度「岡山県の特別支援教育」（冊子）の作成にあたっては、紙質を落とし印刷費の節減に努めた。また、読みやすくする工夫として、全体的な配置やデザインの変更も行った。

### 施策の概要

#### ア 教育体制の整備

##### (ア) 特別支援学校における医療体制の整備

肢体不自由部門への看護師配置

医療的ケア充実事業

##### (イ) 特別支援学校の整備

ア) 岡山瀬戸高等支援学校の開校(H21.4)

イ) 倉敷琴浦高等支援学校の開校に向けての準備



倉敷琴浦高等支援学校 開校式・第一回入学式

(H22.4開校)

(ウ) 教育環境の整備

誕生寺養護学校(～H22)、西備養護学校(～H22)、東備養護学校(～H22)の校舎等整備

イ 就学指導体制の整備充実

(ア) 県特別支援教育就学指導委員会(全体会2回、専門部会9回)

(イ) 巡回就学相談(県下6会場、各1日、相談件数116件)

(ウ) 就学指導等連絡協議会の開催

(市町村教育委員会、特別支援学校就学指導担当者等対象、2日)

ウ 教職員の指導力の向上

(ア) 内地留学、各種研究大会等への教員派遣

(イ) 教職員研修

ア) 特別支援教育教育相談研修講座、特別支援教育授業づくり研修講座、特別支援教育基礎研修講座、重度・重複障害児の理解と支援研修講座

イ) 発達障害児の理解と支援研修講座、アセスメント研修講座

ウ) 免許法認定講習(視・聴・知(各1単位)、視・聴・知・肢・病共通(2単位))

エ) 特別支援教育新任コーディネーター研修講座

オ) 高等学校特別支援教育コーディネーター研修講座

カ) 特別支援学級等新任担当教員研修講座

キ) 特別支援学級担当教員スキルアップ研修講座

(ウ) 特別支援学校における初任者研修、5年経験者研修、10年経験者研修、15年経験者研修の実施

エ 特別支援教育の推進

(ア) 特別支援教育推進事業

ア) 特別支援学校のセンター的機能充実事業  
公開講座の開催

イ) 「特別支援教育の視点を取り入れた授業づくり」のパンフレット作成

ウ) 「高等学校における特別支援教育」のパンフレット作成

(イ) 医療的ケア充実事業

ア) 医療的ケア連絡協議会

イ) 医療的ケア運営協議会

ウ) **新**教員による医療的ケア実施モデル事業

(ウ) 発達障害等支援事業

ア) 特別支援連携協議会の設置(広域:年2回、地域:4支援地域、年2回)  
教育・福祉・医療等関係機関の連携協力

イ) 専門家チームの設置(4支援地域)

大学教授・医師・臨床心理士等で構成、巡回相談員と同行して実態把握・助言等

ウ) 巡回相談員の派遣(4支援地域)

特別支援学校・特別支援学級・通級指導教室の教員で構成、小・中学校等を訪問しての実態把握・指導助言等

エ) 専門家チーム・巡回相談員連携会議の開催(4支援地域・年2回)

- わ) スーパーサポートチーム連絡協議会
- か) 発達障害等地域支援体制整備事業（津山市、玉野市、井原市、新見市、美作市）
- き) 高等学校における発達障害等支援事業（11校）

**(エ) 市町村における支援体制整備**

- ア) 発達障害等支援・特別支援教育総合推進事業 (国)  
（指定先（地域指定）：全県 平成21年度文部科学省委嘱事業）
- イ) 発達障害児の指導力向上事業（津山市・玉野市各2校）
- ウ) **新**自閉症に対応した教育課程の在り方に関する調査研究事業（玉野市 平成21年度文部科学省委託事業） (国)
- エ) 発達障害等地域支援体制整備事業（県内5市）

**(オ) 特別支援学校職業自立推進事業**

- ア) 就業支援アドバイザー配置事業  
企業における障害者雇用の担当経験者等を就業支援アドバイザーとして配置
- イ) ジョブ支援員活用事業  
中学部～高等部の生徒を対象に実施する企業における就業体験において、個々の生徒の実態に応じて必要な個別支援を行うジョブ支援員を配置

**オ 障害児に対する正しい理解の推進**

**(ア) 特別支援学校体験入学**

（児童生徒、保護者、教育委員会担当者、教職員及びボランティア等対象）

**(イ) こころをつなぐ作品展**

**評 価**

特別支援学校の新設など、教育上特別な支援を必要とする幼児児童生徒が近年増加傾向にある中で、全県的視野に立った教育体制の整備や、就労による社会自立を目指した職業教育の充実、発達障害児へのきめ細かな対応などを通じて、児童生徒一人一人の発達段階や障害の状態、教育的ニーズの多様化等に対応した適切な指導・支援の充実を図ることができた。

- ・特別支援学校については、在籍する児童生徒の急増に対応するため、倉敷・総社地域等新設特別支援学校の整備を決定するなど、適切な教育ができる体制の整備を進めた。
- ・就労による社会自立を目指した専門的な教育を実施するため、高等部単独の特別支援学校として、平成21年度に岡山瀬戸高等支援学校を開校したのに続き、平成22年度に倉敷琴浦高等支援学校を開校し、県南部の高等部生徒の急増に対応した。
- ・中・高等部の生徒への就労体験の機会拡大を図るため、引き続き「ジョブ支援員」を配置し、就労体験中に必要な支援を行うとともに、「就労支援アドバイザー」を配置して、実習先や就労先の開拓を進めた。今後は、就労による社会自立を目指す「職業コース（仮称）」の設置など、新たな教育課程の編成等について検討するとともに、学習指導要領の改訂内容を踏まえ、職業教育の内容や方法の工夫、充実を図ることや、小学部からのキャリア教育の充実が課題である。
- ・発達障害を含む障害のある幼児児童生徒一人一人に応じた適切な指導・支援の方法、関係機関との連携等に関する助言又は援助を行うなど、特別支援学校のセンター的機能の充実に努めた。
- ・肢体不自由特別支援学校において、日常的な医療的ケアを必要とする児童生徒に対し、必要な研修を受けた教員が看護師と連携して医療的ケアに当たる実施体制を整備した。平成21年度は、モデル校2校で実施し、平成22年度は5校（肢体不自由特別支援学校全校）で実施することとしている。
- ・教員の資質の保持と向上を図ることを目的として、免許法認定講習を実施しているが、特に特別支

援学校教員の専門免許状の取得率向上を図っているところであり、取得率は平成16年度以降、増加傾向で、平成21年度では、全国平均の67.9%を上回り、68.5%となった。引き続き、免許法認定講習を実施し、上級免許状等の取得を通して、教員の専門性の向上を図る必要がある。

・小・中学校等における特別な支援を必要とする幼児児童生徒に対しての校内支援体制の充実については、個別の教育支援計画を作成している高等学校の割合が平成20年度に1.5%であったものが平成21年度には13.6%になるなど、一定の成果が見られた。今後は、一人一人の幼児児童生徒の教育的ニーズに対応した適切な指導・支援の充実、関係機関との連携による支援体制の整備等が課題となっている。また、小・中学校の通常学級での「特別支援教育」の視点を取り入れた授業づくりや特別支援学級の教育課程の編成等、各校の専門性の向上にも引き続き取り組む必要がある。

・小・中学校における特別支援学級について、様々な障害に応じた教育的ニーズに対応し、きめ細かに適切な指導ができるよう、平成22年度は更なる増設を図ることとした。

## 参考数値

### ○特別支援学校教諭の専門免許取得の状況 [出典：文部科学省調査]

目標値 (H24.3)	実 績 値			
	H18	H19	H20	H21
70	57.0	66.6	66.8	68.5

(単位：%)

## **(5) 学習環境の整備・充実**

### **施策の目標**

開かれた学校づくりの推進や、耐震化をはじめとする施設等の整備・充実に努めるとともに、総合教育センターを中核として教職員の一層の資質能力の向上を図る。

### **教育委員会での主な意見**

[平成21年5月22日（金）]

○倉敷地域新設高等特別支援学校（仮称）について

- ・工事については、支障を最小限にするように、工事業者に丸投げせずに、きめ細やかな指導をして欲しい。
- ・普通の高等学校の工事と異なり、障害のある子どもたちが通学するという観点からの、大規模改造工事中の安全配慮のチェックをする必要がある。

[平成21年6月5日（金）]

○平成21年度6月補正予算協議額について

- ・高校生への奨学金貸与であるが、経済情勢の変化で奨学金を必要とする人がこんなにも増えたのかという印象だ。

[平成21年12月4日（金）]

○岡山県教育振興基本計画（仮称）検討委員会第4回会議の概要について

- ・学校の教員が背負う役割は大きい。この計画によって、教員への負担が増えることは本意ではないという意見があるが、負担が増えないようにという視点は大切だ。

### **教育委員会での審議等を踏まえた施策等**

《平成21年度》

- ・「子どもと向き合う時間の確保のために 平成20年度教員の勤務負担軽減に関する調査研究事業のまとめ」の作成（平成21年9月）
- ・「平成21年度学校マネジメント支援に関する調査研究事業のまとめ」を作成するとともに、リーフレット「子どもと向き合う時間の確保のために」の刊行及びホームページへ掲載（平成22年3月）

《平成22年度》

- ・「公立学校建物の耐震診断等の実施について」をホームページに掲載（平成22年6月）
- ・奨学金に関する案内のホームページへの掲載（平成22年7月）

### **施策の概要**

#### **ア 開かれた学校づくりの推進**

##### **(7) 学校評議員制度の実施**

小・中・高・特別支援学校の教頭、教諭を対象に、開かれた学校づくりの在り方等について、実施校等の成果を基に研修講座を実施するとともに、学校運営や教育内容について、すべての県立学校に「学校評議員」を設置し、保護者や地域住民の意向を把握し反映することにより開かれた学校づくりを一層推進した。

##### **(イ) 学校評価推進のための実践研究 ④**

学校評価推進協議会を開催し、県内の学校における学校評価の現状と課題について協議し充実・改善を図った。岡山県学校評価実践発表会を開催し、平成20・21年度の総社市にお

る文部科学省指定「学校評価の充実・改善のための実践研究」、「学校評価・情報提供の充実・改善のための実践研究」の成果を県内に広めた。

## イ 教職員の資質能力の向上

### (ア) 県総合教育センター事業

#### ア) 業務内容

##### ア 教職員研修

##### イ 教育に関する調査研究

##### ウ 教育情報の収集及び提供

- ・図書・資料の収集・提供
- ・マルチメディア教材の収集・貸与
- ・カリキュラムサポート（学習指導案、教材作成等の支援）等
- ・インターネットによる情報発信
- ・電子メールによる情報発信

##### エ 学校支援

- ・要請訪問

町村教育委員会の要請を受けて、指導主事を学校に派遣し、教育課程、学習指導、生徒指導上の諸課題の解決について助言を行うなど、域内の学校力向上のために必要な支援を行った。

- ・学校力向上サポートキャラバン事業

市町村教育委員会や学校等の要請を受けて、研究会や研修会に指導主事を派遣し、学校力向上及び時代の進展に対応した教育等についての講義・助言を行うなど、各地域及び学校の教育活動の充実のために必要な支援を行った。

### (イ) 県教職員研修講座

教職の重要性と教育についての基本的理念を十分認識し、資質能力・識見の向上、指導力の充実を図ることを目的とした「岡山県教職員研修講座」を、県総合教育センターを中心として企画・実施した。

#### ア) 基礎・基本研修

##### ア 経験年数別研修：ライフステージに応じた資質能力の向上

初任者（新規採用者）研修、5年経験者研修、10年経験者研修、15年経験者研修

#### イ) 発展・応用研修

##### ア 職能研修：職に応じた資質能力の向上

校長研修、教頭研修、主幹教諭研修、指導教諭研修、主任研修、担当者研修

##### イ 教科領域別研修：受講者の希望する教科領域の資質能力の向上

教育経営研修、教科教育研修、生徒指導研修、特別支援教育研修、情報教育研修

##### ウ 課題別研修：喫緊の課題等に対応した領域の資質能力の向上

#### ウ) 教育職員免許法等に定められた研修会 ㊦

免許法認定講習（小・中・養護教諭一種免許状、特別支援学校教諭二種免許状取得希望者及び実習助手）

#### エ) 教員免許更新制 ㊦

平成21年4月から教員免許更新制が導入され、本年度は昨年度に引き続き、更なる制度周知を行うとともに、所属に対しては、更新講習を受講しやすい環境づくりについての配慮を依頼し、受講対象期間に該当している教員に対しては、早めの受講を促した。また、県内の大学等に対しては、更新講習の開設を依頼し、受講予定者数に見合った講座の確保

に努めた。

#### (ウ) 内地留学等派遣

教員としての知識及び技術を深め、その資質能力の向上と指導力の充実を図るために、公立学校の教員を大学院等に派遣した。

##### ア) 大学院派遣

(兵庫教育大学大学院：3人、岡山大学教職大学院：20人)

##### イ) 産業教育(岡山大学：2人、民間企業：2人)

##### ウ) 特別支援教育(岡山大学：1人、国立特別支援教育総合研究所：3人、民間企業：2人)

#### (エ) 独立行政法人教員研修センター研修講座への派遣

独立行政法人教員研修センターが、校長・教頭、中堅教員等に対し、学校の管理運営、学習指導などの諸問題について、それぞれの職務に必要な研修を行い、その見識を高め、指導力の向上を図ることを目的に実施している研修講座に、公立学校の教員等を派遣した。

##### ア) 校長・教頭等研修：14人

##### イ) 中堅教員研修：15人

#### (オ) 教員の長期社会体験研修

社会の構成員としての視野の拡大や発想の転換など教員の資質能力の向上を図る観点から、長期にわたって民間企業や社会福祉施設等の学校以外の施設等へ教員を派遣した。

##### ア) 派遣対象：原則として教職経験5年以上の者

##### イ) 派遣人数：小学校2人、中学校1人

##### ウ) 派遣期間：6か月又は1年

#### (カ) 大学院修学休業

教員の自発的意思に基づく専修免許状取得のため、国内の大学院等への修学機会を確保した。

#### (キ) 岡山大学教育学部との連携協力

平成12年9月1日に岡山大学教育学部との間で「連携協力に関する覚書」を締結した。平成21年度は、「連携協力会議専門部会」(平成21年8月3日開催)と「連携協力会議」(平成21年8月20日開催)において実施内容等について協議を行い、次の事項に取り組んだ。

##### ア) 教員養成に関する事項

日本語指導の必要な外国人子女への学生ボランティアによる教科学習支援、県総合教育センターにおける研修講座及び発表会の学生への公開、現職教員等による教員養成への協力、教職志望学生のインターンシップ事業、学生による学力向上支援事業への協力

##### イ) 教員研修に関する事項

教員研修の共同開催、家庭科教員の資質能力向上のための研修、サイエンスパートナーシップ・プロジェクト、中・高等学校美術科の授業づくり等

##### ウ) 学校教育上の諸問題への対応に関する事項

子ども24時間電話相談事業への多面的な連携協力、「生きる力」支援事業、教職員のメンタルヘルス対策、大学・大学院での教員養成カリキュラムの改善

##### エ) その他両者が必要と認める事項

附属学校園を活用した研修講座の開催、情報化に対応した教育の充実、県生涯学習大学「大学院コース」講座の開設

##### オ) 重点事業(平成21年度)

教職希望学生の学校教員インターンシップ事業

#### (ク) 教育研究団体助成

幼・小・中・高等学校等の教育研究団体の研究活動を促進するため、各種研究大会の開催、研究調査の実施等に要する経費の一部を助成した。(7団体 2,400千円)

#### (ケ) 新しい教職員の評価システム等の在り方に関する調査研究

平成18年度から県内の全公立学校に導入した「新しい教職員の評価システム」が、教職員の資質能力の向上と学校組織の活性化のために、さらに有効なものとなるよう、学校関係者及び教育行政担当者による「新しい教職員の評価システム推進委員会」を設置し、各学校における取組等について検証した。

なお、指導力不足等教員の取扱いに関する規則に基づき、指導力不足と認定した3人に対して、指導力向上に向けた研修を実施した。

#### (コ) 教員の勤務負担軽減に関する調査研究 (国)

学校における教職員の勤務負担を軽減し、教員が子どもと向き合う時間を確保するために、平成20～22年度の3年計画で、調査研究を行っている。

平成21年度は、「学校マネジメント支援に関する調査研究委員会」を設置し、調査研究を行った。具体的には4研究部会を設置し、研究協力校で、会議や校務分掌等の在り方を中心に具体的な実践を行った。

また、教育庁内ワーキング会議を新設し、負担増の外的要因である出張・研修等、調査研究等の在り方の見直しについて具体的な取組を行った。

年度末には、各学校での取組推進の参考となるよう、平成21年度の調査研究、実践の事例等をまとめた冊子を作成し配布した。

### ウ 教職員の確保と適正配置

#### (ア) 公立小・中学校教職員定数

公立小・中学校の教職員定数は、公立義務教育諸学校の学級編制及び教職員定数の標準に関する法律に基づき算定されたものである。平成21年度の教職員数（標準法定数）は、次表のとおりである。

区 分	校 長	教 員	養 護 教 員	事 務 職 員	学校栄養職員	計
小 学 校	415人	5,918人	431人	437人	129人	7,330人
中 学 校	164人	3,428人	173人	179人	59人	4,003人

#### (イ) 特別支援学校教職員定数

特別支援学校の教職員定数は、学校増に伴い、14人の増となった。

区 分	校 長	教 員	養 護 教 員	事 務 職 員	学校栄養職員	実 習 助 手	計
特別支援学校	13人	(87) 人 1,109	22人	50人	12人	30人	(87) 人 1,236

( ) は寄宿舎指導員数で内数

#### (ウ) 公立定時制高等学校教職員定数

平成21年度は、岡山市の政令市への移行などの影響により、教職員定数は41人の減となった。

生 徒 数	教 職 員 数			計
	教 員	実 習 助 手	事 務 職 員	
1,751人	217人	1人	4人	222人

#### (エ) 県立全日制高等学校教職員定数

平成21年度は、県立全日制高等学校生徒数の減少に伴う学級減のため、教職員定数は51人の減となった。

生徒数	教 職 員 数			計
	教 員	実 習 助 手	事 務 職 員	
36,059人	2,728人	250人	235人	3,213人

(オ) 単県教職員の確保

へき地小規模校について、変則複式学級及び単複繰り返し学級で指導困難な学校に対して特別に教員を配置するとともに、大規模な中学校第1学年の学級編制の弾力化を実施するなど、次表のような単県施策による教職員定数の確保を行い、教育水準の向上を図った。

区分	過疎・へき地対策	指導対策	寄宿舎対策	病休代員	学級編制	合計
人数	41人	69人	8人	3人	45人	166人

(カ) 教職員の適正配置

ア) 平成21年度末教職員人事異動

県下すべての教職員が使命感に燃え、市部・郡部・へき地等あらゆる地域の教育を分担するとともに、異なる地域・規模・校種等での幅広い豊かな経験を積むことによって、学校教育のより一層の充実が図られるよう努めた。

学校種ごとの異動状況は次表のとおりである。

区 分	退 職	転 任	新 採 用	計
小 学 校	194人 76	697人 259	148人 41	1,039人 376
中 学 校	73人 37	362人 127	68人 16	503人 180
中等教育学校	0人	9人	0人	9人
高 等 学 校	104人	328人	61人	493人
特別支援学校	33人	104人	57人	194人
計	404人 113	1,500人 386	334人 57	2,238人 556

上段：岡山県 下段：岡山市

イ) 副校長等の配置

校長のリーダーシップのもと、組織的・機動的な学校運営が行われるよう、学校の組織運営体制や指導体制の充実を図るため、平成21年度末の教職員人事異動において、副校長、主幹教諭、指導教諭を増員した。

学校種ごとの配置数は次表のとおりである。

区 分	副校長	主幹教諭	指導教諭
小 学 校	3人	20人	32人
中 学 校	5人	20人	19人
中等教育学校	1人	1人	0人
高 等 学 校	10人	16人	25人
特別支援学校	12人	4人	6人
計	31人	61人	82人

## エ 健康と福利厚生

### (7) 教職員の健康管理対策

検 査 事 項			対 象	受 診 者 数	
定 期 健 康 診 断	呼吸器検診	X線直接撮影	全員	5,544人	
	消化器検診	X線間接撮影	35歳以上	3,969人	
	循環器検診	血 圧		全員	5,578人
		尿		全員	5,553人
		血液検査(貧血・肝機能・血中脂質・血糖)		35歳、40歳以上、新採用	3,962人
		心電図検査		35歳、40歳以上、新採用	4,036人
短期人間ドック	呼吸器・消化器・循環器検診等		45歳、50歳、60歳	1,115人	

### (イ) 教職員のメンタルヘルス対策

事業名	内 容	参加人数等
岡山県教職員復職支援システム	精神疾患等で休職した教職員の円滑な職場復帰と再発防止のため、休職者や所属長に対して休職中から復職後まで継続的かつ段階的な支援を行った。 ・岡山県教職員健康診断審査委員会「メンタルヘルス部会」の開催 ・復職プログラムの実施	実施者38人
心とからだの健康相談	福利課技師(保健師)による職場や家庭生活における心身の諸問題等に関する相談を実施した。	面接 2件 電話 10件 電子メール 0件
管理職メンタルヘルス研修講座(※)	管理職がメンタルヘルスについて正しく理解し、適切な対応についての知識・技術を習得するため、公立学校の管理職を対象に年2回実施した。	36人
「同僚性」を形成するためのミドルリーダー養成研修講座(※)	互いに支え合う学校風土をつくり、よりよい教育活動を展開するために、教職員の「同僚性」を形成するための実践力を養うことをねらいとして、公立学校教職員を対象に3日間実施した。	34人

※平成19年度から岡山県総合教育センターで実施

### (ウ) 安全衛生管理体制の充実

県立学校等の所属長(17所属)を対象に、教職員の健康管理等についての情報提供を行い、職場の安全衛生管理体制の充実を支援した。

### (エ) 喫煙対策

「健康増進法」や「健康おかやま21」の趣旨を踏まえ、学校が児童生徒の健康被害の防止や、喫煙防止教育を推進している教育機関としての社会的役割を一層充実するために、平成20年度から県立学校の敷地内禁煙を実施している。

### (オ) 教職員住宅の管理

既設住宅401戸の維持管理・補修を行うとともに、築後20年以上経過した住宅の一部について、内部大改修を実施した。

## オ 施設・設備等の整備・充実

### (7) 県立学校の施設整備

耐震診断の結果、優先度の高い施設の耐震補強工事を行い、併せて経年による建物の損耗、機能低下に対応し、概ね20年以上経過の建物を全面的に大規模改造することとして、岡山大安寺高校、東岡山工業高校等の整備を行った。



耐震化工事完了後の状況

また、特別支援学校整備では、平成21年度開校の岡山瀬戸高等支援学校及び平成22年度開校の倉敷琴浦高等支援学校の校舎整備、誕生寺養護学校の体育館建設工事及び中学部棟の大規模改造工事等を行った。

事 項 名	決算額 (円)	備 考
県立高等学校校舎整備費	2,069,103,722	校舎等耐震補強及び大規模改造 (10校) 岡山大安寺、東岡山工業、高梁、高梁城南、岡山工業、岡山芳泉、勝間田、倉敷工業、鴨方津山工業 耐震診断 (24校38棟) 岡山南、水島工業、津山工業、玉島、笠岡、西大寺、井原、総社、新見、瀬戸南、興陽、高松農業、岡山一宮、倉敷古城池、倉敷驚羽、岡山朝日、岡山大安寺、岡山工業、倉敷中央、倉敷商業、津山、笠岡工業、林野、岡山豊 実施設計 (耐震・7校) 岡山一宮、倉敷驚羽、岡山朝日、井原、鴨方、倉敷商業、岡山大安寺、岡山操山中 学校緑化 岡山御津 県産材活用UD 津山商業 エコ広場UD 岡山工業
産業教育施設整備費	52,390,989	高松農業、勝間田
県立高等学校建物管理費	294,038,271	高等学校建物修繕等 教職員住宅改修
特別支援学校校舎整備費	974,268,402	新築・耐震補強及び大規模改造 誕生寺養護 校舎整備 岡山瀬戸高等支援、倉敷琴浦高等支援 耐震診断 (1校4棟) 倉敷琴浦高等支援 実施設計 (校舎整備) (太陽光パネル) 西備養護、東備養護、岡山西養護、西備養護、倉敷琴浦高等支援
地域活性化・経済危機対策事業費	40,470,203	実施設計 (耐震補強) (太陽光パネル) 倉敷古城池、高梁城南、勝間田、総社南、高梁城南、岡山城東、玉野光南、備前緑陽、津山工業 焼却炉撤去 (33校) 岡山朝日、岡山大安寺、岡山工業、東岡山工業、岡山東商業、岡山南、倉敷中央、津山、玉野、玉島、笠岡工業、井原、高梁、高梁城南、岡山御津、瀬戸南、瀬戸南、和気、閑谷、興陽、高松農業、落合、久世、蒜山、勝間田、林野、高松農業、落合、久世、蒜山、勝間田、林野、玉野光南、鳥城、岡山豊、東備養護、健康の森学園、岡山東養護、古代吉備文化財七、渋川青年の家
単県教育施設災害復旧費	6,277,483	台風第9号に伴う大雨による災害復旧 林野
		校舎等耐震補強及び大規模改造 倉敷青陵、岡山東商業 実施設計 倉敷青陵

緊急経済・雇用 対策事業費	856,288,218	屋上防水 (18校) 岡山南、笠岡工業、井原、新見、林野、岡山一宮、岡山御津、倉敷古城池、倉敷鷺羽、岡山盲、岡山西養護、東備養護、岡山朝日、岡山東商業、玉島、笠岡、興陽、岡山響 便所改修 岡山操山、和気閑谷、倉敷工業 建具改修 笠岡工業、新見、勝間田、西備養護 その他改修 倉敷中央、倉敷南 アスベスト対策 (別表へ詳細掲載)
計	4,292,837,288	

(イ) アスベスト対策事業

吹付アスベスト等使用実態調査の追加調査の結果、吹付アスベストの使用が判明した施設を含め3施設の対策工事を行った。

事項名	決算額 (円)	備考
緊急経済・雇用 対策事業費	20,442,450	岡山芳泉、瀬戸南、博物館

(ウ) 市町村立学校校舎、屋内運動場等の整備支援 (国)

公立学校施設整備については、児童生徒急増期に建築した校舎等の老朽化、近年の少子化に伴う児童生徒数の減少や市町村合併などによる学校統廃合の進展により生じた廃校施設等の有効活用、また、多様な学習活動等に対応した施設づくりなど多くの課題を抱えている。

中でも特に、学校施設は災害時に地域住民の応急避難場所としての役割をも果たすことから、早急に耐震性能の向上を図っていくことが重要であるため、市町村に対する国庫補助制度の周知や耐震化に関する技術指導など、公立学校の耐震化促進に向け、指導・助言を行った。

市町村が新增改築を行うに当たっては、教育内容・教育方法等の多様化に対応したものとするとともに、バリアフリー化や環境対策にも配慮するよう学校施設の質的向上を図るよう技術的・事務的な指導・助言を行った。

また、全国の学校施設等における吹付アスベスト等使用実態調査が実施され、飛散の恐れ等のある施設については、除去等の飛散防止措置など施設の安全性確保が図られるよう指導を行った。

事業名	市町村数	学校(園)数	国庫補助額(千円)
新增改築事業	6市1町1村1組合	小5、中7	1,579,880
大規模改造事業	2市1町	幼1、小2、中1	62,932
地震補強事業	9市1町1村	小40、中9	1,594,625
太陽光発電	3市	小9、中2	145,673
屋外教育環境整備	1市	中1	20,200
合計	13市2町1村1組合	幼1、小53、中17	3,403,310

※合計欄は実数(市町村数、学校(園)数)

(エ) 教育設備の整備拡充

教育指導の一層の充実、徹底を図るため、小・中・高・特別支援学校における設備の充実に努めた。

ア) 産業教育関係設備の充実と老朽設備の更新 (国)

産業教育振興法に基づき、一部国庫支出金の交付を受けて、次のとおり高等学校に産業教育関係設備を整備した。

区 分	県 立 学 校		
	学 校 数	整 備 額 (千 円)	
		事 業 費	う ち 国 庫
特 別 装 置	12	150,467	52,940

その他、基準設備の整備及び老朽設備の更新を行った。

イ) 理科教育関係設備の充実促進 (国)

理科教育振興法等に基づき、一部国庫支出金の交付を受けて、理科教育関係設備を次のとおり整備した。

区 分	県 立 学 校	
	学 校 数	整 備 額
理 科 設 備	64	78,638千円
算 数 ・ 数 学 設 備	—	—
計	64	78,638千円

ロ) 就学・進学奨励制度

ア) 高等学校奨学金事業

勉学意欲がありながら経済的理由により修学困難な高校生に対し、奨学金を次のとおり貸与した。

区 分	国 公 立				私 立				合 計	
	自 宅		自 宅 外		自 宅		自 宅 外		人 員	金 額
	人 員	金 額	人 員	金 額	人 員	金 額	人 員	金 額		
前年度からの継続	人 104	千円 22,464	人 5	千円 1,380	人 187	千円 66,570	人 5	千円 2,100	人 301	千円 92,514
平成21年度採用	62	13,266	2	552	119	42,030	16	6,580	199	62,428
計	166	35,730	7	1,932	306	108,600	21	8,680	500	154,942

イ) 育英事業

ア 県補助金事業によるもの

本県における育英事業は、財団法人岡山県育英会により実施されているが、奨学金の貸与状況は次のとおりである。(平成19年度から大学・短期大学の新規採用廃止)

区 分	高 等 学 校		短 期 大 学		大 学		計	
	人 員	金 額	人 員	金 額	人 員	金 額	人 員	金 額
前年度からの継続	人 69	千円 14,760	人 1	千円 540	人 87	千円 51,204	人 157	千円 66,504
平成21年度採用	35	7,560	—	—	—	—	35	7,560
計	104	22,320	1	540	87	51,204	192	74,064

イ 旧日本育英会業務移管及び高校生修学支援基金事業に伴う予算措置によるもの (国)

旧日本育英会高等学校奨学金業務移管及び高校生修学支援基金事業に伴う国からの交付金を受け、財団法人岡山県育英会により高等学校奨学貸付事業を実施しているが、奨学金の貸与状況は次のとおりである。

区 分	高 等 学 校 等								合 計	
	国 公 立				私 立					
	自 宅		自 宅 外		自 宅		自 宅 外		人 員	金 額
	人 員	金 額	人 員	金 額	人 員	金 額	人 員	金 額		
前年度からの継続	人 671	千円 143,874	人 55	千円 14,766	人 365	千円 130,620	人 48	千円 19,915	人 1,139	千円 309,175
平成21年度採用	494	106,614	30	8,050	263	94,290	31	13,020	818	221,974
計	1,165	250,488	85	22,816	628	224,910	79	32,935	1,957	531,149

※通学区分の変更、公立高校から私立高校へ転学等重複5名含む。

り) 特別支援学校就学奨励費補助制度の充実 (国)

特別支援学校に就学する幼児児童生徒に対し、保護者の属する世帯の収入額と需要額の割合に応じ、3段階に分けて保護者に就学奨励費を支給した。

え) 定時制・通信制高等学校修学奨励制度の充実

働きながら学ぶ高等学校の定時制課程及び通信制課程に在学する生徒の修学促進を図るため、修学奨励費を次のとおり貸与した。

区 分		学 校 数	貸 与 者 数	貸 与 額
定 時 制 課 程	公 立	4	9人	1,512千円
	私 立	—	—	—
	計	4	9人	1,512千円
通 信 制 課 程	公 立	—	—	—
	私 立	—	—	—
	計	—	—	—
合 計		4	9人	1,512千円

区 分	1 年	2 年	3 年	4 年
私 立 定 時 制	29,000円	29,000円	29,000円	29,000円
そ の 他	14,000円	14,000円	14,000円	14,000円

わ) 幼稚園就園奨励費補助制度の充実促進 (国)

国庫補助金の交付を受けて21市町村が実施した幼稚園就園奨励事業の概要は次のとおりである。

区 分	補助対象園児数	事 業 費	国 庫 補 助 金 額
公 立 幼 稚 園	482 人	12,053 千円	3,104 千円
私 立 幼 稚 園	3,041 人	236,443 千円	60,895 千円
計	3,523 人	248,496 千円	63,999 千円

## 評 価

開かれた学校づくりの推進や、県総合教育センターを中核として教職員の一層の資質能力の向上を図るとともに、教職員の確保と適正配置、健康管理や福利厚生の実施にも努めた。また、耐震化をはじめとする施設等の整備・充実に努めるとともに、勉学意欲がありながら経済的理由により就学困難な生徒に対する奨学金の貸与を実施するなど、学習環境の整備や生徒等への支援を進めることができた。

・教職員の研修については、県総合教育センターを中心に、ライフステージに応じた研修体系に基づいて研修を企画・実施した。悉皆研修の在り方を検討し、その精選を図る一方で、喫緊の課題に対応した研修等の改善・充実に取り組んだ。今後も教員の資質向上を図るため、研修内容の充実を図っていく必要がある。

・新しい教職員の評価システムについては、管理職による授業見学や面談等が推進されるなど、一定

の効果を上げている。また、毎年、教職員を対象としてシステムについてのアンケートを実施し、その課題等の把握に努めるとともに、平成20年度からは、教育関係者からなる「新しい教職員の評価システム推進委員会」を設置し、課題解決の方策等を検討している。アンケート結果からは、管理職と教職員の対話が進むなど一定の成果はあるが、目的である学校組織の活性化や教職員の資質能力の向上についての効果で課題を感じており、今後もシステムの実効性を高める研究に努める。

- ・学校マネジメント支援に関する調査研究事業については、学校現場では研究協力校9校で勤務負担軽減の実践研究を行なった。市町村教育委員会は、学校現場を援助するため、ICT化などに努めた。県教育委員会では、教育庁内ワーキング会議を設置し、行政側からの勤務負担軽減に向けた取組を行い、県総合教育センターの悉皆研修等の精選、市町村教育委員会等の実施する研修等の精選の推進、県教育庁全課（室）からの学校向け調査照会文書の発出スケジュール表の作成を行った。今後も引き続き、負担軽減の実践及び意識改革の推進に努める。

- ・教職員のメンタルヘルス対策については、公立学校共済組合と連携しながら進めており、管理職研修や職場の同僚性を形成するためのミドルリーダー養成研修講座、心とからだの健康相談、復職プログラムなどの総合的な支援を実施した。平成21年度は、復職プログラム実施者38名に対し、31名が復職し、2年続けて実施者の8割を超えている。今後も引き続き各種支援を実施するが、予防・早期対応策である研修、相談等の充実とともに、職場における良好な人間関係づくりを一層進める必要がある。

- ・県立学校の耐震化については、学校施設が児童生徒の豊かな人間性をはぐくむための学習・生活の場であるとともに、災害時には地域の方々の応急避難場所としての役割を果たすことから、その安全性を確保するため、耐震化に取り組んだ。平成21年度は、耐震診断を25校、42棟、耐震補強工事を14校、18棟実施した。うち耐震化を完了したのは、10校、14棟である。今後も、厳しい財政状況にはあるが、引き続き着実に推進していく必要がある。

## 参 考 数 値

### ○県立学校の耐震化 [出典：文部科学省調査]

目標値 (H24.3)	実 績 値			
	H18	H19	H20	H21
65	51.4	55.4	58.4	62.4

(単位：%)

## (6) 体育・健康教育の充実

### 施策の目標

体育・スポーツ活動の充実、食育の推進、学校安全の確保等を通して、学校教育全体で子どもたちの健やかな体の育成に取り組む。

### 教育委員会での主な意見

[平成21年5月1日（金）]

○食育から広げる生活リズム向上プランについて

- ・朝食を摂取する取組については今年度も充実を図ってほしい。

[平成21年5月22日（金）]

○新型インフルエンザへの対応について

- ・県内発生した際には、学校を休校にすることも考えられているが、長期化した場合にどのようにするかが問題だ。低学年の子どもがいる家庭では、学校がないと仕事に行けないなどの影響があると思う。

[平成21年6月5日（金）]

○新型インフルエンザへの対応について

- ・今後、毒性の強い鳥インフルエンザなど危機的な感染が発生した際には、WHOや国による対策が必要だ。県へは情報が一元的に入ってくるわけではないので、厚生労働省などから正しい情報を受け取った後に、県として何をすべきか考えなければならない。常に最初から正しい方針がとれるわけではなく、試行錯誤することが必要だ。

[平成21年11月20日（金）]

○新型インフルエンザ対応ハンドブックについて

- ・今回の新型インフルエンザだけでなく、強毒性の新型インフルエンザにも活用できるマニュアルができており、早い対応と評価できる。

[平成21年12月18日（金）]

○全国体力・運動能力、運動習慣等調査の結果について

- ・授業は楽しいが、自分では運動をしない生徒を、いかに運動させるかが課題ではないか。
- ・1日に2時間以上運動している生徒もいるが、運動しない生徒もおり、二極化している。

### 教育委員会での審議等を踏まえた施策等

○食育への施策等

- ・「栄養教諭・学校栄養職員が考えた簡単朝食レシピ集」のホームページへの掲載（平成21年10月）
- ・「栄養教諭を中核とした食育推進事業」報告書のホームページへの掲載（平成22年3月）

○新型インフルエンザ対応への施策等

- ・新型インフルエンザの病原性や予防法、感染者発生時の対応等について、文書や研修会を通じて各学校へ周知
- ・新型インフルエンザの感染拡大防止のため、県立学校へ衛生用具等を配布
- ・「新型インフルエンザ対応ハンドブック」のホームページへの掲載（平成21年11月）

○児童生徒の体力向上への施策等

- ・「いきいき岡山っ子体力アッププログラム」のホームページへの掲載（平成22年4月）

## 施策の概要

### ア 体育・スポーツ活動の充実

#### (7) 教員の指導力向上

##### ア) 学習指導要領の徹底・充実のための研修会の開催

研修会名	実施日数	会場	参加人数	研修内容
小・中・高等学校 体育担当者研修会	3日	県総合教育センター	551人	体育経営の在り方と指導上の諸課題

##### イ) 指導力向上のための講習会の開催

講習会名	実施日数	会場	参加人数	講習内容	
体育実技講習会	小学校	延べ4日	県総合教育センター 山南拠点プール	85人	体づくり運動、器械運動、水泳、ボール運動における学習指導要領の内容を踏まえた実技研修
	中・高等学校	延べ16日	県総合教育センター 津山陸上競技場 桃太郎アリーナ 岡山ドーム 岡山武道館 勝山中学校	154人	体づくり運動、陸上競技、ハンドボール、ソフトボール、ダンス、柔道、剣道、相撲における学習指導要領の趣旨を生かした効果的な学習指導の在り方について

#### (イ) 体力づくりの推進

- ア) 学校における体力づくり推進の基礎資料とするため、「学校体育指導資料第46号」を作成し、関係機関・学校に配付した。
- イ) 県下の公立小・中・高等学校で新体力テストを実施し、小・中学校のA段階取得者を表彰（バッジの交付）した。

区分	新体力テスト A 段階 取得者		
	男子	女子	合計
小学校	9,602人	7,560人	17,162人
中学校	3,378人	6,637人	10,015人
高等学校	5,679人	3,435人	9,114人

- ウ) 子どもの体力の状況を把握・分析することにより、体力向上に係る施策の成果と課題の検証と改善を図るため「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」を小学校第5学年と中学校第2学年を対象に実施した。

岡山県の参加状況

小学校	409校 (99.3%)	18,335人
中学校	162校 (98.2%)	16,120人

- エ) 児童生徒の体力向上に向けて、これからの学校における体育及びスポーツ活動の在り方について、研究協議を行い、学校体育の一層の充実を図るため、岡山県体力づくり研究推進大会（105人参加）を開催した。
- オ) 小・中・高等学校体育連盟、学校体育研究連合会の組織の充実及び体力づくりに関する研究内容などについて指導・助言を行った。
- カ) **新**いきいき岡山っ子体力アッププラン

子どもの体力を計画的に向上させていくために、児童生徒が課題を持って主体的に体力づくりに取り組むことができるよう、「いきいき岡山っ子体力アッププラン」を実施した。

・子どもの体力向上支援事業（小・中学校対象） **国**

「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」の結果を詳細に分析し、課題を把握するとともに、その改善を図るために「体力アッププログラム」を作成し、各学校での取組を支援した。

- ・体力向上を目指した体育授業の充実支援事業（高等学校対象）  
県内の2地区で研修会（公開授業）を開催するとともに、指導力の向上を目指して、「体づくり運動」の実技講習会を実施した。
- ・子どもの運動の習慣化事業（幼稚園・小学校対象）  
長なわとび、ドッジパスラリー、一輪車リレーなど様々な運動種目（32種目）にチームでチャレンジし、記録の登録によりホームページ上で競い、1,757チーム、延べ25,829名が参加した。

(ウ) スポーツ活動の活発化

ア) 体育大会の充実

ア 第47回岡山県中学校総合体育大会（7,863人参加）と第48回岡山県高等学校総合体育大会（11,815人参加）を開催したのをはじめ、各種大会を共催し、中・高校生のスポーツ活動の活発化、スポーツ精神の高揚、競技力の向上に努めた。

イ 小学校児童を対象として県内7地区で、水泳記録会（3,549人参加）及び陸上運動記録会（10,261人参加）を開催した。

ウ 中学生248人と高校生897人を全国中学校体育大会・全国高等学校総合体育大会・全国高等学校定時制通信制体育大会等へ派遣した。

エ 平成21年度中国高等学校選手権大会が中国五県で開催され、岡山県では以下の8競技種目を開催した。

ボクシング	(玉野市：24人)	ウエイトリフティング	(倉敷市：76人)
柔道	(岡山市：454人)	ヨット	(瀬戸内市：72人)
ホッケー	(岡山市・赤磐市：162人)	アーチェリー	(備前市：124人)
少林寺拳法	(岡山市：124人)	スキー	(鳥取県若桜町：64人)

オ **新**平成22年度全国中学校体育大会開催準備

中国五県で分担して開催する平成22年度全国中学校体育大会開催に向けて、県実行委員会を発足させるなどの準備を行った。

イ) 運動部活動の振興

ア 地域スポーツ人材の活用実践支援事業 **国**

小学校高学年における体育指導や、中学校の運動部活動の充実を図るため、次の各学校へ地域のスポーツ人材を派遣した。（小学校20校、中学校45校、高等学校34校）

(小学校)

種目	学校名	種目	学校名	種目	学校名
陸上競技	岡山・三門 岡山・建部 津山・向陽 赤磐・笹岡 和気・和気	器械運動	備前・日生西 津山・清泉 真庭・上田 真庭・磐部	水泳	新見・神郷北 井原・出部 美作・勝田 倉敷・下津井東
		水泳	岡山・芳明 岡山・福渡 倉敷・玉島	表現運動 アルペンスキー	真庭・川上 真庭・八束
陸上・体づくり 陸上・器械	津山・北 赤磐・石相				

(中学校)

種目	学校名	種目	学校名	種目	学校名
体操競技 バレーボール	津山・加茂 岡山・操山 岡山・瀬戸 倉敷・真備東	サッカー	岡山・東山 岡山・瀬戸 倉敷・南 瀬戸・邑久	卓球	総社・総社 新見・神郷 西粟倉・西粟倉 倉敷・新田
				柔道	

バスケット ボール	津山・津山東 高梁・高梁 浅口・寄島 浅口・金光 岡山・京山 岡山・竜操 岡山・旭東 倉敷・北 赤磐・赤坂 真庭・勝山 美作・美作	ソフトテニス バドミントン	真庭・蒜山 勝央・勝央 真庭・久世 岡山・芳泉 笠岡・白石 総社・総社東 岡山・岡山中央 備前・三石 美作・作東 津山・久米 備前・日生	剣道	赤磐・磐梨 美咲・旭 倉敷・連島 倉敷・玉島西 倉敷・玉島北 瀬戸内・牛窓 赤磐・磐梨 美作・勝田 美作・英田 和気・佐伯 久米南・久米南
		野球		水泳(授業) ダンス(授業)	

(高等学校)

種目	学校名	種目	学校名	種目	学校名
新体操	岡山芳泉	サッカー	総社	空手道	津山商業
バレーボール	倉敷南		邑久	射撃	高松農業
	蒜山	バドミントン	倉敷南	野球	岡山城東
卓球	岡山朝日		倉敷工業		倉敷南
ハンドボール	総社		高梁城南		倉敷工業
ラグビー	高松農業		邑久		玉野
サッカー	岡山朝日	ソフトテニス	東岡山工業	軟式野球	勝山
	岡山一宮		倉敷古城池	ボクシング	高梁城南
	玉野		倉敷工業	ダンス	岡山工業
	笠岡工業	テニス	笠岡		岡山大安寺
	笠岡商業		倉敷鷺羽		玉島
			邑久		

イ 武道指導者派遣事業

中・高等学校における武道の振興・充実を図るため、次の各学校へ民間の優秀な指導者を派遣した。(中学校9校、高等学校5校)

(中学校)

種目	学校名	種目	学校名
剣道	倉敷・東陽 倉敷・東 備前・吉永 真庭・北房 鏡野・富	柔道	津山・北陵 津山・鶴山 津山・津山東 備前・日生

(高等学校)

種目	学校名
弓道	岡山朝日 玉島 総社
剣道	岡山工業 津山東

ウ 中・高等学校における運動部活動の望ましい在り方と、指導者の指導力の向上を図るため、運動部活動指導者等研修講座を開催し、全体会(半日)には197名、種目別研修講座(卓球・テニス・サッカー)には、延べ6日間にわたって54名が参加した。

エ **新**中・高等学校における地域連携武道指導実践事業 (国)

中・高等学校の体育の授業や運動部活動において、地域と連携した活動や教員の指導力向上のための取組を進め、学校を中心として地域全体で武道振興を図るため、柔道と剣道について、津山市で事業を実施した。

イ 健康教育の充実

(7) 県立学校児童生徒の健康診断の実施

児童生徒の健康診断として、結核、心臓、尿等の検診を行った。特に、心電図自動解析機により解析を行い、心臓疾患の管理、指導の充実を図った。

区分	検査事項	対象	受診者数	
幼児	結核検診	問診調査	小、中全員	1,586人
		X線撮影	高1、高4全員	12,458人
児童	心臓検診	心電図検査	小1、中1、高1全員	13,106人
		心音図検査	小1、中1全員	437人
生徒	寄生虫検査	幼、小1、2、3全員	258人	
	尿検査	幼、小、中、高全員	37,953人	

(イ) 学校環境保全、健康管理指導

ア) 学校環境保全、健康管理指導の充実

学校環境衛生の充実、向上を図るため、関係機関・団体の協力を得て担当者の研修会を開催するとともに、保健教育担当者の資質能力向上のため、下表の研修会等を開催した。

また、県下全学校（園）を対象に、児童生徒等の健康状況及び各学校（園）の保健活動の状況を取りまとめた「学校保健概要」を作成・配付し、学校保健の向上を図った。

研修会名	開催日	会場	参加人数
岡山県学校保健研修会	平成22年2月4日	岡山県衛生会館	569人
第56回岡山県学校保健研究大会	平成21年8月6日	総社市民会館等	800人

イ) 大気汚染対策等

生徒・教職員の健康管理のため、「岡山県大気汚染緊急時対策実施要綱」及び「岡山県中北部大気汚染緊急時対策実施要領」に基づき、大気汚染情報等の発令時には関係地域の県立学校への通報連絡を行った。

(ウ) 学校安全の充実

ア) 交通安全対策の強化

児童生徒等の交通事故防止対策及び交通安全教育の強化、充実を図るため、次の事業を行った。

ア) 学校保健安全研修講座

学校における健康教育に関する指導体制の充実を図るため、各学校の学校保健・安全担当者等を対象に研修会を開催し、指導者の資質能力の向上に努めた。

イ) 高校生の交通安全対策

岡山県高等学校交通安全教育推進連絡協議会並びにブロック協議会（7ブロック）で地域の実情に即した交通安全対策を協議し、推進した。

区	分	幼児	小学生	中学生	高校生	計
21年（A）	死者	0人	3人	0人	1人	4人
	傷者	366人	691人	529人	845人	2,431人
20年（B）	死者	2人	0人	0人	0人	2人
	傷者	378人	713人	552人	855人	2,498人
前年比 （A－B）	死者	△2人	3人	0人	1人	2人
	傷者	△12人	△22人	△23人	△10人	△67人

イ) 地域ぐるみの学校安全体制整備推進事業 (国)

地域学校安全指導員（スクールガード・リーダー）として、警察官OBと教員OBを各警察署単位に配置し、防犯の専門家として各学校の巡回指導と評価を実施した。（スクールガード・リーダー44人委嘱）

ウ) 防犯教室推進事業

実践的な安全教育・安全管理を推進することができるよう、防犯教室等の指導者に対して防犯教室推進講習会を開催し、講義や実習、実地訓練を行い、学校安全を推進した。

ア 児童生徒等の危険予測・危険回避能力の育成に有効な「地域安全マップ」の作成を実習するとともに、学校や登下校時の不審者対策についての講義を行った。

イ 教職員や児童生徒等の安全対応能力の向上を図る「防犯教室」の開催を推進するため、学校への不審者侵入防止の体制整備・対応方法等の講義並びに実地訓練を行った。

(エ) 子どもの健康を守る地域専門家総合連携事業 (国)

児童生徒が学校生活を心身ともに健康な生活を送ることができるよう、児童生徒の様々な健康問題に対応できる専門家や専門医を地域研修会等に派遣し、健康相談や健康教育の充実に努めた。また、モデル地域として倉敷市天城地区を指定し、健康課題等の解決に向け、地域保健関係者との体制づくりや校種間連携等の取組を行った。

(オ) スクールヘルスリーダー派遣事業 (国)

退職養護教諭をスクールヘルスリーダーとして委嘱し、養護教諭未配置校や経験の浅い養護教諭を配置する学校へ派遣し、校内研修や個別対応が求められる児童生徒への対応方法等についての指導等を実施した。

(カ) 性に関する教育普及推進事業 (国)

平成20年1月に作成した指導資料「性に関する教育の手引」の有効な活用方法について、県内2カ所で研修会を開催し、学校における児童生徒への効果的な性に関する教育の指導の充実に努めた。

(キ) 薬物乱用防止教室推進事業

薬物乱用防止教室推進のための講習会を開催し、薬物乱用防止教育の効果的な進め方について研修し、指導者の資質能力の向上を図った。

(ク) 学校給食の充実

ア) 新 栄養教諭を中核とした食育推進事業 (国)

児童生徒が望ましい食習慣と食の自己管理能力を身に付けるため、栄養教諭が中心となり家庭・地域と連携した食育推進事業を行った。コーディネーターである栄養教諭を中心に各教科等における食に関する指導を充実させる体制整備、家庭に対する効果的な働き掛けの方策、並びに学校・家庭・地域との連携による食に関する充実を図るための研究を実施し、実践報告書にまとめ、関係各所への普及を図った。

イ) 学校給食の管理及び指導の充実向上のための研修会等

児童生徒の望ましい食習慣と好ましい人間関係を育成するなど、教育の一環としての学校給食の一層の充実を図る観点から、学校給食指導に積極的に取り組んでいる教諭を対象に学校給食指導者研修会を開催し、教職員の指導力の向上に努めた。

ウ) 新 「栄養教諭・学校栄養職員が考えた簡単朝食レシピ集」の作成

栄養教諭や学校栄養職員が考えた栄養バランスのとれた簡単に短時間で作れる朝食レシピ集をリーフレットにまとめ、岡山県内全小・中学生に配付し望ましい食の習慣化に努めるとともに、「早ね早おき朝ごはん」運動と連携した子どもの朝食摂取率向上を図った。

エ) 食中毒対策

腸管出血性大腸菌O157やノロウイルスなどによる食中毒の防止対策を徹底するため、学校給食衛生管理講習会等を開催した。また、県下全調理場の定期点検を実施し、衛生管理の徹底に努めた。

オ) 米飯給食の推進と食事内容の充実向上

食事内容の充実と児童生徒の栄養に配慮した米飯の正しい食習慣を身に付けさせることを目的に、週3回以上の米飯給食の実施を促進した。

区 分	総 数	完 全 給 食 校 (A)	米飯給食 実 施 校 (B)	左の内訳（実施回数別）			実 施 率 (%) $\frac{(B)}{(A)}$	備 考 (%) $\frac{(C+D)}{(B)}$		
				週 2 回	週 2.5回 (C)	週 3 回 以上 (D)				
H 20 ・ 5 ・ 1	小学校	校	428	418	418	0	0	418	100.0	100.0
		人	111,583	111,220	111,220	0	0	111,220	100.0	100.0
	中学校	校	165	155	155	0	0	155	100.0	100.0
		人	53,407	49,503	49,503	0	0	49,503	100.0	100.0
	計	校	593	573	573	0	0	573	100.0	100.0
人	164,990	160,723	160,723	0	0	160,723	100.0	100.0		
H 21 ・ 5 ・ 1	小学校	校	427	418	418	0	0	418	100.0	100.0
		人	110,514	110,512	110,512	0	0	110,512	100.0	100.0
	中学校	校	164	159	159	0	0	159	100.0	100.0
		人	53,920	52,590	52,590	0	0	52,590	100.0	100.0
	計	校	591	577	577	0	0	577	100.0	100.0
人	164,434	163,102	163,102	0	0	163,102	100.0	100.0		

#### (ケ) 新「新型インフルエンザ対応ハンドブック」の作成

強毒性の新型インフルエンザを想定した「岡山県新型インフルエンザ行動計画」の策定を受け、強毒性のインフルエンザが出現した際における岡山県教育委員会及び県立学校等が行うべき対応について、発生期ごとに示したハンドブックを作成した。

## 評 価

学校体育・スポーツ活動の充実や、学校保健・食育・学校安全といった健康教育の推進により、児童生徒の健康・体づくりに取り組んだ。特に、平成21年度は、新型インフルエンザへの対応が緊急課題となったため、感染症対策に重点的に取り組み、学校において適切な対応ができるよう通知や研修会などにより指導に努めた。

・児童生徒の体力は昭和50年代後半のピーク時と比較すると依然として低い水準にあるため、平成21年度から「いきいき岡山っ子体力アッププラン」をスタートさせ、児童生徒の主体的な体力づくりや各学校での体力向上に向けた取組の支援に努めた。また、参加率が約99%となり、詳細なデータを得ることができた平成21年度の「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」によると、本県の児童生徒は小学生・中学生ともに体力合計点では全国平均を上回っているものの、小学生の握力や中学生の20mシャトルランなどは全国平均に比べ低い状況にある。

今後もこれらの調査結果を活用するとともに、各種事業の効果も検証しながら、計画的に児童生徒の体力向上を図っていく必要がある。

・健康教育については、児童生徒の食生活や生活習慣の乱れ、性・薬物・アレルギーへの対応、学校安全など様々な健康課題・問題を解決するため、市町村や学校の担当者を対象とした各種研修会を開催し、指導者の資質能力の向上を図った。また、各学校における取組を支援するために、「子どもの健康を守る地域専門家総合連携事業」での産婦人科医や精神科医といった専門家の派遣、「栄養教諭を中核とした食育推進事業」によるモデル地域での調査研究を行うなど、その推進に努めた。特に、夢づくり協働指標である「小・中学校の学校給食における県産農林水産物の使用割合」は堅調な推移が続いていることから、引き続き関係機関と連携しながら活用の促進に努めてまいりたい。

今後も引き続き、児童生徒の健やかな体の育成のため、地域や関係機関と連携しながら、粘り強い取組を進めていく必要がある。

## 参考数値

### ○岡山県の体力の状況（公立学校）

[出典：文部科学省調査]

#### （１）体力合計点

		平成21年度 体力テスト合計点平均点		平成20年度 体力テスト合計点平均点	
		男子	女子	男子	女子
小学校	岡山	55.76（9位）	55.72（17位）	55.95（8位）	56.71（6位）
	全国	54.19	54.59	54.18	54.84
	差	1.57	1.13	1.77	1.87
中学校	岡山	42.48（16位）	48.76（18位）	42.45（18位）	48.85（19位）
	全国	41.36	47.94	41.50	48.38
	差	1.12	0.82	0.95	0.47

※ 体力合計点：8種目の調査種目の成績を1点から10点に得点化して総和した合計点

#### （２）各種目ごとの平均値

「男子」		握力 (kg)	上体 起こし (回)	長座 体前屈 (cm)	反復 横とび (回)	持久走 (秒)	20m シャトル (回)	50m走 (秒)	立ち 幅とび (cm)	ボール 投げ (m)
小学生	岡山	16.47	20.35	32.60	43.24	/	53.15	9.25	155.62	26.11
	全国	16.96	19.28	32.55	40.81		50.08	9.37	153.64	25.41
	差	△0.49	1.07	0.05	2.43		3.07	0.12	1.98	0.70
中学生	岡山	29.99	26.61	44.81	51.63	395.44	80.41	7.98	195.80	21.64
	全国	29.82	26.73	42.91	50.50	396.19	83.27	8.05	194.62	21.27
	差	0.17	△0.12	1.90	1.13	0.75	△2.86	0.07	1.18	0.37

「女子」		握力 (kg)	上体 起こし (回)	長座 体前屈 (cm)	反復 横とび (回)	持久走 (秒)	20m シャトル (回)	50m走 (秒)	立ち 幅とび (cm)	ボール 投げ (m)
小学生	岡山	15.80	18.35	36.41	40.38	/	40.51	9.55	146.24	14.97
	全国	16.35	17.65	36.62	38.48		38.73	9.64	145.11	14.62
	差	△0.55	0.70	△0.21	1.90		1.78	0.09	1.13	0.35
中学生	岡山	23.95	21.98	45.67	45.37	301.25	54.98	8.85	165.78	13.58
	全国	23.98	22.08	44.39	44.56	294.25	56.35	8.90	166.02	13.40
	差	△0.03	△0.10	1.28	0.81	△7.00	△1.37	0.05	△0.24	0.18

### ○小・中学校の給食における県産農林水産物の使用割合

[出典：県教育庁保健体育課調べ]

目標値 (H23)	実 績 値			
	H18	H19	H20	H21
47.0	36.0	41.0	44.7	48.7

(単位：%)

## (7) 学校における人権教育の推進

### 施策の目標

学校の教育活動全体を通じて、人権の意義と内容についての理解を深めるとともに、豊かな人権感覚の育成に努める。

### 教育委員会での主な意見

[平成21年4月17日(金)]

○人権教育推進委員会について(再掲)

- ・人権教育推進に係る重要な案件については、今後、教育委員会に諮られるのだろうが、その前に、いろいろな人に意見を聞くために諮問機関が必要だと思う。

### 教育委員会での審議等を踏まえた施策等

《平成21年度》(再掲)

- ・人権教育実践事例集「環境づくり編」を作成し、学校等に配付(平成22年3月)
- ・「高等学校における特別支援教育」を作成し、学校等に配付(平成22年3月)

《平成22年度》(再掲)

- ・児童虐待、性同一性障害について「こころのわ」に掲載(平成22年10月)
- ・人権教育指導集「就学前教育編」を作成し、幼稚園・保育所等に配付(平成23年3月)

### 施策の概要

#### ア 人権教育の総合的な推進

人権教育推進委員会における、「岡山県人権教育推進プラン」に基づく人権教育の推進についての審議

#### イ 研究推進校の指定

(7) 人権教育開発事業(文部科学省指定) (2校) ④

人権意識を培うための学校教育の在り方についての研究を行い、指導方法等の改善及び充実に向けた実践を県下に広めた。

(イ) 高等学校等人権教育研究推進校指定事業 (2校)

高等学校等における人権教育推進上の課題について研究し、その教育の実践発表を通して県下に広めた。

(ウ) 新高等学校等人権教育研究モデル推進校指定事業 (1校)

高等学校等における人権教育推進上の課題について研究し、その教育の実践発表を通して県下に広めた。

#### ウ 教職員の研修

講義、演習、実践発表等を行い、人権教育推進上の課題について研究協議し、教職員の資質及び指導力の向上を図った。

(7) 就学前人権教育研修会	(1会場)	95人
(イ) 小・中学校管理職人権教育研修会	(2会場)	362人
(ウ) 小・中学校人権教育担当者研修会	(2会場)	333人
(エ) 高等学校等管理職人権教育研修会	(1会場)	98人

- (オ) 高等学校等人権教育担当者研修会 (3会場 203人)  
(カ) 人権教育交流体験研修会 (5会場 120人)

## エ 県立学校における取組の支援

### ■ 県立学校人権教育サポート事業 (69校)

教職員の資質と指導力の向上や生徒の人権感覚の育成及び保護者の人権意識の高揚を図る事業について経費を措置した。

## オ 調査事業・指導資料等整備

### (ア) 人権教育活動調査

人権教育を総合的に推進するための基礎的な資料とするため、市町村及び学校における人権教育推進の実情や取組状況を把握した。

### (イ) 人権教育指導資料作成・配付

「人権教育実践事例集 環境づくり編」を作成・配付し、学校教育及び社会教育における人権教育の推進を図った。

### (ウ) DVD等整備 (32本)

様々な人権問題に関する啓発DVD等を県生涯学習センター及び県立図書館に整備するとともに、人権啓発DVD作品一覧をホームページに掲載した。

## カ 学校・地域社会の連携

### 人権教育総合推進事業 (3校園)

人権教育の総合的な推進の在り方についての研究を行い、地域全体で取り組む人権教育の実践例を県下に広めた。

## 評価

教職員研修や保護者への啓発等を通じて、人権の意義と内容についての理解を深めるとともに、豊かな人権感覚を育成する取組を進めることができた。

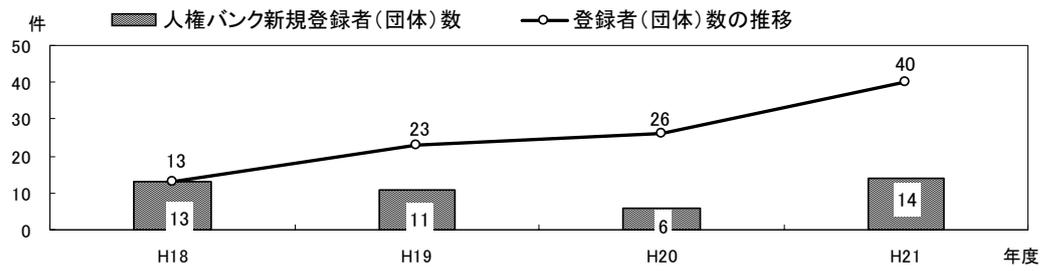
・人権教育における効果的な実施計画や実践内容などをまとめた実践事例集を作成し、各学校に配付するとともに、幼稚園・小・中・高等学校の各教育研究協議会等が作成した学習指導案をホームページで公開し、授業や学校行事での活用を促すことにより、人権教育の一層の充実が図られるよう支援することができた。

・教職員等の研修について、人権教育担当者研修会では、人権教育指導資料を活用した指導計画を作成し、管理職人権教育研修会では、児童虐待、セクシュアル・ハラスメント等の人権侵害事象が発生した場合の対応について役割演技をするなど、参加体験型の研修を実施した。また、交流体験研修会では、ハンセン病療養所入所者、障害のある人、犯罪被害者等との交流を行うことにより、教職員の人権意識を高め、資質と指導力の向上に努めた。引き続き、講演や参加体験型等の研修の充実を図る必要がある。

・県立学校人権教育サポート事業では、教職員研修や、生徒の人権学習、保護者への人権啓発など全県立学校において事業が実施できた。今後も、各学校の人権教育を推進できるよう事業を進めていく必要がある。

## 参考数値

### ○人権バンク登録者数の推移 [出典：県教育庁人権教育課調べ]



## 4 伝統文化の振興

### (1) 文化財の保存と活用

#### 施策の目標

貴重な文化遺産の適切な保護・保存を進めるとともに、文化財の公開や史跡の整備など積極的な活用を通じて、文化財への理解と関心を高める。

#### 教育委員会での主な意見

[平成21年7月3日(金)]

○新おかやま夢づくりプラン平成20年度政策評価(案)・改訂素案について

- ・登録文化財になることで、手を加えてはいけないという規制がかかり、文化財の保護につながる。

[平成21年7月17日(金)]

○雇用創出関係基金事業について

- ・県立博物館の展示物の多言語表記については、普通の英語ができるだけでなく、学術的に分かっている人に翻訳してもらわないといけない。中国語や韓国語にすることは、至難の業だと思うが、内容のある仕事をしてもらいたい。

#### 教育委員会での審議等を踏まえた施策等

《平成21年度》

- ・津島遺跡文化財講座など津島遺跡普及啓発事業の実施
- ・岡山と島根の県立博物館の交流展の開催
- ・登録文化財の登録件数

	H20	H21	増減
登録文化財の登録件数	208	232	24

《平成22年度》

- ・近代和風建築総合調査事業に着手(～H24)
- ・老人福祉施設等との連携事業「いきいき講座」の開催(県立博物館)

#### 施策の概要

##### ア 文化財の保存

###### (ア) 文化財の調査

###### ア) 文化財保護審議会

県指定文化財候補物件の調査・審議・答申

###### イ) 文化財の指定

###### ア 国指定名勝・史跡(追加指定)

種別	名称	追加指定年月日
名勝	頼久寺庭園<高梁市>	平成21年7月23日
史跡	美作国分寺跡<津山市>	平成21年7月23日

###### イ 県指定史跡

種別	名称	指定年月日
史跡	恩原遺跡群<鏡野町>	平成22年3月12日

ウ 登録有形文化財（建造物）

名 称	数量	登録年月日
寶福寺仏殿、書院、開山堂、秋葉宮本殿ほか<総社市>	11棟・6基 1所	平成21年4月28日
若竹の園保育園舎事務室棟、幼児保育南棟<倉敷市>	2棟	平成21年4月28日
清水家住宅主屋、納屋、土蔵、門及び井戸覆屋<津山市>	4棟	平成21年4月28日

カ 「岡山県の会陽の習俗」映像記録作成 (国)

平成14年度に国により「記録作成等の措置を講ずべき無形の民俗文化財」に選択された「岡山県の会陽の習俗」について、学識経験者による映像記録作成委員会等の指導・助言のもと、現在実施されている会陽の習俗のうち、1寺社について撮影を行い、映像記録を発行した。（普及版150部、記録版10部）

(イ) 有形文化財等の管理と保存修理

国・県指定文化財の保存修理、史跡整備等を県事業及び補助事業として実施した。

指定別	事業主体	事業名	所在地	平成20年度の事業内容	事業年度
国指定	(宗) 中山神社	中山神社本殿 建造物保存修理	津山市	本殿の修理	H19～21
	高梁市	旧片山家住宅 防災施設整備	高梁市	防災施設整備	H21
	(宗) 長福寺	長福寺三重塔 防災施設整備	美作市	防災施設整備	H21
	岡山県	旧閑谷学校ほか 防災施設整備	備前市	防犯設備整備	H21
	(財) 林原美術館	絹本着色清明上河図	岡山市	保存修理	H20～21
	岡山市	岡山城跡 記念物保存修理	岡山市	本丸本段の保存修理、本丸下の段の確認調査	H4～
	岡山市	賞田廃寺跡 記念物保存修理	岡山市	便益施設・学習施設の整備	H13～21
	赤磐市	備前国分寺跡 記念物保存修理	赤磐市	塔基壇遺構整備工事	H15～26
	津山市	津山城跡 記念物保存修理	津山市	天守曲輪・七番門跡の復元整備工事、発掘調査	H18～29
	総社市	鬼城山 記念物保存修理	総社市	高石垣から西門の土塁復元工事	H13～22
	高梁市	備中松山城 記念物保存修理	高梁市	小松山城跡石段補修工事、天神の丸跡・大松山城跡発掘調査	H11～
	(宗) 本蓮寺	朝鮮通信使史跡 牛窓本蓮寺境内 記念物保存修理	瀬戸内市	客殿保存修理	H18～22
	岡山市	アユモドキ 天然記念物再生事業	岡山市	アユモドキの保護増殖、生息・生態調査、保全啓発	H20～22
	倉敷市	倉敷市 倉敷川畔 伝統的建造物群保存地区保存修理	倉敷市	保存地区内民家等の修理	S54～
	高梁市	高梁市 吹屋 伝統的建造物群保存地区保存修理	高梁市	保存地区内民家等の修理	S52～
	(宗) 田熊八幡神社	民俗文化財 田熊の舞台 防災事業	津山市	防災施設整備	H21
	岡山市	大廻小廻山城跡 史跡等買上げ	岡山市	史跡指定地等の買上げ	H18～27
	岡山市	彦崎貝塚 史跡等買上げ	岡山市	史跡指定地等の買上げ	H21～31
津山市	美作国分寺跡 史跡等買上げ	津山市	史跡指定地等の買上げ	H17～24	
県指定	(宗) 安住院	安住院多宝塔 保存修理	岡山市	屋根葺替等	H18～22
	(宗) 本久寺	本久寺本堂 保存修理	和気町	屋根葺替等	H18～23

その他、指定文化財管理、文化財保護管理指導、防災設備保守点検等を県事業及び補助事業として実施した。

(ウ) 銃砲刀剣類登録・美術刀剣類製作承認

銃砲刀剣類登録件数 593件、美術刀剣類製作承認件数 92件

(エ) 無形民俗文化財の継承と発信

ア) ふるさと文化再興事業の実施

地域の伝統文化の継承・発展を図るため、「伝統文化総合支援研究事業のマスタープラン」に基づき、民俗芸能等の伝承基盤の整備を図った。

(県内17団体：伝承者養成、用具等整備、映像記録等作成)

イ) 伝統文化子ども教室事業の実施

(財) 伝統文化活性化国民協会により、伝統文化を次世代に継承させるため、茶道、華道、日本舞踊、伝統音楽、郷土芸能などを計画的・継続的に体験・修得できる「伝統文化子ども教室」を実施した62団体への支援が行われた。

(オ) 埋蔵文化財の保護・保存

ア) 試掘・確認調査の実施

原因	遺跡名	所在地	実施期間	内容	摘要
中国横断自動車道姫路鳥取線建設	金山屋敷遺跡	西粟倉村	H21.4~5	鉄滓層を確認	確認調査
総社警察署清音駐在所建設	遺跡名なし	総社市	H21.6	遺構・遺物未確認	試掘調査
一般国道2号改築(笠岡バイパス)工事	汐早散布地・中村遺跡	笠岡市	H21.6~7	遺構・包含層未確認 土師器出土	確認調査
ため池等整備事業(内山池地区)	遺跡名なし	倉敷市	H21.8	遺構・遺物未確認	確認調査
一般県道西一宮中北上線道路改築	西畑遺跡	津山市	H21.9	古代遺構 須恵器他出土	確認調査
公共急傾斜崩壊対策(新庄村戸島地区)	戸島遺跡	新庄村	H21.11	遺構・遺物未確認	確認調査
一般国道374号(美作岡山道路)道路改築	及遺跡ほか	勝央町	H21.10~H22.2	弥生~中世遺構・遺物 確認	試掘調査 確認調査
復旧治山ダム事業(玉野市田井2丁目地内)	深山遺跡	玉野市	H21.10	遺構・遺物未確認	確認調査
県営用排水施設整備事業(大沢西地区)水路改修工事	上田邑大谷古墳	津山市	H22.2	遺構・遺物未確認	確認調査

イ) 埋蔵文化財緊急調査、報告書作成のための資料整理

原因	遺跡名	所在地	実施期間	内容	摘要
独立行政法人国立病院機構岡山医療センター病棟等新築整備工事	田益田中遺跡	岡山市	H21.4~7 H22.1~2 H21.8~9 H22.3	縄文時代~近世の集落 ・水田跡	発掘調査 整理
中国横断自動車道姫路鳥取線(鳥取自動車道)建設	高岡遺跡	美作市	H21.4~6 H21.7~9	弥生時代集落	発掘調査 整理
主要地方道倉敷美袋線道路改築	八紘古墳群	総社市	H21.4~9 H21.10~H22.3	古墳	発掘調査 整理
主要地方道岡山吉井線(美作岡山道路)道路改築	宇屋古墳ほか	和気町	H21.10~H22.3	弥生時代集落・古墳	発掘調査
一般県道服部停車場線道路改築	南溝手遺跡ほか	総社市	H21.4~H22.3	縄文時代~中世集落	発掘調査
一般県道三浦勝北線道路改築	姥ヶ途遺跡	津山市	H21.4~8 H21.9~H22.3	旧石器~中世集落	発掘調査 整理
一般国道374号(美作岡山道路)道路改築	大河内遺跡ほか	勝央町	H21.10~H22.3	中世以降の生産関連 遺構	発掘調査
都市計画道路大谷一宮線街路改築	美作国府跡	津山市	H21.4~6 H21.7~H22.3	奈良~平安時代の 官衙跡	発掘調査 整理
主要地方道岡山吉井線(美作岡山道路)道路改築	小塚の谷古墳 ほか	和気町	H21.10~H22.3	弥生時代集落・古墳	整理
主要地方道佐伯長船線(美作岡山道路)道路改築(本線:熊山IC以南)	婦本路古墳群	赤磐市	H21.7~H22.3	古墳	整理
一般県道吉備津松島線道路改築	上東中嶋遺跡	倉敷市	H21.7~H22.3	弥生時代集落・ 中世集落	整理
鬼城山城内確認調査	史跡鬼城山	総社市	H21.7~12 H22.1~3	古代山城	確認調査 整理

ウ) 岡山県埋蔵文化財発掘調査報告書作成

報告書	摘要
独立行政法人国立病院機構岡山医療センター宿舍整備工事	伊福定国前遺跡 (224)
主要地方道佐伯長船線(美作岡山道路)道路改築(本線:熊山IC以南)	婦本路古墳群 (225)
一般県道吉備津松島線道路改築	上東中嶋遺跡 (226)
一般県道三浦勝北線道路改築	姥ヶ途遺跡2 (227)

( ) は、報告書番号

イ 文化財の活用

(7) 公開施設等における文化財の公開と普及・啓発

ア) 県立博物館における資料の公開・普及活動

平常展示、特別展示等を開催し、また、博物館講座を実施した。

名 称	内 容	期 日	入館者数
平 常 展 春季展 夏季展 秋季展 冬季展	岡山の歴史と文化	平成21年3月13日～平成21年5月24日 平成21年5月29日～平成21年9月6日 平成21年9月10日～平成21年12月13日 平成22年1月5日～平成22年3月14日 平成22年3月18日～平成22年5月23日	13,675人
特 別 展	全国都市緑化おかやまフェア協賛事業「岡山後楽園」	平成21年4月24日～平成21年5月24日	5,791人
	「土と火のオブジェ縄文の土器・土偶から現代備前焼まで」	平成21年10月9日～平成21年11月15日	6,627人
企 画 展	「昭和の暮らし - 50年前のおかやま -」	平成21年7月24日～平成21年9月6日	12,758人
	「岡山の戦国時代」	平成22年2月11日～平成22年3月14日	8,027人
交 流 展	岡山・島根文化交流事業「古代出雲展 - 国宝青銅器の世界 -」	平成22年1月5日～平成22年2月7日	6,124人
博 物 館 講 座	岡山県の歴史と文化「スタンダードコース」「スペシャルコース」	平成21年6月2日～平成21年6月25日 平成21年7月5日～平成21年10月4日	参加者126人 参加者113人

イ) 吉備路風土記の丘等史跡の公開・普及活動

岡山県立自然公園条例に基づき、特別地域内の風致景観と遺跡を一体的に保存し、かつ公開を行った。

岡山県立吉備路郷土館では、常設展示以外に、吉備路とその周辺の歴史を中心とした企画展示を開催するとともに、歴史講座等を実施した。

名 称	内 容	期 日	入館者数
企 画 展	こうもり塚古墳と周辺の古墳	平成21年10月10日～平成21年11月23日	2,150人
吉備路郷土館講座	歴史講座、探訪講座	平成21年5月10日～平成22年3月14日	参加者400人
こども考古学教室	体験教室	平成21年8月1、2日	参加者 65人

なお、岡山県立吉備路郷土館は、「県行財政構造改革大綱2008」の方針により、平成22年3月31日をもって閉館となった。

ウ) 古代吉備文化財センターにおける普及啓発事業

ア 埋蔵文化財発掘調査概要報告会

名 称	会 場	期 日	参加者数
大地からの便り2009	岡山県立博物館	平成21年8月22日	180人

イ 埋蔵文化財発掘調査現地説明会

遺 跡 名	開 催 地	期 日	参加者数
高岡遺跡	美作市	平成21年6月10～12日	30人
美作国府跡	津山市	平成21年6月14日	130人
南溝手遺跡	総社市	平成21年6月28日	180人
八紘古墳群	総社市	平成21年7月11日	220人
姥ヶ谷遺跡	津山市	平成21年7月23～24日	50人
宇屋古墳ほか	和気町	平成22年1月13～15日	80人
北溝手遺跡	総社市	平成22年2月21日	300人

ウ 考古学体験講座等

名 称	開 催 地	期 日	参加者数
後期企画展関連講座	岡山市	平成21年12月19日	55人

エ 展示室企画展

名 称	内 容	期 日
前期企画展	「百間川今谷遺跡・中島遺跡ほか・中撫川遺跡」	平成21年4月22日～9月15日
後期企画展	「海を越えた交流」	平成21年9月18日～平成22年4月21日

オ 鬼城山城内確認調査

名 称	会 場	期 日	参加者数
夏休み少年少女鬼ノ城教室	史跡鬼城山（総社市）	平成21年7月25日	中止
謎の鬼ノ城城内調査大公開Ⅰ	史跡鬼城山（総社市）	平成21年9月7日～13日	470人
謎の鬼ノ城城内調査大公開Ⅱ	史跡鬼城山（総社市）	平成21年12月1日～7日	430人
小学生発掘体験	史跡鬼城山（総社市）	平成21年11月16日	24人
小学生植樹	史跡鬼城山（総社市）	平成22年2月16日	20人

- カ 施設の見学 （7小学校 577人）
- キ 展示室入館者数 （3,681人）
- ク 現場見学 （3小学校 78人）

(イ) 史跡等の整備

ア) 津島遺跡普及・活用事業

- ア 津島遺跡セミナー「弥生時代の木製品」県生涯学習センター 平成22年1月23日  
講演「木製品研究の進展」ほか全3講演 参加者100人
- イ 津島遺跡文化財講座

名 称	内 容	期 日	参加者数
第1回	講義：弥生時代の津島遺跡 実習：田植え体験	平成21年5月23日	26人
第2回	講義：弥生土器の種類と変遷 実習：弥生土器製作体験	平成21年7月4日	25人
第3回	講義：弥生時代の石器 実習：磨製石包丁製作体験	平成21年9月19日	25人
第4回	講義：弥生時代の収穫 実習：弥生時代の収穫体験	平成21年11月1日	25人
第5回	講義：弥生時代の集落と住居 弥生時代のマツリ	平成22年1月16日	24人
第6回	岡山大学考古学資料館見学	平成22年3月6日	21人

会場：県陸上競技場3階会議室・控室、津島遺跡&スポーツミュージアム、津島やよい広場、岡山大学考古学資料館  
リ 津島やよい体験教室

名 称	内 容	期 日	参加者数
第1回	がイダンス：弥生・古墳時代の織物 体験：原始機による機織り体験	平成21年6月20日	25人
第2回	がイダンス：弥生土器の種類と変遷 体験：弥生土器製作体験	平成21年10月3日	29人

会場：県陸上競技場3階控室、津島遺跡&スポーツミュージアム



<体験学習の様子>



- エ 総合的野外文化教室「津島やよいまつり」平成21年10月31日～11月1日  
復元された竪穴住居及び掘立柱建物の公開  
勾玉づくり、火おこし、もみすり、土器にさわる、土器づくり、文様付け体験  
遺跡&スポーツミュージアム見学 参加者787人
- オ 津島やよい広場の見学 (12小学校 742人)

#### (ウ) 吉備の国文化遺産活用事業

##### ア) みんなで楽しもう！民俗芸能

平成21年11月8日に建部町文化センターで「おかやま子ども民俗芸能大会」を開催し、子どもたちによる民俗芸能の実演発表を行った。横仙歌舞伎こども歌舞伎教室による横仙歌舞伎等5団体が出演し、約650人が参加した。

##### イ) 「おかやまの文化財」刊行事業

文化財の一層の活用を図ることを目的とし、WEBページにて、平成19年度から3箇年にわたり、県内の国・県指定（登録）文化財の情報を計画的に掲載を行ってきた。平成21年度には、美術工芸品の掲載情報を作成し、すべての国・県指定（登録）文化財情報を掲載した。

##### ウ) 吉備の国ジュニア歴史スクール

岡山県の歴史と文化にかかわる児童向けテーマを設定し、そのテーマにかかわる史跡等をバスツアーにより一日で集中的に見学した。また、博物館でのマナー学習、館内展示資料やバックヤードの見学、学芸員からスライドや実物資料を用いての授業を受け、郷土の歴史学習の成果をまとめ、博物館と学校の連携を図った。古墳コース・備前刀コース・高瀬舟コースの3コースで、147人が参加した。



館内授業の様子

##### エ) 岡山・島根文化交流事業「古代出雲展－国宝青銅器の世界－」

島根県との文化交流事業1年目に当たり、古代出雲歴史博物館から、国宝に指定されている荒神谷遺跡と加茂岩倉遺跡出土の青銅器を借用し、古代吉備の青銅器と合わせ、古代青銅器の世界を紹介し、古代出雲の歴史と文化に触れる機会を提供した。期間中に、中学生以下を対象としたミニ銅鐸<sup>どうたく</sup>作成体験やボランティアによるガイドを実施した。平成22年1月5日から2月7日までの展示期間中で、6,124人が参加した。

#### (イ) 「甦る！古代吉備の国～謎の鬼ノ城」調査事業

平成21年7月から12月にかけて、古代山城鬼城山（総社市）の城内東部3か所の確認調査を実施し、その様相を明らかにし、併せて調査を活用し県民の文化財保護意識の向上を図った。

#### (オ) 文化財情報の発信

##### ア) 文化財地図情報システムの公開

岡山県全域の文化財情報をインターネットで公開した。

(公開データ 国・県指定文化財情報：約700件、遺跡情報：約22,000件)

##### イ) 県立博物館デジタルミュージアムの公開

インターネット上で、資料の紹介、検索サービスを提供した。また、歴史クイズ・読み物のコーナーで岡山県の歴史と文化を学習できるコンテンツの充実を図った。

(公開データ 考古分野：637件、美術工芸分野：1,166件、文書分野：4,267件、民俗分野：6,261件)

## ウ 文化財保護推進体制の整備

### (7) 市町村文化財行政担当者会議

平成21年6月30日、岡山県立図書館で平成21年度市町村文化財行政担当者会議を実施した。県・国の事業の概要及び手続等、実務中心の研修を行い、県下の文化財保護行政の実務の充実を図った。

### (イ) 文化財研修会

平成21年6月25日、県立図書館において、県開発担当部局担当者等を集め、研修会を実施した。

## 評価

文化財の保存と活用については、貴重な文化遺産の適切な保護・保存を進めるとともに、文化財の公開や史跡の整備など積極的な活用を通じて、文化財への理解と関心を高めた。

- ・県内に所在する文化財の把握と価値付け等を行うため、文化財に関する調査・研究を進めるとともに、適切な文化財の指定や保全を図るなど、主要な遺跡や建造物等の保存・継承を図る必要がある。
- ・社会情勢の変化などにより、地域の祭り等伝統行事の保存・継承が困難になりつつある状況などを踏まえ、子どもたちをはじめ、より多くの県民が「吉備の国」の文化遺産に触れ、学び、親しむことができる機会の充実に努め、その確実な継承と積極的な活用を図っていくことが必要である。
- ・子どもたちを中心とした民俗芸能団体に発表の場を提供し後継者の育成に努めるとともに、平成21年度からオープンした「津島やよい広場」において、体験学習や公開講座等を開催し津島遺跡についての理解・関心を高めた。
- ・県立博物館では、学校と連携し古墳をテーマにした歴史スクールを開催するとともに、島根県との文化交流展や「昭和のくらし展」の開催など、県民に愛される博物館となるよう展示活動の充実等に努めた結果、入館者数の大幅な増加を図ることができた。
- ・今後も、博物館活動の充実や、発掘現場等の公開・活用を促進して文化財を理解し、親しむ機会の充実が求められる。

## 参考数値

### ○登録文化財の登録件数 [出典：県教育庁文化財課調べ]

目標値 (H24.3)	実績値			
	H18	H19	H20	H21
250	148	167	208	232

(単位：件)

### ○主な県立公開施設の入場者数の推移 [出典：県教育庁文化財課調べ]

	H18	H19	H20	H21
旧閑谷学校	126,383	151,052	163,274	140,061
県立博物館	42,506	45,144	40,530	53,002
吉備路郷土館	14,485	13,512	13,474	14,097

(単位：人)

### Ⅲ 点検・評価に関する有識者からの意見及び教育委員会の考え方

岡山県教育委員会の事務の管理及び執行の状況についての点検・評価について、岡山大学大学院教育学研究科の淵上克義教授、国立教育政策研究所教育政策・評価研究部の葉養正明部長及び株式会社イマシロの今西通好代表取締役会長に御意見を頂きました。

#### 淵上克義（岡山大学大学院教育学研究科教授）

##### 1. 活動状況と教育委員会について

報告書では、現代の教育行政に関する課題について、あらゆる角度からほぼ包括的に取り組まれた状況が記述されており、各課題ごとに絶えず結果をフィードバックしながら、各種委員会等において慎重な議論が積み重ねられており、現実の改善に向けた試みがなされていることが認められます。また事務局の提案する施策について、教育委員会審議でどのような意見が交わされて、それらの意見がその後の施策にどのように反映されているかが明確に書かれてあり、教育委員会が一定の役割を果たしていることが認められます。その上で個別の施策に対して気がついた点を指摘したいと思います。

##### 2. 個別の施策・事業について

①近年岡山県にとって、学力向上の問題は極めて重要な課題であり、これまできめ細かな指導体制の確立や教職員の指導能力の向上のために意義ある事業が実施されてきましたが、学力向上には家庭教育や子どもの学習意欲、ないしは交友関係なども深い関連性があることがわかってきました。このように考えると、例えば学力や心の教育をキーワードとした家庭（地域）教育と学校教育の連携事業など領域間の関連性をもたせた事業などの必要性を強く感じました。

②現在の学校における教職員は、多忙な中、日々の教育活動に従事しています。ともすれば疲弊しがちな教師が心身ともにゆとりをもって、充実感を抱きながら、日々の職務を遂行していくことが重要だと思います。したがって教職員が意欲を持って職務を遂行できるような学校環境づくりが急務であり、これに関する施策や事業のさらなる展開を望みます。

#### ○教育委員会の考え方

- 次代を担う子どもたちを育てていくためには、学校関係者はもとより、家庭、地域住民、ボランティア・NPO、企業など多様な主体と行政が一体となって取組を進めていくことが不可欠であると考えています。そうした取組を進めるため、現在、「学校支援地域本部」や「放課後子ども教室」、「夢さがしの旅」（P.29参照）などの事業を行うとともに、「おかやまっ子の確かな学びをつくる10のメッセージ」を作成し、学校はもとより、家庭や地域に呼び掛け、一体となった取組を推進しているところです。今後は、学校教育内外への支援や家庭教育への支援を効果的に組み合わせながら、地域社会全体で子どもの学力向上や豊かな心の育成を図る取組の一層の充実に努めてまいりたいと考えています。
- 学校教育が抱える課題の複雑化・多様化に対応するために、組織的・機動的な学校運営が行われるよう、平成21年度から新たな職として副校長、主幹教諭、指導教諭を配置し、学校の組織運営体制や指導体制の充実を図っています。また、平成20年度から教員の勤務負担軽減と子どもと向き合う時間の確保に向けた調査研究を行っており、平成21年度は、学校現場の負担を増大させている要因について研究協力校で課題解決のための具体的な取組の在り方を研究しました。また、教育庁内ワーキング会議を新設し、行政の側からも、学校現場の負担を軽減するための具体的な方策について調査研究を行いました。そして、これらの研究成果を冊子にまとめ、県内のすべての学校に配付し、それを参考にして各学校での取組をお願いしているところです。今後も、職員の士気の確保や仕事と生活の調和等を図るため、より一層効果的な取組を検討する必要があると考えています。

岡山県教育委員会の所掌事務は網羅的体系的なものになっており、ほぼ過不足ない取り組みになっているように見受けられる。また、「平成22年度 教育委員会事務の点検・評価に関する報告書（案）」を見ると、平成21年度版で提出されていた学識経験者等の意見を踏まえ、個別施策の「評価」の後に参考数値を導入する工夫がこらされている。所掌事務全体を見ると、岡山県教育委員会の活動状況は十分に合格点をつけられる水準にあるように思われる。

＜岡山県教育委員会の取り組みについて＞

全国各地の教育委員会の課題としては、協議の活発化、審議の実質化があげられている。それは岡山県教育委員会の場合でも同様であると思われるが、この点を意識してか、個別施策の個所に「教育委員会での主な意見」欄を設けている。平成21年度版と比べると、平成22年度版では教育委員会の活動状況がよくわかるようになった。良い工夫だと思う。

また、平成21年度には「岡山県教育振興基本計画」および「岡山県教育行政重点施策」が策定されているが、それも平成22年度版を分かりやすいものにするのに大きく寄与している。平成21年度の教育行政重点施策としてあげられる「確かな学力の向上」と「豊かな心の育成」は、全国学力・学習状況調査に基づく本県の実態や国・公・私立学校における不登校の発生状況の本県の実態などを踏まえると極めて重視すべき点である。それに率直な目を向けていることは高く評価できる。

＜個別の施策・事業について＞

上述のように、平成22年度版では、本県の児童生徒の課題や弱点がデータとして明示され、それに対応するための「重点施策」が提示されている。

行政施策が網羅的であるというのは、一見すると「よくやっている」という感想に結びつくが、半面、何が課題で、施策の重点がどこにあるか絞りきれられていない、ということになる懸念もある。個別施策の重点課題として、学力や不登校を率直に描き出しているのは、その点では大きな前進である。本県の子どもの課題、実態を真正面から見つめ、どのような施策がもっとも効果的か、という観点、姿勢は、今後も引き続き保持し、強めていってほしい。各地で、特別支援教育の対象となる子どもが増加する現象が現れており、その点についても今後ともきめ細かな施策を講じてほしい。

## ○教育委員会の考え方

- 昨年度末に策定した「岡山県教育振興基本計画」においては、「確かな学力の向上」、「豊かな心の育成」、「特別支援教育の推進」、「子どもたちの夢や目標の実現」の4つを、今後5年間で重点的に取り組むべき施策と定め、今年度からその推進を図っているところです。来年度（平成22年度対象）以降、「教育委員会事務の点検・評価」を通じて、この「計画」の進捗状況の確認を行うこととしており、これにより、計画・実行・評価・改善のサイクルをより分かりやすいものとし、次年度以降の施策の重点化や改善等に資するよう、今後とも努めてまいりたいと考えています。
- 教育上特別な支援を必要とする児童生徒の増加に対しては、これまでも平成19年度には小・中・高等部のある特別支援学校を1校、平成21・22年度に高等部単独の特別支援学校を1校ずつ開校するとともに、このたび平成26年度を開校目標とする小・中・高等部のある特別支援学校の新設を決定しました。さらに、既設の特別支援学校についても、増築や改築、分教室の設置を行うなど教育体制の整備に力を注いでまいりました。また、小・中学校においては平成22年度に特別支援学級の更なる増設を行ったところです。今後とも、平成21年に策定した「岡山県特別支援教育推進プラン」に基づき、全県的視野に立って特別支援教育体制の整備を進めてまいりたいと考えています。

## 今西通好（株式会社イマシロ代表取締役会長（岡山経済同友会））

平成21年度に続いて拝見する限り、生涯学習、家庭・地域社会の教育力、学校教育とくに高等学校、教育指導力向上、子どもの学習意欲を促す授業改革等に着実な進展が見えることは評価できる。年度末には10年先を見通した「岡山県教育振興基本計画」も策定されており本県教育振興策のより総合的かつ計画的な推進が期待される。

その上でいくつかの課題を指摘したい。

- 1 岡山県なりの特色ある施策として、家庭の教育力での「わが家のすこやか日記」に続いて学校・家庭・地域社会の連携強化に向けた「おかやまっ子の確かな学びをつくる10のメッセージ」はいずれも高く評価したい。とくに読書の習慣、「夢さがしの旅」、団体活動の育成・充実などは、子どもたちがもつ本来の学習意欲、実感、自立心を養う上にも多大な効果が期待される。ぜひ県民全体のライフスタイルにまで高めて全国に発信したい。ただし、この場合も父親の積極的参画とそれを容認する産業界の意識改革が要件。
- 2 教育委員会による現場、とりわけ学校、地域の実態把握のための視察、懇談等はともすれば周到に準備された「儀式」と化して必ずしも本来の目的を果たせていないと思われる。切実な問題を抱える教員や母親たちの「生の声」を聴くいっそうの工夫が急がれる。
- 3 個々の学校運営の成否の要である校長・教頭には優れたリーダーシップ、人事、会計、行政手腕など一定のマネジメント能力が求められる。産学とも連携して学校経営について学習機会を設け、その履修を登用の要件に加えることも検討されてよい。

### ○教育委員会の考え方

- これまでに、家庭の教育力を高めるための施策を総合的に推進してきましたが、子育ての不安や負担を感じる保護者が増加してきている現在、ワーク・ライフ・バランスを含め家庭教育に関する学習講座を企業等で実施するなど、これまで以上に各種機関や団体、企業等との連携を深め、きめ細かに家庭教育を支援する取組を充実してまいりたいと考えています。
- 県が教育行政を推進する上で関係者の「生の声」を聴くことは、重要なことであると考えています。そのため、教育委員については、小・中・高等学校教員や地域の方々などと「意見交換会」を行うとともに、指導主事、社会教育主事等の教育委員会事務局職員についても、学校等を訪ねて意見を聴き、現場の実態を踏まえた指導・助言を行っているところですが、今後も、様々な意見を伺うことができるよう、実施内容の一層の工夫・改善に努めてまいりたいと考えています。
- 学校経営を実効性あるものにするためには、マネジメントの手法を取り入れるという視点は大切であると考えており、悉皆研修の「新任校長研修」や「校長全員研修」において学校組織マネジメントに関する研修を大学教授や民間企業関係者を講師として実施しているところです。また、管理職登用前の一般の教員についても、学校組織マネジメントに関する研修の機会を設けており、管理職選考に当たってはそういった適性・能力も判断材料の一つとしているところです。当面、こういったことを通じてマネジメント能力を身に付けさせるよう努めてまいりたいと考えています。

意見を頂いた学識経験者

職 名	氏 名
岡山大学大学院 教育学研究科 教授	淵 上 克 義
国立教育政策研究所 教育政策・評価研究部部長	葉 養 正 明
株式会社イマシロ 代表取締役会長	今 西 通 好

岡山県教育委員会委員（平成22年3月31日現在）

職 名	氏 名
委員長	松 田 欣 也
委員長職務代理者	橋 本 信 子
委員長職務代理者	高 橋 香 代
委員	大 原 謙一郎
委員	中 島 義 雄
委員兼教育長	門 野 八洲雄

(参考資料)

## 1 地方教育行政の組織及び運営に関する法律（昭和31年法律第162号）抜粋

(教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等)

第27条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（前条第1項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第3項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。）を含む。）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

## 2 条例、規則等の制定・改廃

平成21年度に制定改廃された教育関係の条例、規則等は次のとおりである。

### (1) 改正された条例、規則等

#### 【条例】

日付	題名
21. 9. 30	岡山県健康の森学園条例の一部改正
	岡山県立特別支援学校設置条例の一部改正
	岡山県立高等学校授業料徴収条例の一部改正
	岡山県立学校入学選抜手数料、入学金及び各種証明手数料徴収条例の一部改正
	岡山県立博物館条例の一部改正
	岡山県立吉備路郷土館条例の一部改正
21. 11. 30	岡山県職員給与条例の一部改正
	岡山県職員特殊勤務手当支給条例の一部改正
	岡山県県費負担教職員の給与等に関する条例の一部改正
	義務教育諸学校等の教育職員の給与等に関する特別措置に関する条例の一部改正
21. 12. 22	岡山県立高等学校設置条例の一部改正
22. 3. 17	岡山県立学校施設使用料徴収条例の一部改正
	岡山県立博物館条例の一部改正
	岡山県生涯学習センター条例の一部改正
	岡山県立図書館条例の一部改正
	岡山県青年の家条例の一部改正
	岡山県立学校授業料徴収条例の一部改正
	岡山県立高等学校通信教育入学金及び受講料徴収条例の一部改正

#### 【規則等】

日付	題名
21. 9. 30	岡山県立高等学校授業料減免に関する規則の一部改正
	岡山県立中学校及び高等学校の通学区域に関する規則の一部改正
	岡山県教育委員会事務局の組織及び事務分掌規則の一部改正
	岡山県立高等学校通信教育規則の一部改正
	岡山県立学校の管理運営に関する規則の一部改正
21. 3. 17	岡山県青年の家条例施行規則の一部改正
	指定管理者の指定の申請等に関する規則の一部改正
22. 3. 31	岡山県立学校の管理運営に関する規則の一部改正
	岡山県立高等学校通信教育規則の一部改正
	岡山県総合教育センター規則の一部改正
	岡山県生涯学習センターの組織及び事務分掌規則の一部改正
	岡山県立図書館の組織及び事務分掌規則の一部改正
	岡山県立博物館の組織及び事務分掌規則の一部改正
	岡山県古代吉備文化財センター規則の一部改正
	岡山県教職員健康診断審査規則の一部改正
	岡山県教育委員会職員の職の設置に関する規則の一部改正
	岡山県教育委員会公印の寸法及び管理に関する規程の一部改正
	岡山県教育委員会の権限に属する事務の一部委任等に関する規則の一部改正

	岡山県特別支援教育就学指導委員会に関する規則の一部改正
	岡山県教育委員会事務局の組織及び事務分掌規則の一部改正

(2) 制定、廃止された条例、規則等

【条例】

日付	題名
21. 6. 30	岡山県高等学校授業料減免事業等支援臨時特例基金条例の制定
21. 9. 30	岡山県立中等教育学校設置条例の制定
22. 3. 17	岡山県立吉備路郷土館条例の廃止

【規則等】

日付	題名
22. 3. 17	岡山県立吉備路郷土館条例施行規則の廃止
22. 3. 31	岡山県立学校授業料徴収条例施行規則の制定
	岡山県立高等学校通信制課程入学金及び受講料徴収条例施行規則の制定
	岡山県高等学校貸付奨学金貸与規則の廃止